

俳諧年表

087337-000-1

911, 3032-M155h

俳諧年表

牧野 望東

星野 麦人 著

M34

DBE-0625



911.3032  
M155h  
R



角田竹冷関

牧野望東  
星野麥人

共著

俳諧の年表

東京 博文館 蔵版

一般資料

ISSEIDO  
印

角田竹冷関

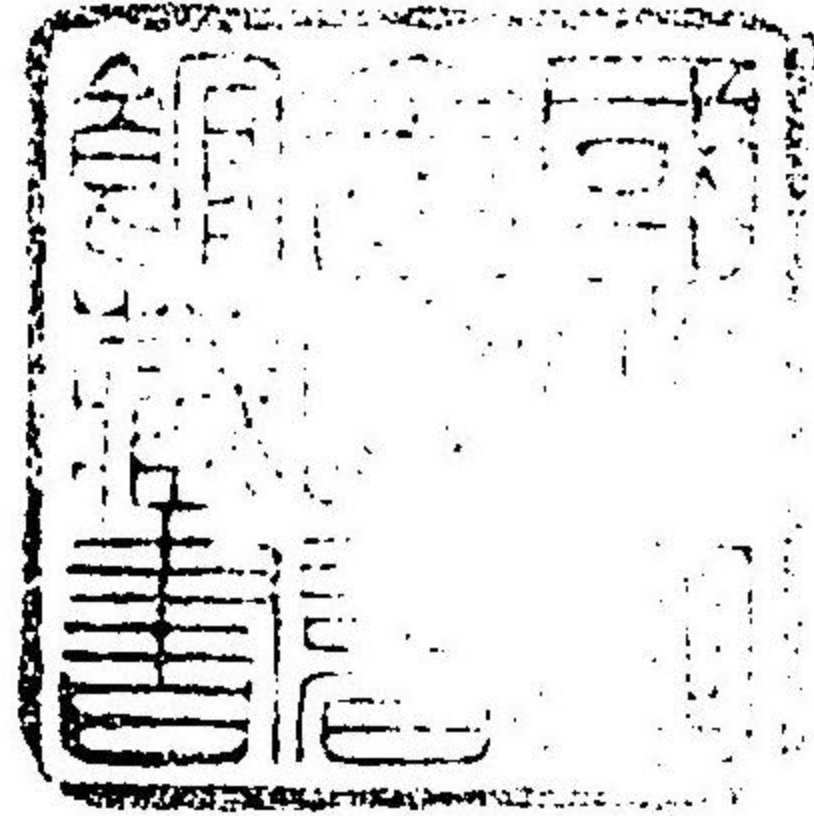
牧野望東  
星野麥人  
共著

俳諧乃集念

東京 博文館 蔵版

一般資料

911.3032 M155h



例言

- 一本書は延徳元年より明治三十四年に至る迄四百十三年間世に知らるゝ俳人及び之に關する著明なる事蹟等は大方之を網羅せり。
- 一本書に收むべき名家にして生歿年の詳かならざるもの數あり之を擧げんに其地なれば追て事實を得るの日を待ちて加ふる事とせり。
- 一享年月歿年月等に諸説あるものは最も眞に近しと考ふるものを擧げ餘は括弧中に收めて參考に供し大方の教へを待つ事とせり。
- 一一世ありて二世詳かならずしかも三世四世のあるものあり中には一二世なく突然三世を詳かにするものあり是等は強て推測を以て掲ぐる事を爲さず據所あるものは順序に拘らす得るに従つて載する事とせり。
- 一歿年に諸説ありて一定し難きものは其生年を載せざる事とせり。
- 一歿せる場所に付國名郡名なく只村名のみあるものあり他日國郡名を知るの緒ともならんかと村名のみにて掲ぐる事とせり。
- 一俳號ありて姓氏の知れざるものあり後の參考の爲めに其歿年をも掲ぐる事とせり。
- 一俳諧を専らせざりし人は名家と雖も只歿年月のみを掲ぐる事とせり。
- 一身分の上に薨卒歿等の區別を爲すは古來の例なるも本書は所謂俳諧年表たり故に一概に歿とせり。

例言



300436

- 一 本書に歿年索引を附し俳號に據り其歿年を知るの便にせり。
- 一 歿年索引は普通に稱呼せるものゝみを記す例せば芭蕉として桃青風羅坊等を載せざるが如し俳號別號及び書名等の詳細なる索引は實に一事業なれば追て別に編著する事とせり。
- 一 俳諧は連歌より出てしものなれば年表中其紀原沿革等を知らしむる爲め連歌師及び連歌の書名を少しく掲げたるも俳諧漸く盛んになりて以來は一切之を除く事とせり。
- 一 事蹟見出しの中支考とし連二と爲しその女とし智鏡尼と爲して其當時専ら用ゐし所を掲ぐる事とせり。
- 一 俳書は刊行せる年の下に擧ぐるを以て定規となせ共編成、刻成の別あり再版、三版のものあり實に確めかたき節中くくに多し暫く信する所を掲げて他日の攷索を待て正す事とせり。
- 一 版行のいぶかしきもの又は現に存するものゝ年次詳かならざるもの等は掲げざる事とせり。
- 一 讀者の見易からんが爲め左の符號を以て類別せり
  - 生
  - 歿
  - ◎ 事蹟
  - ▲ 書籍
- 一 時代を知るの便として天皇の踐祚、改元、將軍の宣下等には●の符號を爲し之を知らしむる事とせり。

- 一 邇推の年數を記して明治三十四年より生歿年等の何年目に相當するやを知るの便とせり。
- 一 本書を著す爲め斯道の先輩紅葉、松宇、雀志三大人の助言を受けしは多とする所なり。
- 一 竹冷先生には數年間著作に付指揮監督を受けしのみならず實に數月を費し大に改削増訂し之を校閱完了せられしは深く謝する所なり。

明治辛丑晩秋

著 者 識

俳諧年表引用書目

- 大日本野史
- 人名辭書(第四版)
- 俳諧大系圖
- 俳諧人物便覽
- 增補俳諧人物便覽
- 俳諧家譜
- 俳諧家譜拾遺
- 俳諧家譜後拾遺
- 與謝蕪村
- 俳人一茶
- 俳諧名家全傳
- 俳諧名家列傳
- 俳諧名譽談
- 俳諧史傳
- 俳家系譜
- 帝國人名辭典
- 名人忌辰錄
- 葛飾分脈圖
- 葛飾正統系圖
- 萬國人名辭書
- 俳家奇人談
- 續俳家奇人談
- 江戸作者部類
- 俳林小傳
- 思ひよる日
- 人物早引故事
- 晋子一傳錄
- 芭蕉翁正傳
- 芭蕉翁繪詞傳
- 俳諧水滸傳
- 歌俳百人傳
- 芭門頭陀物語
- 芭蕉翁行狀記
- 俳人百家撰
- 家雅見種
- 蕉門諸生全傳
- 寶藏
- 倭漢田鳥集
- くまなき影
- 諸公畫讚
- 俳諧細見記
- 俳諧人名錄
- 俳諧百哲傳
- 芭蕉翁一代鏡
- 芭蕉翁反古
- 芭蕉翁略傳
- 海內人名錄
- 本朝人物叢傳
- 三國人名牒
- 英哲年齡便覽
- 肖像集
- 天保中名家評判記
- 隱逸全傳
- 雜書撰者小傳
- 諸國俳人通名錄
- 近世畸人傳
- 續近世畸人傳
- 近世畸遊傳
- 戲作者撰集
- 京攝戲作者考
- 近世佳人傳
- 日本文人傳
- 北村季吟傳
- 俳諧傳系(寫本)
- 採菊晦筆(寫本)
- 泉陽作者部類
- 江戸文學志略
- 戲曲小說通志

- 俳諧百人一首
- 井原西鶴
- 北村季吟
- 墓所一覽
- 俳家逸話
- 俳諧人名錄三編
- 露川退善集
- 名家略傳
- 高名代言人列傳
- 武江年表
- 文學者年表
- 俳諧道の杖(寫本)
- 俳士年表(寫本)
- 紀年大成
- 帝王年表
- 泰平年表
- 新撰年表
- 史籍年表
- 和漢年契
- 年代略表
- 萬榮重寶年代記
- 連俳小史
- 俳諧史談
- 名家年表
- 國史便覽
- 晋其角
- 天水抄
- 江戸砂子
- 鳥山彦
- 綾錦
- 蕉風俳諧變化表
- 俳諧通俗志
- 俳諧故事談
- 俳諧遊覽志
- 先哲年表
- 日本大文學史
- 人物年表
- 越中史略
- 奥の細道
- 日本行脚文集
- 薙髮集
- 有米廻記
- 更科紀行
- 松島紀行
- 夢中行脚記
- 紙魚日記
- 陸奥日記
- 貞徳永代記
- 俳諧袋
- 俳論
- 諸國翁墳記
- 熱田日記
- 伊勢紀行
- 木曾の麻衣
- 金澤紀遊
- 是空俳話
- 獺祭書屋俳話
- 隨齋諧話
- 俳諧南北新話
- 俳諧十論衆議
- 雜談集
- 新雜談集
- 友かゝみ
- 俳諧通言
- 芭蕉談
- 續五論
- 桃の首途
- 湖東問答
- 滑稽太平記
- 稻ふね
- 俳懺悔
- 三十捧

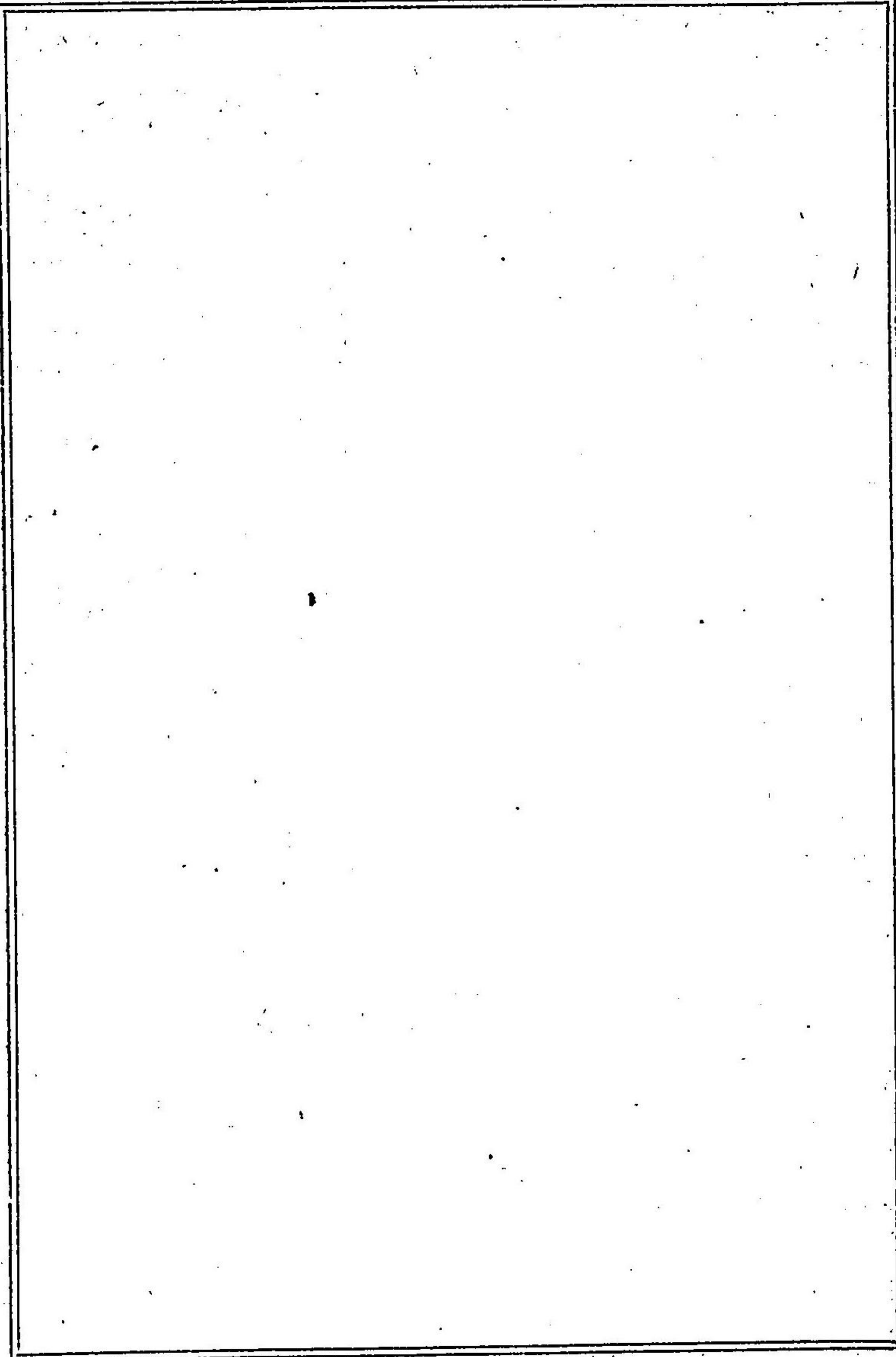
- 推本先生語類
- 十論裸問答
- 正風論
- 清話抄
- 二十五ヶ條
- 星月夜集辨難
- 賀文臺俳話
- 白陀羅尼
- 物見塚記
- 太夫新話
- 高尾考
- 戴恩記
- 絶燒錄
- 蓮二露川へ送書翰
- 笈の小文
- 満壽鏡
- 雜話抄
- 阿難話
- 東華集
- 西華集
- 俳諧文庫
- 俳諧叢書(醜刻集)
- 俳諧叢書
- 松屋叢書
- 嬉遊笑覽
- 本朝世事談綺
- 一話一言
- 消閑雜記
- 幽遠隨筆
- 獨語
- 橘庵漫筆
- 梅園日記
- 賤のちた巻
- 我が衣
- 窓のすさび
- 理齋隨筆
- 長頭丸隨筆
- 三養雜記
- 和漢三才圖會
- 袖そらし
- 桔尾花
- 兎園小説
- 足薪翁の記
- 燕石雜志
- 燕石十種
- 閑散餘錄
- 閑窓瑣談
- とはずかたり
- 泊々筆話
- 俳諧用捨箱
- 雨窓閑話
- 四方の硯
- 隣女語言
- 鹽尻
- 宮川舎漫筆
- 享雜の記
- 南畝秀言
- 老の樂
- 翁草
- 耳底記
- 櫻の首途
- 睡餘小錄
- 折々草
- 假名世説
- 牛馬問
- 曲亭漫筆
- 近世奇跡考
- くせものかたり
- 蜘蛛の糸巻
- こかねくさ
- 骨董集
- 還魂紙料

- 俗耳鼓吹
- 屠龍工隨筆
- 難波江
- 後は昔物語
- 奴風
- 柳庵雜筆
- 柳亭記
- 柳亭筆記
- 羈旅漫錄
- 藤の首途
- 桃の首途
- 雅遊漫錄
- 耽奇漫錄
- かた反古
- 老人雜誌
- 事實文編
- 鞞隨筆
- 亭々筆記
- 枇杷園隨筆
- 俳諧世説
- 先哲叢談
- 百家説林
- 温知叢書
- 日本文庫
- 逸話文庫
- 故花庵備忘録
- 風聞集
- 新著聞集
- 萬の文反古
- 浪花かた
- 花街漫錄
- 玉池雜藻
- 蕉句双説
- 三草子
- 風俗文選
- 枯尾花
- 梧一葉
- 葛の松原
- 俳諧糸切齒
- やきあろし
- 金蘭集
- 俳諧職業盡
- 俳諧職人盡
- 早稻田文集
- 早稻田文學
- 太陽
- 人名考
- 堺鑑
- うらみの介
- 攝陽群談
- 芭蕉翁手鑑
- 千紅萬紫
- 半面
- 諸家著述目錄
- 俳諧書籍目錄(寫本)
- 國書解題
- 日本書籍考
- 群書一覽
- 秋の聲
- ほととぎす
- 山吹叢誌
- 近代名家著述目錄
- 不忍文庫書目
- 常盤園藏書目錄
- 新刻書目便覽
- 出版書目月報
- 共益貸本社書籍目錄
- 内閣文庫目錄
- 帝室圖書目錄
- 帝國圖書館藏書目錄
- 帝國大學書目錄
- 小説家著述目錄

- 淺草文庫書目解題
- 俳諧明倫雜誌
- 帝國文學
- 新小説
- 書籍總目錄
- 增益書籍目錄大全
- 南畝文庫藏書目
- 廣益書籍目錄大全
- 書林栞
- 沙獵書籍考
- 聽雨窓書目
- 雪操居俳書目錄
- 讀賣新聞
- 毎日新聞
- 日本新聞
- 報知新聞
- 俳聲
- 見ぬ世の友
- 文藝俱樂部

▲此外参考の爲め播閱したる俳句集、歴史傳記、叢書、隨筆、目錄、雜書等舉て教ふべからず今一々之を記さず、





歿年索引

表中併號の頭字西、二、六萬等の如く音訓漢吳兩音の疑はしき者は概ね世間の慣稱に従ひ漢  
或は吳等の一所に出す故に看者一所に索めて得されば更に他の一方を搜索されたし

一一	安	關	篤	安	安	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤	篤
雪村	あ	靜	齋	信	山	居	笠	子	斌	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子	子
〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱
笑	中	的	齋	元	平	品	然	蜂	蝶	峰	我	扇	止										
〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱										
酉	四	志	右	渭	有	移	因	山	又	以	祐	祐											
〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱										
友	巢	峨	茶	之	悠	有	惟	一	悠	悠	誓	誓											
〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱										
〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱	〱										

あ、い

可 蒙 昔 葛 可 寒 龜 可 可 嘉 佳 敲 可 佳 康 歌 霞 可  
樂 山 雅 三 里 泉 二 麓 因 栗 山 石 靜 夕 工 川 樵 焉

三〇 三〇 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六

閑 海 香 江 夏 可 角 香 甘 笛 香 佳 甘 荷 夏 阜  
蟬 舟 波 左 靜 尊 丈 芸 海 言 以 節 志 少 口 鳩

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三

祇 吟 儀 琴 曲 其 菊 許 其 喜 季 去 舊 舉 吟 玖 魚 玖  
空 竹 九 風 翠 甲 所 六 角 雲 吟 來 旅 白 市 也 江 山  
一世

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三

金 几 虛 舊 祇 几 紀 錦 龜 祇 去 希 金 吟 琴 其 其 宜  
映 山 舟 室 丞 圭 逸 江 成 德 音 因 毛 松 所 蒼 諺 阿  
二世

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三

羽 雲 雲 一 有 爲 爲 意 有 以 一 又 右 有 逸  
紅 堂 鼓 草 柳 流 山 志 終 長 朗 々 通 一 淵

二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六 二六

永 袁 嬰 榮 延 猿 越 羽 雨 宇 雨 雨 雲 雲 雲  
年 丁 利 春 清 雖 人 同 塘 橋 考 柳 房 鈴 峰  
九(系)

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三

乙 乙 應 乙 乙 大 應 乙 鬼 應 圓 英  
羽 彥 々 女 二 因 江 隨 由 貫 山 を 朝 舍  
九(五)

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三

竿 嘉 葛 耕 鶴 角 海 黃 鶴 何 歌 甘 佳 河 介 我 好 可  
秋 貞 才 山 人 上 德 山 步 處 鳥 谷 風 東 我 黑 春 全

三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三 三三

い、え、た、か

二

4

三



紫居	三升	窓巴	巢兆	莊丹	左交	巢鶯	巢石	草延	杉延	蒼虬	西馬	三正	蒼山	左籬	左籬	桑古	壯山	
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	
採花女	志	休	叱	琢	倪	春	清	三	春	如	昌	昌	昌	常	昌	昌	信	子
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
春帆	似	昌	松	秀	春	助	常	如	尚	朱	秋色	松	晉	昌	仍	自	松	
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	
支考	朱	春	二	松	信	秀	市	常	信	春	松	倭	淳	昌	拾	之	晉	
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	

七

厚佐	湖十	午寂	湖十	鞍山	湖元	古道	吳井	吾桂	五始	五建	湖中	湖十	五竹	吾山	五株	孤桐	五流
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
湖	吾	五	吳	五	吳	虎	午	壺	五	公	湖	五	護	苟	五	吾	孤
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
五	弘	五	顧	五	護	五	吳	古	三	西	西	三	才	暫	西	才	才
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
暫	支	殘	西	杉	才	宰	三	三	三	桑	才	再	再	草	山	左	左
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇

六





てきな、の、は

徳元	と	釣月	湖水	鳥岳	鐵齋	田女 <small>杜子</small>	天姥	天老 <small>二世</small>	鳥醉	鳥明	蝶夢	天水	貞右	田女 <small>谷口</small>	貞柳 <small>三世</small>		
六		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
吐月	杜川	鈍永	董水	東羽	冬嶺	都牛	東涯	杜芳	杜若	桐陰	同水	桐葉	得入	等躬	東順	杜國	藤樹
四	四	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
な		等栽	兔玉	得蕪	杜鶯	屠龍	篤老	土卵	篤志	東瓦	斗入	東江	杜口	東水	都雀	冬映	
		三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三
は		野菊	能順		二柳			何丸	南臺	南溪	南架	南郭	南翁	成丸			
		四	三		三			三	三	三	三	三	三	三			

一三

ちつて

智輪	竹阿	丈可	親和	榜頁	丈石	澄里	千代尼	知石	知木	竹平	丈竹	暢好	池庵	竹翁	智月尼	知足	丈草		
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
椿岳	聽松	知泰	竹二	丈翠	竹城	丈河	雉啄	知足	長成	椿堂	叙來	榜堂	長翠	遲月	千羅	遲竹	重厚		
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三		
真兼	定之	貞因	貞木	貞香	定門	定室	貞徳	貞徳		月彦	恒九	常信	露坊				竹露		
天	三	三	三	三	三	三	三	三		三	三	三	三				三		
鐵舟	蝶之	鳥醉	貞扇	貞佐	貞和	調水	貞原	貞山	貞峨	蝶羽	超波	貞柳	貞佐	貞子	貞爲	貞堤	貞調	貞富	貞恕
三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三	三

一三

冰眉美百百飛百百冰 梅甫芳梅梅  
壺山丸花萬頁合里固 逸洲嶺兄

三 八 一 老 四 四 一 四 六 六 三 三 三 三 三 三 三

賦賦二普文風不不文文文風浮風風不  
泉雪日坊求鳴狀覺角輪雅山虎生和國卜 心

一 亮 一 亮 三 三 三 三 一 六 一 六 一 〇 三 三 三 七 七 天 四

普澄復普文芙蓉布不武文風不佛蕪浮文風文  
門水古成一蓉舟白然坊母馬言仙村流麗律也

一 六 一 六 一 六 一 六 一 六 一 六 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇

平米鞭米鞭 文文富符物不風物風文風  
砂仲九史石 器河水舟外染光外外晁谷  
一世 西川 吉村

一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇

一五

一四

芳白白巴白晚攀晚方半白梅馬芭馬盤白望  
室鶴峰人雪年高山山殘雲盛佛蕪筵話一

一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇

寶髮晚梅買麥萬班柏波白梅馬馬芳盤白破  
馬々得應明水英象筵光露應光貞全谷翁笠  
二世 一世 二世

一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇

羅麥梅方白白白麥梅萬巴博半梅白白萬巴  
齋宇翁明芹詩坊其宇里嶽大和輪人圖居成江  
京都 江戶

一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇

八芳半柏梅梅梅抱萬晚梅馬伯梅萬春馬  
巢草海明州通笠儀古雨室琴夫價里樹佛

一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇 一 〇

一四

一五



野野野野野保也八野野 默默木毛奎  
井鶴逸人雄吉有彦坡水や 平池公孔網

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

嵐浪嵐嵐 米義吉 雄夕  
雪化蘭戎ら 彦質野よ 淵霧ゆ

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

嵐浪羅嵐羅嵐闌欄羅蘭來羅嵐羅蘭來來  
牛分江外城亭更舟文石女 院山人石川山  
二世 二世

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

吏六林六柳立流頁柳立涼李立立立利  
登芝石花居圃石品雪志菟由志志圃休り  
三世 三世 二世 二世

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

一七

一七

墨鳳峰步豐卜暮鳳北卜卜 平平蕭米  
河原房十秋尺四梧枝養養 嘉砂翠露  
牛非 温野 二世

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

萬政孟政 蓬北朴木卜鳳鳳北颯北步  
年辰遠仁ま 宇州因寶紫州朗元齋山牛

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

無 光未道未眠三千未未美光 漫  
卜む 許佛彦角牛風琢澤女廣み 々  
一世 一世

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

木諸茂守 冥妙 夢無無無無無  
丹九尼睡武も 々務尼め 蝶滿物腸外坊倫  
一世 一世

三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

一六

一六

露 蘆 驚 六 露 蘆 魯 礫 芦 和 和 和 和  
 光 仲 白 園 心 城 堂 々 水 及 英 三 吟 人  
 二五 二五 二六 二六 二七 二七 二八 二八 二九 二九 三〇 三〇 三一 三一

及び

一九

栗 柳 梨 隆 龍 梨 六 凉 李 隆 梨 綾 柳 六 利 林 立 栗  
 几 水 風 志 春 窓 袋 琳 志 一 吳 几 林 筵 居 砂 堂

及び

二六 二六 二七 二七 二八 二八 二九 二九 三〇 三〇 三一 三一 三二 三二

栗 山 柳 李 菱 隆 立 李 凉 流 良 笠 梨 大 春 派 了 了  
 山 莊 溪 湖 古 宇 卿 坪 美 大 春 齋 丸 德 仲

二五 二五 二六 二六 二七 二七 二八 二八 二九 二九 三〇 三〇 三一 三一

進 之 鈴 山 和 賀 派 丈 宿 太 石 練 寥 寥 連 寥 列 寥 了 了  
 之 山 和 賀 派 丈 宿 太 石 練 寥 寥 連 寥 列 寥 了 了

二四 二四 二五 二五 二六 二六 二七 二七 二八 二八 二九 二九 三〇 三〇

了 阿 山 阿 露 言 丸 町 水 沾 川 中 坊 月 船 樓  
 了 阿 山 阿 露 言 丸 町 水 沾 川 中 坊 月 船 樓

一八

三二 三二 三三 三三 三四 三四 三五 三五 三六 三六 三七 三七 三八 三八

俳諧年表目次

○延	三年	一頁
○明	九年	一
○文	三年	二
○永	十七年	二
○大	七年	三
○享	四年	四
○天	廿三年	四
○弘	三年	六
○永	十二年	七
○元	三年	七
○天	十九年	八
○文	四年	九
○慶	十九年	九
○元	九年	二
○寛	二十年	三

目次

○正保	四年	一七
○慶安	四年	一八
○承應	三年	二〇
○明曆	三年	二二
○萬治	三年	二四
○寬文	十二年	二五
○延寶	八年	三二
○天和	三年	三九
○貞享	四年	四一
○元祿	十六年	四四
○寶永	七年	六一
○正徳	五年	七〇
○享保	二十年	七四
○元文	五年	九八
○寬保	三年	一〇二
○延享	四年	一〇五
○寬延	三年	一一〇
○寶曆	十三年	一一四

○明和	八年	一二五
○安永	九年	一三三
○天明	八年	一四四
○寬政	十二年	一五四
○享和	三年	一六七
○文化	十四年	一七一
○文政	十二年	一八五
○天保	十四年	一九七
○弘化	四年	二〇七
○嘉永	六年	二〇九
○安政	六年	二一三
○萬延	一年	二一五
○文久	三年	二一六
○元治	一年	二一七
○慶應	三年	二一八
○明治	卅四年	二二〇

目次畢

俳諧年表

角田竹冷 閱  
牧野望東 著  
星野麥人

延徳(三年)

◎此頃山崎宗鑑武門を去り、攝州尼ヶ崎に閑居して一休和尚に參禪す。

明應(九年)

八	七	六	五	四	三	二	元	明應(九年)	三	二	元
己未	戊午	丁巳	丙辰	乙卯	甲寅	癸丑	壬子	辛亥	庚戌	己酉	己酉

▲聖廟法樂千句

▲新筑波集(宗祇)

三 九 庚申 ●後柏原天皇踐祚

文龜(三年)

四 元 辛酉 ●改元、二月二十九日。

五 二 壬戌 ●宗祇歿、七月三十日(或云、二十八日)、享年八十二、駿州駿東郡富澤挑園定輪寺(又箱根湯本早雲寺)に葬る、飯尾氏、種玉庵、自然齋、見外齋と號す、紀州藤並莊の人、連歌を以て天下第一と稱せらる、湯本客舎に寂す、辭世、はかなしや鶴の林の煙にも立ちおくれぬる身こそ恨むれ。

●牡丹花宵柏、勅命を蒙り新式今按を編みて、連歌の祇式を制定す。

六 三 癸亥

永正(十七年)

七 元 甲子 ●改元、二月三十日。

八 二 乙丑 ●柴屋軒宗長、下野江戸の間を遊覽し、東路のつと成る。  
九 三 丙寅 ●兼裁歿、六月六日、古川野渡村萬福寺に葬る、猪苗代氏、耕閑齋、法宗

十 四 丁卯

十一 五 戊辰

十二 六 己巳

十三 七 庚午

門(或は師と云ふ)連歌師にして法橋に叙せらる、陸奥猪苗代の人。

●秋、時の帝牡丹花を夢み給ひたるを以て、宵柏を召して連歌の御催あり、故に宵柏の別號夢庵あり、時人之を榮とす。

○里村昌休生

○宗長、駿州泉谷に卜居し柴屋軒と號す、賦曰、山櫻おもふ色そふ霞かな、(野史永正元年に作る)

▲犬筑波集(宗鑑)、是れ俳書の嚆矢たり。

▲十花千句

○田中利休生。

大永(七年)

元 辛巳 ●足利義晴、將軍宣下。

二 壬午 ○里村紹巴生。

三 癸未

癸 四 甲申  
 壬 五 乙酉  
 ◎荒木田守武、兒童教戒の爲め一夜百吟を爲す、一音毎に世中の二字を結ぶ、故に世の中百首又伊勢論語と名づく。

辛 六 丙戌  
 庚 七 丁亥  
 ●肖柏歿、四月四日(或云、八日)享年八十五、堺南宗寺に葬る、姓は久我、元三宮中院、具平親王の遠孫、牡丹花、弄花軒、夢庵の號あり、宗祇門。

改元、八月二十日。  
 享祿(四年)

元 戊子  
 二 己丑  
 三 庚寅  
 四 辛卯  
 天文(廿三年)  
 元 壬辰

●改元、七月二十日。  
 ○細川玄旨生。  
 ●宗長歿、三月六日、享年八十五、島田氏、柴屋軒と號す、宗祇門、駿州泉谷柴屋軒に歿す、(或云、大永五年十二月歿)。  
 ○蜷川親長生。

癸 二 癸巳

癸 三 甲午  
 壬 四 乙未  
 辛 五 丙申  
 庚 六 丁酉  
 己 七 戊戌  
 戊 八 己亥  
 丁 九 庚子  
 丙 一〇 辛丑  
 乙 一一 壬寅  
 甲 一二 癸卯  
 癸 一三 甲辰  
 壬 一四 乙巳  
 辛 一五 丙午  
 庚 一六 丁未  
 己 一七 戊申  
 戊 一八 己酉

●後奈良天皇踐祚  
 ◎石井了派、法橋に叙せらる。

○前田玄以生。  
 ○里村昌叱生。  
 ◎荒木田守武、獨吟千句を連ね、俳諧連歌の式を創定す。

○杉田望一生  
 ●守武歿、八月八日、享年七十七、荒木田神主、正四位上、五十鈴大宮

の長官、齒田長官と稱す、俳諧の鼻祖たり、辭世、越方も又行末も神路山峰の松風峰の松風、又發句、朝貌にけふは見ゆらん我世哉。

一九 庚戌  
二〇 辛亥  
二一 壬子

●昌休歿、十一月五日、享年四十二、里村氏、通稱彌次郎、堯景と號す、來雲男、昌叱父、京都の人、細川高國の家人。

二二 癸丑

●宗鑑歿、十月二日、享年八十九、讃州豊田郡坂本村興昌寺の側一夜庵の傍に葬る(或云、京都天瑞寺)、支那氏、名は範重、通稱彌三郎、近江の人、初め足利義尚公の侍重たり、後尼ヶ崎に閑居し一休和尚に參禪す、一休歿後草庵を山崎に結ぶ、因て世人山崎を以て稱す、晩年西遊の歸途讃岐琴平山麓に假居し一夜庵と號す、辭世、宗鑑は何處へ人の問ふならばちと用ありてあの世へと云へ、又歿年に付て異説頗る多けれど煩はしければ略す。

二三 申寅  
元 乙卯  
二 丙辰  
三 丁巳

●改元、十月二十三日。  
●正親町天皇踐祚。

弘治(三年)

永祿(十二年)

元 戊午  
二 己未

●改元、二月二十八日。

○齋藤徳元生。

●了派歿、五月、石井氏、名は滋久、通稱彌三郎、幼名千代菊、宗祇門京都の人。

三 庚申  
四 辛酉  
五 壬戌  
六 癸亥  
七 甲子  
八 乙丑  
九 丙寅  
一〇 丁卯  
一一 戊辰  
一二 己巳  
元 庚午

●足利義榮、將軍宣下、次で薨す。

●足利義昭、將軍宣下。

●改元、四月二十三日。

元龜(三年)



三二 辛未 ○松永貞徳生。

○里村玄仍生。

◎二月五日、時の宗匠相集り連歌の筵を山城小鹽山勝持寺に開く、世に、是を大原千句と稱す。

三三 壬申

天正(十九年)

三二 元 癸酉 ●改元、七月二十八日。

三一 二 甲戌

三〇 三 乙亥

二九 四 丙子 ○里村昌琢生。

二八 五 丁丑 ○岡村玄當生。

二七 六 戊寅 ○里村玄仲生。

二六 七 己卯 ○松井宗丹生。

二五 八 庚辰

二四 九 辛巳

二三 一〇 壬午

二二 一一 癸未

二一 一二 甲申

二〇 一三 乙酉 ○林道春生。

一九 一四 丙戌 ●後陽成天皇踐祚。

一八 一五 丁亥 ○石田未得生。

一七 一六 戊子 ○黒村昌倪生。

一六 一七 己丑

一五 一八 庚寅

一四 一九 辛卯 ○里村玄陳生。

●利休歿、二月二十八日、享年七十四、紫野聚光院に葬る、田中氏、通稱納屋與四郎。抛筌齋、利休居士と號す、豊臣秀吉の茶道師範たり、罪を得て死を賜ふ。

文録(四年)

三〇 元 壬辰 ●改元、十二月八日。

二九 二 癸巳 ○里村玄的生。

二八 三 甲午 ○松永昌三生。

二七 四 乙未 ●玖山歿、正月五日、九條公。

慶長(十九年)

元 丙申 改元、九月二十七日。

二 丁酉 正月二十八日、松永貞徳、趙子昂摸書法華經千部を報恩藏に納む。

三 戊辰 八月、勅して松永貞徳を花咲翁と呼ばしめ、俳諧宗匠を免許せられ、花の本の稱號を賜ふ、是より連歌俳諧全く二物となる。

四 己亥 烏丸光廣、細川幽齋と問答す。

五 庚子 守武五十回忌。

六 辛丑 近衛應山生。

七 壬寅 野々口立圃生。

八 癸卯 紹巴歿、四月十二日、享年七十九、紫野大徳寺中正更院に葬る、里村氏（本姓松村）、臨江齋、半醒子と號す、法橋に叙せらる、（或云、慶長七年歿）。

九 甲辰 岐阜の家人齋藤利起、關ヶ原の役に敗績して逃れ、後剃髮して徳元と號し俳諧に遊ぶ。

十 乙巳 宗祇百回忌。

十一 丙午 玄以歿、五月七日、享年六十四、前田氏、徳善院と稱す、法印に叙せらる。

十二 丁未 徳川家康、將軍宣下。

十三 戊申 昌叱歿、七月二十四日、享年六十五、里村氏、名は仍景、策庵と號す、昌休の男、法橋に叙せらる。京都の人。

十四 己酉 秀忠將軍宣下。

十五 庚戌 宗隆尼生。

十六 辛酉 山本西武生。

十七 壬戌 鶏冠井令徳生。

十八 癸亥 二條千丸生。

十九 甲子 松江重頼生。

二十 乙丑 半井卜養生。

二十 乙丑 高島玄札生。

二十一 丙寅 玄仍歿、四月二十三日、享年三十七、里村氏、心前と號す、紹巴の子、玄的の父、昌叱門。

二十二 丁卯 平澤定門生。

二十三 戊辰 安原貞室王。

元 一六 辛亥

與一郎と稱し、幽齋と號す、正四位、兵部少輔、法印に叙せらる。  
●後水尾天皇踐祚。

○高瀬梅盛生。

○里村昌程生。

○平澤重光生。

○遊女吉野生。

元 一七 壬子

元 一八 癸丑

元 一九 甲寅

元和(九年)

元 乙卯

●改元、七月十三日。

○里村昌通生。

○里村玄俊生。

○藤谷貞兼生。

元 二 丙辰

元 三 丁巳

元 四 戊午

元 五 己未

元 六 庚申

元 七 辛酉

○板並貞因生。

元 八 壬戌

○掠梨一雪生。  
○加藤灘淵生。

元 九 癸亥

○竹下赤子生。  
●家光將軍宣中。

○石井元政生。

寛永(二十年)

元 甲子

●改元、二月三十日。

○北村季吟生、十二月十一日。

○山崎闇齋生。

○岡本苔蘇生。

○神野忠知生。

○出口貞木生。

●魚江歿、田中氏、紹廉門、大阪の人。

▲追善九百韻(立圃)。

○相良等躬生。

○僧能順生。

○安原貞室、貞徳の門に入る。

○齋藤徳元、獨吟千句を詠ず。

三六 己巳

○齋藤徳元、關東に下る。  
●明正天皇踐祚。

○太嶽和尚生。  
○十一月五日、貞徳門人山本西武、京都寺町妙満寺に於て初めて會席を設け、百韻俳諧を興行す、是俳諧會席の濫觴たり。

三七 庚午

○福田露言生。  
○高野百里生。  
○琢如上人生。

●望一歿、六月五日(或云、七日)、享年八十三、杉田勾當と稱す、伊勢山田の人、守武の流を汲み、神路山の麓に卜居す。

三八 辛未

○宮川松堅生。  
○妙務尼生。  
▲連歌良材。

三九 壬申

○西山宗因、主家潰轉の事あり、國を去りて浪人す。

四〇 癸酉

○伊藤信徳生。  
○里村昌隠生。  
○乾貞恕生。  
○智月尼生。

六一 甲戌

▲犬子集(重頼)、▲癸句帳(立圃)。

六二 乙亥

○田捨女生。  
○鷲馬寛生。

六三 丙子

○中村喜雲生。  
●昌琢歿、二月五日、享年六十一、里村氏、名は景敏、懷惠庵、竹齋と號す、昌叱の子、花の下の稱號を賜ひ、法橋に叙せらる、連歌を以て鳴る。

六四 丁丑

○烏丸亞相卿、維屋立圃に題を給ふ。  
○岸本調和生。

六五 戊寅

●玄仲歿、二月三日、享年六十一、里村氏、玄仍長子。  
●光廣歿、七月、享年六十、烏丸氏、正二位、權大納言。  
○西山宗因、居を北野へ移す。  
▲鷹筑波集(西武)。

六六 己卯

○千代倉知足生。  
○中島隨流生。  
○岡西惟中生。  
○生玉琴風生。  
○里村昌陸生。

三 一七 庚辰

○北村季吟、江州北村を離る、時に年十六。  
○松江重頼、末吉道節江戸に下る。  
○捨女六歳にして、雪の朝二の字くの下駄の跡、の吟あり。

○築山猿離生。

○深見自休生。

○河曲一峰生。

○遊女高尾生。

●紹意歿、三月十七日、享年六十一、通稱古市播磨、南都興福寺の代官を勤む。

▲俳諧初學抄(徳元)、是江戸に於て俳書を彫刻する始なり。

○井原西鶴生。

二〇 一九 壬午

○北村季吟、始めて貞徳の門に入る。

○離屋立圃、松江重頼相争ふ。

○西山宗因、浪花に卜居す。

▲百韻自注(正章)

●後光明天皇踐祚。

○山口素堂生、正月四日。

三 二〇 癸未

正保(四年)

三 元 甲申

●改元、十一月二十三日。

○松尾芭蕉生。

○服部常春生。

▲底ぬけ白(幸和)。

○同水生。

三 二 乙酉

●三齋歿、十二月二日(或云、二月)、享年八十三、細川氏。

○三月十日、山本西武、京都妙満寺に於て百韻を興行す。

○北村季吟、玉津廟祝となる。

▲毛吹草(重頼)。

●吉野歿、八月二十五日、享年三十一、内野新地立本寺に葬る、實名登代、京都島原の遊女、後佐野紹益が妾となる、諸書に寛永八年歿とあるは紹益の本妻と混同せるなり。  
●言當歿、十二月五日、享年六十七、岡村氏、通稱傳内、淀屋庵と號す、狂歌を能くす。  
○池田正式、吉野に遊ぶ。  
○安原貞室、江戸に使う。  
▲花花草(立圃)、▲あぶらかす(貞徳)、▲淀川(貞徳)、▲新增犬筑波(貞徳) 按するに油糟、淀川共に新增犬筑波にして上を油糟下を淀川とせしなるべし

三 丙戌

○齋藤如泉生。

●宗甫歿、二月二十一日、小堀氏、一説に寛永十六年歿。

◎三月十七日、松永貞徳、花咲亭に於て俳諧の式法を定む。

◎石田未得、相州に赴く。

▲非無漏毛理(正式)、鶺鴒千句(幸和)。

○池西言水生。

○鯉屋杉風生。

○橋部竹翁生。

●美津女歿、七月二日、享年六十五(或云、七十五)、望一門、伊勢山田杉本赤右衛門光貞の妻。

●徳元歿、八月二十八日、享年八十九、天橋立五臺山智恩寺に葬る、齋藤氏、名は利起、齋宮頭、帆亭と號す、貞徳門、始め岐阜城主織田秀信の臣、關ヶ原の役に遁れて江戸に隠れ、薙髮して連歌俳諧を指南す、晩年丹後に移り歿す、辭世、今までは生きたわことを月夜哉。

◎岡田將監、美濃より上京す。

◎西山宗因、向榮庵を結ぶ。

▲大原三吟(重頼)、▲山の井(季吟) ▲毛吹草追加(重頼)。

◎西山宗因、向榮庵を結ぶ。

◎岡田將監、美濃より上京す。

▲大原三吟(重頼)、▲山の井(季吟) ▲毛吹草追加(重頼)。

慶安(四年)

元 戊子

●改元、二月二十六日。

●藤樹歿、八月二十五日、享年四十一、中江氏。

◎松永貞徳、柳園を建つ。

◎守武百回忌。

▲守武千句、正章千句。

○高村和及生。

○福田鞭石生。

○僧齋旅生。

●長嘯子歿、六月十五日、享年八十一、木下氏、一説に慶安元年歿。

●應山歿、十月十一日、享年五十一、近衛家、諱は信尋、後陽成帝の第四子。

▲樞集(西武)、▲夢惹草(空門)、▲五吟五集(未得)、▲花月千句(立圃)

▲空 磯(立圃)、▲野行集(定環)、▲崑山集(令徳)、▲望一千句

▲満月集

○江左尙白生

○北村湖春生

○神澤杜口生

●玄的歿、八月二十八日、享年五十八、里村氏、玄仍二男。

三 庚寅

●一村歿、十月二十八日、平澤氏、通稱勘兵衛、又古筆了任と稱す、貞徳門、京都の人。

○石田未得、江戸に歸る。

▲無言抄(應其)、▲獨吟千句(重頼)、▲伊勢山田俳諧集(望一)、

▲久留流(西武)、▲片言はほし(貞室)、▲望一後千句(望一)、

●家綱將軍宣下。

○神戸定之生。

○大野秀和生。

○千那法師生。

○市川才牛生。

○瀧方山生。

●昌倪歿、七月十八日、享年六十四、里村氏、

○末吉道節、もしあはは雪女もや白うるり、の句を吐き、白うるりの道節と夷名せらる。

▲御傘(貞徳)、▲匠材集、▲尾張句帳。

承應(三年)

●改元、九月二十八日。

○向井去來生。

辛卯

○神戸定之生。

○大野秀和生。

○千那法師生。

○市川才牛生。

○瀧方山生。

●昌倪歿、七月十八日、享年六十四、里村氏、

○末吉道節、もしあはは雪女もや白うるり、の句を吐き、白うるりの道節と夷名せらる。

▲御傘(貞徳)、▲匠材集、▲尾張句帳。

壬辰

●改元、九月二十八日。

○向井去來生。

癸巳

○佐保介我生。

○江原和風生。

○遊女夕霧生。

○英一蝶生。

○八月、安原貞室、點業を許され薙髮して貞室と號し、二世花の本を繼ぐ。

▲若狐(立圃)、▲俳諧十寸鏡(久次)、▲俳諧萬句集(立圃)。

○正親町一止生。

○渡會園女生。

○青木春澄生。

○小林一笑生。

●貞徳歿、十一月十五日、享年八十三、洛南上鳥羽村實相寺に葬る、松永氏、幼名勝熊、少壯にして薙髮し、松友、又逍遙軒と號す、松永彈正久秀の庶子、細川玄旨に従つて和歌連歌を學ぶ、晩年髻を束て童服を着し、自ら延陀丸、又長頭丸と號す、始め三條大路に住し、後五條松原の北東洞院の東に移り、賜號に因て居を花咲舎と號す、辭世、露の命きゆる衣の玉櫛笥ふた、ひうけぬ御法ならむ。

○捨女、婚嫁す。

三 甲午

- ▲俳諧千句(立圃)▲、河船徳萬歳(立圃)。
- 御西院天皇踐祚。
- 服部嵐雪生。
- 小西來山生。
- 道節歿、末吉氏、貞徳門、攝津の人、白うるりの道節と稱す。
- ▲萩花集(西武)。

明曆(三年)

三 元 乙未

- 改元、四月十三日。
- 内藤露沾生。
- 貴志沾州生。
- 椎本才磨生。
- 板並貞柳生。
- 山岸半殘生。
- 田中正業生。
- 増穂殘以生。
- 宗畔歿、春、馬淵氏、名は重治、貞徳門、京都の人。
- 春清歿、井坂氏、昌雲軒と號す、京都の人。
- 安原貞室、吉野に於て、これはくどばかり花の吉野山、の詠あり。

三 二 丙申

- ▲信親千句(立圃判)、▲紅梅千句(貞徳等)、▲十種千句(玄札)。
- 森川許六生。
- 二月二十五日、菅公七百五十年祭なるに因り、西山宗因、萬句を大阪天満社に於て興行す。
- 西山宗因、向榮庵に檀林の額を打ちて、茲に俳諧の一生面を開けり、句あり、神やうけしついによるべの菊の水。
- ▲土塵集(令徳)、▲向榮文集(宗因)、▲世話燒草(皆虛)、▲鋸屑(一雪)、▲夢見草(林安)、▲口真似章(梅盛)、▲破罽魔(是誰)、▲蝗集(季吟)、▲玉海集(貞室)、▲火花草増補(立圃)。
- 高井立志(二世)生。
- 服部土芳生。
- 井上道山生。

三 三 丁酉

- 道春歿、正月二十三日、享年七十五、林氏、名は忠、字は子信、羅山と號す、別に羅浮山、羅洞、四維、長胡、蝶洞、瓢庵、夕顔庵、雲丹溪、梅花村、尊經堂等の號あり、江戸有名の儒者たり。
- 芭蕉、初て發句を作る、時に十四才、句に曰く、犬と猿世の中よかれ酉のとし。
- 此頃、三ッ物組俳諧流行す。



萬治(三年)

元 戊戌

▲鷄武集(梅盛)、▲砂金袋(西武)、▲鹿鷲集(春清)、▲物忘草(蝶々子)  
▲けふの細布(安靜)。

●改元、七月二十三日。

○青木鷲水生。

○溝口竹亭生。

○新井桐陰生。

●宗丹歿、十二月十九日、享年八十一、松井氏、也雲軒と號す、攝州伊丹の人、伊丹風の祖と云ふ。

●昌三歿、享年六十六、貞徳の長子、儒を以て業とす。

▲牛飼(燕石)、▲京童部(喜雲)、▲拾玉集(元治)、▲尾張八百韻(無能)

二 己亥

○岩田涼菟生。

○平田無卜生。

▲鎌倉物語(喜雲)、

▲拾子集(梅盛)

▲百韵自注(貞徳)、

▲三十六俳仙(本春)

三 庚子

○里村昌億生。

○寺井西角生。

●高尾歿、十二月二十五日、三谷土手下四方寺(俗曰道折)に葬る、吉原

三浦屋の遊女、世に萬治高尾と稱せらる、辭世、寒風にもろくしづる、紅葉哉、一説に萬治二年十二月五日歿、三谷寺町春慶寺に葬ると云ふ、其他俗説多し。

◎松江重頼、雛屋立圃撰集の事に就き争ひて交を絶つ。

▲懷子(重頼)、▲暮紫集(常矩)、▲和歌竹(由雪)、▲木男さらひ(常辰)

▲乳母(重頼)、▲九百員(立圃)、▲境海草(顯成)、▲まゝこ立(武川)

▲源氏鬘鏡(宗賢、信房) ▲百人一首(重以)。

寛文(十二年)

元 辛丑

●改元、四月二十五日。

○榎本其角生、七月十七日。

○内藤丈草生。

○上島鬼貫生。

○志村無倫生。

○香田正宣生。

○佐藤友扇生。

○川勝雲堂生。

○太田白雪生。

○僧李山生。

二 壬寅

- ▲木玉集(梅盛)、▲落穂集(梅盛)、▲早梅集(梅盛)、▲續境海草(顯成)
- ▲旅枕(令慶)、▲花の露(道甘)、▲辨説集(良保)、▲身樂千句(元隣)
- ▲尾蠅集(定清)、▲絲瓜草(道甘)、▲思出草(蝶々)、▲浮世長刀(一興)
- ▲紙屋川水車(隨流)。

- 稻津祇空生。
- 立羽不角生。

- 瓜木晚山生。

◎春、松意が招に應じ、西山宗因江戸に来る、江戸檀林風是より盛となる、此時の紀行を東日記と云ふ、一説に宗因東下は寛文四年なりと。  
◎芭蕉、初めて藤堂良精の臣となる、時に年十九、後其子良忠(號蟬吟)に仕ふ。

◎松江重頼、池田正式再び相争ふ。

- ▲俳諧初元結(是誰)、▲續獨吟集(玖也)、▲都案内者(喜雲)
- ▲玉くしげ(是誰)、▲俳諧小式(元隣)、▲雀子集(光方)
- ▲俳諧仕様(元隣)、▲鄙諺集(安靜)。
- 靈元天皇賤祚。
- 志太野坡生。
- 北條園水生。

三 癸卯

- 小川破笠生。
- 榎並貞岷生。
- 豊島露月生。
- 根岸友我生。

- ▲貞徳俳諧記(一貞)、▲五條百句(貞徳)、▲増山の井(季吟)
- ▲續増山の井(季吟)、▲茶掬竹(一雪)、▲埋草(成安)
- ▲獨吟千句抄(紹巴)。

四 甲辰

- 椎本芳室生。
- 長野馬貞生。
- 玄俊歿、七月七日、享年五十、里村氏、玄陳の男。

●宗具歿、享年一百、江村氏。

◎鶏冠井令徳、獨吟千句を詠す。

- ▲俳諧兩吟集(季吟)、▲小夜中山(重頼)、▲俳諧名所付合(重俊)
- ▲俳集良材(正由)、▲神子舞(圓立)、▲蠅打(茶掬竹難書)
- 各務支考生。
- 水間沾徳生。
- 堀内雲鼓生。
- 玄陳歿、正月五日、享年七十五、里村氏、一翁と號す、紹巴の庶流、

五 乙巳

法眼に叙せらる。

●卜養歿、温野氏、一に半井慶友とも云、泉州堺の人、牡丹花宵柏の子にして、半井卜養の父なり。

◎松永貞徳十三回忌。

▲天神法樂集(友貞)、

▲小町踊(立圃)、

▲みやこ草(山健)、

▲連歌新式増抄

三六 丙午

○四時堂其謄生。

○高野百里生。

○神崎竹平生。

○石井暮四生。

○志水延清生。

○淺田百合生。

●蟬吟歿、四月、藤堂氏、名は良忠、初貞徳、後季吟門、伊勢の人、芭蕉の主家たり。

●千九歿、七月二十八日、享年六十、二條攝政康道公、後淨明院と號す、貞徳門。

◎六月、芭蕉蟬吟の位牌を守りて高野山に納む、此秋季吟の門に入る。

三七 丁未

○山縣攀高生。

▲いせ踊(加友)

▲嗚呼立千句(重軌)

▲古今四季友(立靜)

▲戲謔草(良保)

▲俳諧小相撲(立圃)

▲玉海集追加(貞室)

▲京童跡追(喜雲)

▲新續犬筑波(季吟)

○大失白鶴生。

●元政歿、二月十八日、享年四十六、石井氏、通稱俊平、不可思議庵、抄子と號す、初め井伊侯の臣、後僧となり深草瑞光寺に住す、世に深草の元政を以て稱せらる。

◎高瀬梅盛、官家に召さる、然れ共辭して參せず。

◎上島鬼貫、八才にして、こい／＼とい／＼と螢は飛んで行く、の詠あり

▲便船集(梅盛)、▲新獨吟(重徳)、▲赤紫(道弘)、▲難波草(宜休)

▲細少石(梅盛)、▲山口記(宗祇)、▲藪香物(春流)、▲俳諧鳥合(安都)

三八 戊申

三九 己酉

- ▲道連(立野)、▲詞友(種寛)、▲吉野山獨案内(元隣)
- ▲諸國獨案内(元隣) ▲湊舟十萬句(重親)
- 山本孟遠生。
- 宮森春帆生。
- 梅原貞爲生。
- 未得歿、七月十八日、享年八十二、淺草誓願寺に葬る、石田氏、通稱女左衛門、乾堂、巽庵と號す、貞徳門、江戸の人、狂歌を能くす、曾て相州に移住し、復江戸に歸り、後京に上つて俳道を修業す。
- 立圃歿、九月晦日、享年七十一、京都寺町要法寺に葬る、野々口氏、通稱雛屋庄右衛門(又市兵衛)、薙髮して立圃と號す、別に拓翁の號あり、貞徳門、京都の人、繪を能くす、辭世、月花の三句目を今知る世かな、一説に寛文十二年三月十七日歿。
- ▲續山の井(季吟)
- 桑岡貞佐生。
- 植村信安生。
- 北藤浮生生。
- 松岡大魚生。
- 里村仍民生。

三〇 庚戌

- 安原貞室、北村季吟盟會す。
- 榎本其角、三田大圓寺に入り詩を學ぶ、時に十歳。
- ▲濱 荻(立圃)、▲發句帳(立圃)、▲十會集(季吟)、▲天水抄(貞徳)、▲隨葉集大全 ▲大和順禮(正辰)
- 安藤冠里生。
- 大高子葉生。
- 伊藤東涯生。
- 白話歿、四月十四日、享年四十二、東本願寺門跡、大僧正琢如上人、淳寧院と號す。
- ▲落花集(以仙)、▲諸國獨吟集(季吟)、▲繪入百人一句(重以)、▲寶藏(元隣)
- 梅富軒六花生。
- 山口酉生生。
- 僧浪化生。
- 九月、芭蕉東都に下り、小田原町杉風方(一説小澤得入方)に寄る、時に年二十九。
- 幕府、北村季吟を江戸に召す。
- ▲塵塚(重徳)、 ▲晴小袖(一雪)、 ▲てくり舟(顯成)、

三一 壬子

延寶(八年)

元 癸丑

改元、九月二十一日。  
○人見恐堂生。

●貞室歿、二月七日、享年六十四、山城國鳥羽實相寺に葬る、安原氏、名は正章、通稱鑑屋彦右衛門、一獲軒、一獲子、花の本二世と號す、貞徳門、京都の人、辭世、今まては目見へせねとも主人公はつくといひし年も明けり、歿年に就て諸説あり、寛文十一年、延寶二年共に非なりと。

●玄祥歿、十月二十二日、里村氏。

○椎本方麿、井原西鶴の門に入る。

○半井卜養、法眼に叙せらる、十二月二十八日。或云寛文七年。

▲時世姿(重頼)、

▲俳諧埋木(季吟)、

▲續大和順禮(正辰)、

▲誘心集(種寛)、

▲俳諧捨舟(常矩)、

▲西翁十百韻(宗因)、

▲法のはな(松苔)、

▲松花集(一見)、

▲大坂俳歌仙

○松木淡々生。

二 甲寅

三 乙卯

○小宮山宰陀生。

○河野安山生。

○吉井雲鈴生。

●令徳歿、三月三日(或云七日)、享年六十八(或云九十一)、鶏冠井氏、通稱九郎右衛門、陀隣庵、榊柿園と號す、貞徳門、京都の人、初め良徳と號したれど、憚る所ありて後令徳に改む。

●灘淵歿、八月十一日、享年五十四、加藤氏、名は等空、通稱濱五郎、盤齋と號す、貞徳門、大阪の國學者なり。

○七月十一日、西山宗因、播州明石人磨法樂連歌あり、

○檀林風益々世に行はる。

○井原西鶴、大阪天満社頭に於て、俳句二萬三千句を獨吟す(或曰此事虚説なりと)。

○芭蕉、深川杉風の別業に入り、薙髮して風羅坊と號す、時に年卅一。

○板本其角、十四才にして、芭蕉の門に入る。

▲藤枝集(重頼)、

▲思出千句(立志)、

▲東山名所記(汲涉)、

▲短絛集(重榮)、

▲釋教百韻(宗因)、

▲やまと笠(舊山)、

▲遠山鳥(宗且)、

▲海士釣舟(谷遊)、

▲小川千句(貞竹)、

▲批判四笑

▲如意寶珠

▲俳諧無言抄

- 赤井芳全生。
- 堀内仙鶴生。
- 窪田松蔭生。
- 重光歿、四月十四日、享年六十四、西玉禪寺に葬る、平澤氏、通稱次左衛門、了雪と號す、京都の人、古筆賞鑒を以て業とす。
- 如春歿、夏、伊藤氏、季吟門、京都の人。
- 元隣歿、山岡氏、名は玄隣、玄水、抱甕齋と號す、季吟門、京都の人、醫を業とす。
- 道伯歿、青木氏、立圃門、醫を業とす。
- ◎西山宗因、江戸に赴き十百詔を興行す。
- ▲糸 屑(重安)、 ▲花千句(季吟)、 ▲新續獨吟集(令徳)、
- ▲蟻の宿(台軒)、 ▲俳諧繪合(高政)、 ▲砂金袋後集(西武)、
- ▲宮城野集(釣竿)、 ▲俳諧蒙求(石齋)、 ▲噓大全綱目(景三)、
- ▲俳諧明鏡(立圃)、 ▲蘆分船 ▲六百五十員(信徳)、
- ▲俳諧五吟紅葉餅、 ▲澁うちは ▲大阪獨吟集(宗因)、
- ▲五十番句合(糖塚翁判)。
- 深川湖十(一世)生。
- 野々山晚年生。

三

四

丙辰

- 龍田大玄生。
- 長島宗久生。
- 北田清左生。
- 釋 角上生。
- 玖也歿、四月、松山氏、宗因門、大阪の人。
- 露の坊歿、五月四日。
- 忠知歿、十一月二十七日、享年五十二、神野氏、通稱長左衛門、春清門、事に因て自殺す、白灰や焼かぬ昔の雪の枝、の詠ありてより、世に白灰の忠知と稱せらる、辭世、霜月やあるはなき身の影法師。
- 安靜歿、荻野氏、似空軒と號す、貞徳門、京都の人、一説貞享二年二月十九日歿、行年八十とあるは誤なり。
- 胤及歿、岡本氏、通稱仁意、貞徳又季吟門、備前の人、醫を業とす、
- ◎六月、芭蕉伊賀に上り、さま／＼の事もい出す櫻かな、の吟あり。
- ◎此秋、芭蕉東武に歸る。
- ◎榎本其角、圓覺寺大巖和尚に隨從す。
- ◎大淀三千風、獨吟三千句を吐く。
- ▲言羽織(一雪)、 ▲紅紛五百員(夕山)、 ▲俳諧當世男(蝶々子)
- ▲柁木葛(西鶴)、 ▲俳諧玉手箱(蝶々子)、 ▲談林十百韻(松意)

三 五 丁巳

- ▲武藏野(維舟)、 ▲難波辨慶(遠舟)、 ▲俳諧師手鑿
- ▲續連珠(安靜)、 ▲季吟俳諧集、 ▲半入獨吟集
- ▲西行櫻(西吟)、 ▲天滿千句(宗因)、 ▲温故日録(友春)
- ▲夜の錦、 ▲大上戸獨吟二百韻(似船)

○大場寥和(一世)生、十二月二十一日。

○早野巴人生。

○岡西惟中、大阪に出づ。

▲隱笠、 ▲大長刀(水雲)、 ▲唐人踊(立圃)、 ▲肩入奉公(一雲)

▲隱篋、 ▲大失敷(西鶴)、 ▲風林集(惟中)、 ▲江戸水道(維舟)

▲鼻紙袋、 ▲類船集(梅盛)、 ▲玉江草(卜琴)、 ▲三部集(惟中)

▲俳諧三部抄(惟中)、 ▲澁園扇返答(惟中)、 ▲水津乗合船(一風)

▲獨吟二日千句(元順)、 ▲六百番發句合(任口、季吟)

○千代倉蝶羽生。

○居初雲峰生。

●西武歿、二月十八日、享年七十三、山本氏、通稱綿屋九郎右衛門、無外軒、風外軒と號す、貞徳門、京都の人、辭世、夜の明けて花にひらやく浄土門。

●定門歿、十月八日、享年七十、平澤氏、幼名源六郎、後三郎右衛門、

三 六 戊午

薙髮して了榮と改む、立圃門、目利第二世たり。

●卜養歿、十二月二十六日、享年七十二、半井氏、温野卜養の男、牡丹花宵柏の孫、泉州堺の人、狂歌を能くす、一説に延寶七年六月歿。

●夕霧歿、正月六日、享年二十七、大阪下寺町淨國寺に葬る、實名照、京都島原の遊女、寛文十二年抱主扇屋某大阪新町の廓へ移住の時共に赴く。

三 七 己未

- ▲筑紫海(橋水)、 ▲中庸姿(高政)、 ▲慧能録(鬼貫)、 ▲幕づくし(松意)
- ▲難波風(旨恕)、 ▲歳旦帳(露言)、 ▲弘誓舟(季吟)、 ▲博多百合(西鶴)
- ▲五徳集(西翁)、 ▲犬硯集(保友)、 ▲明骨集(由平)、 ▲江戸新道(言水)
- ▲東日記(言水)、 ▲寢覺集(常短)、 ▲京三吟、 ▲相腹中集(桂宿)
- ▲太郎五百員(惟中)、 ▲次郎五百員(惟中)、 ▲溜池河御座(維舟)
- ▲江戸廣小路(不卜)、 ▲江戸八百韻(幽山)、 ▲溜池四十歌仙(江翁)
- ▲江戸十歌仙(自悦)、 ▲當流籠拔(宗旦)、 ▲犬櫻五百韻(益齋)
- ▲四人法師集(梅翁、桂宿、佳口、元順)、
- ▲江戸三吟(信徳、桃青、信章)、

○豊島佳風生。

●昌通歿、十二月十二日、享年六十五、里村氏、祖白と號す。

○松尾芭蕉、西山宗因始めて相會す。

三 八 庚申

- ▲ぬれ鳥集(益友) ▲仙台大失數(三千風) ▲室咲百韻集(季吟)
- ▲塵 取(常矩) ▲見花數寄(西國) ▲火吹竹一札(維舟)
- ▲名取川集(維舟) ▲坂東太郎(才麿) ▲江戸蛇の鮓(言水)
- ▲わたし船(旨怨) ▲新玉海集(貞怨) ▲西鶴五百韻(西鶴)
- ▲かり舞臺(千春) ▲奉納百韻(桃青) ▲俳諧新附合(西治)
- ▲杉やき集(西鶴) ▲小倉百韻(重榮) ▲諸國獨吟集(元磯)
- ▲兩吟一日千句(西鶴、友雲) ▲破邪顯成(隨流、中庸委批難)
- 綱吉將軍宣下。
- 岩本乾十生。
- 松木蓮之生。
- 政仁崩、壽八十五、後水尾天皇。
- 樽次歿、正月八日。
- 重頼歿、六月二十九日、享年七十四、京都東山大谷に葬る、松江氏、通稱大文字屋治右衛門、薙髮して維舟と號す、別に乳父子、腐俳子、自江翁の號あり、貞徳門、京都の人、法橋に叙せらる、辭世、林檎もや菩提樹のたつま汲む清水。
- 一雪歿、九月二日、享年六十、棕梨氏、通稱三郎兵衛、牛露庵、柳風軒と號す、貞徳門、京都の人。

三 天和(三年) 辛酉

- ▲猿 鵜(隨流)、▲向が岡(不卜)、▲俳 枕(幽山)、▲松茸草(蝶々子)
- ▲是天道(高政)、▲洛陽集(自悅)、▲無分別(宗旦)、▲田舎句合(其角)
- ▲大横手(西六)、▲千句附(遠州)、▲放れ駒(梅朝)、▲四衆懸隔(一品)
- ▲太夫櫻(遠舟)、▲俳諧綾卷 ▲二ッ盃 ▲伊勢宮筒(心友)
- ▲釋伽汁(高政)、▲竹 林(西鬼)、▲熊坂(難春澄)、▲江戸辨慶(言水)
- ▲常盤屋句合(杉風)、▲破邪顯正返答(惟中)、▲阿蘭陀丸二番船(宗因)
- ▲談林三百韻(高政)、▲江戸大坂通馬(梅朝)、▲桃青二十歌仙(杉風等)
- ▲軒端の稠話(松意)、▲山の端千句(梅翁等)、▲花洛六百韻(自悅)
- ▲鶺鴒のまね(曲作)、▲ぶくれ双六(清風)、▲郭公十二歌仙(調和)
- ▲俳諧顯政(破邪顯成、熊坂兩返答)
- 改元、九月二十九日。
- 鈴鹿知石生。
- 宇野文雅生。
- 村井古道生。
- 立志(一世)歿、十月二十一日、高井氏、松樂軒、和諧堂と號す、立圃門、江戸の人。
- ▲鬼自(西吟)、▲富士石(調和)、▲万水入海(一品)、▲せとの曙(定直)



三二 壬戌

- ▲雑巾(常矩)、▲山海集(賀子)、▲野更紀行(桃青)、▲俳諧次韻(挑青)
- ▲後大矢數(西鶴)、▲五ヶ國集(宗旦)、▲西瓜三ッ集(鬼貫)
- ▲吐緩鶏集(秋風)、▲五百三歌仙(如雲)、▲七百五十韵(信徳)
- ▲みつから集(賀子)
- 末琢歿、三月二十日(或云七日)、享年七十餘(或云七十)、淺草誓願寺に葬る、石田氏、通稱要之助、良堂と號す、未得の長子、江戸の人、狂歌を能くす。
- 常矩歿、三月二十日、田中氏、常長甥、京都の人。
- 宗因歿、三月二十八日、享年七十八(或云七十三)、大阪西寺町西福寺に葬る、又日暮里養福寺に梅花翁碑あり、西山氏、名は豊一、通稱二郎(或云二郎作)、始め一幽と號し、後宗因に改む、別に梅翁、西翁、梅花翁、野梅子、忘吾子、梅幽子、西幽子、向榮庵、有芳庵等の號あり、元肥後加藤家の侍臣、連歌を昌琢、俳諧を重頼に學び、檀林風を開けり、大阪に住す。
- 昌隱歿、五月九日、享年五十、里村氏。
- 吟市歿、法名尊海、安住院住職、後江州銀塘に住す、季吟門。
- 開齋歿、九月十六日、享年六十八、山崎氏、名は敬義。
- 春、池西言水、江戸を發して京に上る。

三三 癸亥

- ◎冬、深川芭蕉庵火災に罹り類焼す、芭蕉出て、甲斐駿河の間に遊歴せり。
- ◎榎本其角、芝金池院門前に轉居す、時に二十一才。
- ◎深見自休、法令に背て八丈島へ謫せらる。
- ▲芝香(似春)、▲御田扇(心友)、▲武藏曲(千春)、▲一日三百員(春澄)
- ▲後様姿(言水) ▲三箇津 ▲櫻千句(益齋)
- ▲京三吟集(信徳、正定、仙庵)
- ◎高井立志(三世)生。
- 桃水歿、九月九日。
- ◎五月、其角虚栗集を著して、蕉風開發の先導となる。
- ◎秋、山口素堂、芭蕉庵再興の勸化文を配布す、寄附する者多し。
- ◎深見自休、八丈島に於て、梅なれや花橘はかいねども、の吟あり。
- ◎北村季吟、新玉津島に轉居す。
- ▲虚 栗(其角) ▲三人 蛸(宗旦) ▲ねざめ二十日集(西吟)
- ▲二十鼠(水丸) ▲空林風葉(自悦) ▲新二百員(其角)
- ▲あまのこのすさひ(惟中)

三六 貞享(四年) 元 甲子 改元、二月二十八日。

- 十寸見河東生。
- 兒玉松泉生。
- 中村蘭石生。
- 服部南郭生。
- 定香歿、四月二十日、享年四十(或云三十七)、平澤氏、薙髮して了祐と號す、別に香藏子の號あり、定門男。
- ◎二月十五日、其角江戸を發し東海道を大阪に遊歴す。
- ◎八月五日、内藤文章、武門を辭して薙髮す。
- ◎秋、芭蕉東都發足、伊勢路を尾張へ行脚す、此時尾張五歌仙成る。
- ◎冬、芭蕉、大垣の如行が許に旅寢す。
- ▲有馬日出(免貫)、▲冬の日(其角)、▲花時鳥(其角)、▲蠶集(其角)
- ▲赤曾有格(團水)、▲題林一句(調和)
- 中川宗瑞(一世)生。
- 加藤原松生。
- 自然玄無生。
- 幻吁歿、正月二日、享年五十七、相州鎌倉圓覺寺百六十三世の住僧、太嶺和尚、千長老と號す、其角門、同寺に葬る、一説に貞享元年歿とあるは誤。

三七 二 乙丑

ゆたか山

- 常辰歿、二月九日、隼士氏、通稱長兵衛、松風軒、自徳翁と號す、立圃門、京都の人。
- ▲春の日(越人)、▲一樓賦(風瀑)、▲白根嶽(調實)、▲ゆたか山(曲肱)
- ▲新山家(其角)、▲磯馴松(鞭石)、▲付合小鏡 ▲稻むしろ(清風)
- ▲熱田三歌仙 ▲天王寺名所彼岸櫻(豐流)
- 佐久間柳居生。
- 平野鶴歩生。
- 歌鳥生。
- 長流歿、六月三日。
- ◎五月、其角、枳風と共に木賀温泉に赴き、文鱗の旅舎を訪ふ。
- ◎芭蕉、本間道悦の門に入つて、醫道を學ぶ。
- ◎芭蕉、杉風の別荘にて、古池や蛙飛込む水の音、の吟あり。
- ▲一ッ橋(清風)、▲蛙合(仙化)、▲京日記(言水)、▲丙寅紀行(風瀑)
- ▲富士詣(三千風)、▲庵櫻集(西吟)、▲鶴の歩(其角)
- ▲貞享三ッ物(梅盛)
- 東山天皇踐祚。
- 竹田羽紅生。
- 山本經定生。

三六 三 丙寅

三五 四 丁卯

- 高屋去音生。
- 北川貞扇生。
- 別所和吟生。
- 妙務尼歿、四月八日、享年五十七、其角の母。
- 芭蕉、曾良を伴ふて、鹿島吟行あり。
- 芭蕉、再伊賀に登り、無名庵に入る。
- ▲一ツ松(尙白)、▲若水集(嵐雪)、▲丁卯集(一品)、▲續虚粟集(其角)
- ▲關相撲(未達)、▲野梅集(宗旦)、▲つばさ(角呂)、▲鹿島紀行(芭蕉)
- ▲續ク原句合(不卜) ▲茄子喰さし(信房)

元祿(十六年)

- 三 元 戊辰
- 改元、九月晦日。
- 二世柏菴生。
- 望月宗屋生。
- 野水歿、七月二十一日、淺草誓願寺に葬る、工齋と號す、
- 昌程歿、十月二十八日、享年七十七、里村氏、宗益と號す、昌琢男。
- 一笑歿、十一月六日、享年三十六、小杉氏、通稱茶屋新七、初梅盛、後芭蕉門、加州金澤の人。
- 宗隆尼歿、十一月二十二日、享年八十四。

己巳

- 七月、榎本其角、京に登り季吟の宅に寄る。
- 夏、芭蕉、岐阜に遊ぶ。
- 秋、芭蕉、更科へ行脚す、越人同行。
- 九月、芭蕉庵に後の月の薙あり、素堂、越人、杉風、路道其他
- 芭蕉、門人杜國を從へて吉野に遊ぶ。
- ▲春 雨(椿子)、▲包井集(都水)、▲鹽味集(西吟)、▲若狭千句(一焉)
- ▲浮 草(季範)、▲八景集(鷗一)、▲彌生山(西吟)、▲白川文集(等躬)
- ▲五節句(順也)、▲句餞別 ▲青 菴(除風)、▲遠あるき(常牧)
- ▲難波櫻(西吟、寢覺二十日、後集)
- 細井之水(一世)生。
- 高井几圭生。
- 玄札歿、十二月十四日、享年八十三、高島氏、貞徳門、伊勢山田の人、江戸に住し、醫を業とす。
- 芭蕉、曾良を伴ふて奥州に下る、其行脚日記を奥の細道とす。
- 冬、渡會園女、芭蕉の門に入る。
- 北村季吟、幕府に召され、江戸に移住す、是より幕府に歌學の家を設けらる。
- 十二月二十一日、北村季吟、其子湖春と共に醫師(徳川家)に準ぜら

三三 庚午

- ▲花 虛 木(露川)、 ▲俳諧假橋(朋水)、 ▲せみの小川(晚翠)
- ▲苗 代 水(似船)、 ▲曠野集(荷兮等)、 ▲東西夜話(支考)
- ▲前後園集(言水)、 ▲行脚文集(三千風)、 ▲其角十七條(其角)
- ▲續新山家(觀水)、 ▲歌 仙 合 ▲俳諧大三物
- 田々良林石生。
- 黒瀬虛舟生。
- 杜國歿、五月五日(或云二十六日)、通稱靈屋平兵衛、萬菊丸、岩菊丸と號す、尾州名古屋の人、故ありて伊良古崎に配せられ、配所に於て歿す。
- 嵐我歿、八月二十二日、臨江寺に葬る、松倉氏、嵐蘭男、江戸の人。
- 二月二十五日、内田橋水、一萬句を獨吟す。
- 四月、芭蕉園分山に幻住庵を結ぶ。
- 浪化、芭蕉の門に入り、落柿舎に於て初めて翁に對面す。
- 支考、始めて芭蕉に見ゆ。
- 十月、越智越人、熊本の主家に歸り、俸祿二百石を領す。
- 冬、蕉芭熱田梅人亭に遊ぶ。
- 井原西鶴、號を西鵬と改む。

三三 辛未

- ▲桂 川(正春)、 ▲其 俗(嵐雪)、 ▲雀の森(和及)、 ▲大悟物狂(鬼貫)
- ▲誰が家(其角)、 ▲物見車(可玖)、 ▲秋津島(團水)、 ▲白うるり(天龍)
- ▲あめ子(之道)、 ▲蓮の葉(淵瀬)、 ▲破燒隼(順水)、 ▲新三百員(其角)
- ▲萬歳樂(常牧)、 ▲水尾杭(盤水)、 ▲犬居士(鬼貫)、 ▲いつを昔(其角)
- ▲都 曲(言水)、 ▲落松葉(貞木)、 ▲根合集(昨非)、 ▲ひさご集(珍碩)
- ▲朧月夜(定直)、 ▲花 摘(其角)、 ▲特 牛(團水、物見車の返答なり)
- ▲俳諧生駒堂(燈外、鬼貫、來山)、 ▲大洛車附合集(可俊)
- ▲江戸俳諧合(桃青判)
- 兒島大奎生。
- 次山市貢生。
- 道甘歿、二月十五日、享年八十三(或云八十)、高瀬氏、名は正代、通稱彌三右衛門、道鑑とも云ふ、別に専庵、樂々庵の號あり、梅盛兄、伏見の人。
- 不卜歿、四月九日、本所法恩寺に葬る、岡村氏、通稱市郎右衛門、一柳軒と號す、未琢門、江戸の人。
- 露言歿、四月十日、享年六十二、福田氏、素竹軒、風琴子、初め調也と號す、初調和、後露沾門、江戸の人。
- 松倉嵐蘭、吉野山に遊ぶ。

○十二月二日、北村季吟、法眼に叙せらる。

- ▲石車(西鶴)、▲常陸帶(兒水)、▲えくぼ(才麿)、▲幻住庵之記(芭蕉)
- ▲團袋(團水)、▲雜談集(其角)、▲卯辰集(楚常)、▲勢田の長橋(似舟)
- ▲芋環(竹亭)、▲寢物語(湖翁)、▲番匠童(和及)、▲かみまて(天原)
- ▲枕篋(原風)、▲星祭(昨非)、▲京の水(言水)、▲猿蓑(去來、凡兆)
- ▲鬼瓦(正春)、▲新花鳥(好春)、▲我が庵(轍士)、▲京羽二重(林鴻)
- ▲渡船(順之)、▲遠眼鏡(良詮)、▲二見篋(發句翁)、▲水莖の岡(和及)
- ▲犬丸(瓠界)、▲六歌仙(鋤立)、▲一丁鼓(定之)、▲あやの松(弟水)
- ▲細籬(昨非)、▲大元式(柳水)、▲西の雲(ノ松)、▲一枚起請(宗重)
- ▲瓜作(琴風)、▲大和狐(士弓)、▲二侯川(正松)、▲花見辨慶(重徳)
- ▲俳諧漢和 ▲松原集(江水)、▲蓮の實(賀子)、▲悲の卷(昨非)
- ▲無盡經 ▲四國猿(律友)、▲藤波集(二存)、▲祇園拾遺譚(松春)
- ▲勸進牒、月山發句合(路通)、▲當世百人一首(江水)

三五 壬申

○平岡暢好生。

●和及歿、正月十八日、享年四十四、釋氏、本姓高村氏、直唱法師、露吹庵と號す、常長門、京都の僧、辭世、我としも四十四の花のわけ句かな。

●竹亭歿、六月二十九日、享年三十五、溝口氏、常矩門、京都の人。

●惟中歿、八月十日、享年五十四、岡西氏、一時軒、閑々堂、初め一有と號す、宗因又望一門、因州鳥取の人、大阪に住し、醫を業とす。

○芭蕉、彦根月の澤月照寺に遊ぶ。

○上島鬼貫、幻住庵を訪ふ。

○許六、支考芭蕉の門に入る。

○此頃最も俳諧隆盛を極む。

- ▲足揃(只丸)、▲深川集(酒堂)、▲移徒抄(春色)、▲貞徳永代記(隨流)
- ▲釘始(助叟)、▲北の山(勾空)、▲己か光(車庸)、▲重寶摺火打(如泉)
- ▲寶錢(釣寢)、▲罌粟合(風蘭)、▲流川集(露川)、▲葛の松原(支考)
- ▲如月(季範)、▲縷尾花(不玉)、▲眉山集(吟夕)、▲たころかさ(一棟)
- ▲塵集(都水)、▲堀川水(似船)、▲難波曲(自問)、▲宮古の栞(立志)
- ▲新湊(杏醉)、▲草蔓籠(風子)、▲菜の花(西吟)、▲河内羽二重(幸賀)
- ▲大湊(幸佐)、▲二木梅(爲卿)、▲わたち(轍士)、▲春のもの(鷺水)
- ▲夏衣(尙白)、▲假座敷(直風)、▲芥船(芥舟)、▲八重一重(遠舟)
- ▲桂姿(信徳)、▲賣若菜 ▲二葉松(不角)、▲わたまし(風山)
- ▲山太郎(千代の古道訛言) ▲俳諧猿物語(石桂、山太郎返答)
- ▲世の爲(轍士、山太郎評判) ▲秀沙汰(只丸、永代記返答難書)

三六 癸酉

▲當流俳諧小傘(未達等)

▲四十三番時代不同發句合

○山本普及生。

●西鶴歿、八月十日、享年五十二、大阪寺町八丁目誓願寺に葬る、井原氏、初め鶴水、後西鶴、又西鵬と改む、又松壽軒、二萬翁、二萬堂等の號あり、宗因門、浪花の人、稗史著作者として名あり、今に至るまで小説家の追慕して止まざる所なり。辭世、浮世の月見過しにけり未二年。

●嵐蘭歿、八月二十七日、享年四十七、谷中臨松寺に葬る、松倉氏、通稱又五郎、板倉侯の臣、晩年山井が濱金澤等に杖を曳き、鎌倉を経て歸途に上りしが、病に罹り途に歿す。

●東順歿、八月二十九日、享年七十二、白金二本榎上行寺に葬る、竹下氏、赤子と號す、由良正春門、其角の父、醫を業とす、辭世、死症には千草の露の驗もなし。

●盤珪歿、九月三日、本山に葬る、名は永琢、本庄天祥寺の開山。  
○六月二十八日、其角三圍社に於て、夕立や田をみめぐりの神ならば、の句を詠て雨を乞ふ、翌日雨ふる。

○山口素堂、芭蕉及門下と共に殘菊の莖あり。  
○野城、孤屋、利牛、芭蕉の門に入る。

三七 甲戌

▲系 曆(轍士)、▲桃の實(兀峯)、▲露川歌仙(陽川、壺中等)

▲春秋俳諧集 ▲曠野後集(荷兮)、▲萩の露(其角、赤子追善)

▲此花集(常牧)、▲蕪獅子(巴水)、▲癸酉六百韻(良子)

▲筑波法錄(桃青)、▲あらむつかし(林鴻、永代記返答)

●暫醉歿、五月二十二日。享年五十四、東本願寺門跡、大僧正常如上人、靈瑞院と號す。

●兼壽歿、五月、猪苗代氏。

●馬寛歿、八月二十一日、享年五十九、鷲氏。

●芭蕉歿、十月十二日、享年五十一、粟津義仲寺に葬る、松尾氏、幼名金作、又半七、後甚七郎、又忠右衛門、初め宗房、後桃青と號す、別に釣月軒、鳳尾、羊角、風羅坊、天々軒、羽扇等の號あり、伊賀國阿拜郡柘植村の人、彌平兵衛宗清の苗裔、其主蟬吟の歿後、季吟に従ふ、此年九月諸國を遊歴し、大坂御堂前花屋仁右衛門方に滯留中病を發し、門弟數人の介護を受けけつ、遷化せり。

○支考、伊勢より伊賀に赴き、惟然と共に芭蕉に侍す。

○九月、其角上京す。

○十月二十五日、服部嵐雪、天野桃隣江戸を發して、十一月七日粟津義仲寺に着く。

三

八

乙亥

- ▲句兄弟(其角)、▲市の庵(酒堂)、▲蘆分船(不角)、▲四五百森(示因)
- ▲寝轉草(丈草)、▲枯尾花(其角)、▲別座敷(子珊)、▲松かさ集(東潮)
- ▲其便(泥足)、▲名月集(浪化)、▲藤の實(素牛)、▲晝寐の種(荷分)
- ▲此日集(轍士)、▲七車集(轍士)、▲熊野鴉(南水)、▲獨吟百韻(東潮)
- ▲炭俵(野坡、孤屋、利牛)
- 松本芋秋生。
- 山本宗專生。
- 北村隆志生。
- 早川丈石生。
- 由的歿、十月、宇都宮氏、禎拙齋、三近子と號す。
- 一齋歿、谷氏。
- 森川許六、芭蕉遺愛の櫻樹を伐り、自ら翁の肖像を刻みて、智月尼が許に贈る。
- 春、支考は伊勢より江戸に旅立つ。
- 山口素堂、歸郷父母の墓を拜す、年五十四。
- 榎本其角、三弄子より米元章の硯を得、其銘に因て資晋齋と號す。
- 秋色女、上野觀櫻の折柄、井の端の櫻あふなし酒の酔、の句を詠ず、時に年十三。

癸

九

丙子

- 江戸に於て、前句附流行す、高點に景物を添ゆる事其比より始る。
- ▲笈日記(支考)、▲木がらし(風國)、▲寄垣諸抄大成(鷺水)
- ▲有磯海(浪化)、▲やはぎ堤(露川)、▲芭蕉翁行狀記(路通)
- ▲祇並山(浪化)、▲わかな集(嵐雪)、▲芭蕉翁一周忌集(嵐雪)
- ▲後の旅(如行)
- 重田梧山生。
- 三宅袋河生。
- 切部挑隣生。
- 呂九歿、二月二日、羽州羽黒の人。
- 舉白歿、春、草壁氏、芭蕉門、江戸の人。
- 千里歿、七月十七日、芭蕉門、大和の人。葛下郡竹の内村に住す。
- 貞木歿、十月二日、享年七十一、出口氏、花香堂と號す、西武門、京都の人。
- 馬佛歿、十一月二十二日、六成堂と號す、彦根藩の家士。
- 友元歿、正月二十四日。
- 三月、蕉翁三回忌法會を洛東々山に行ふ。
- 三月十七日、天野桃隣江戸を發足、陸奥へ吟行す。
- 浪化、洛に上る。

104 一〇 丁丑

- ▲平包(東湖)、▲若葉合(其角)、▲喪の名殘(北枝)、▲離宮物語(祖月)
- ▲初蟬(風國)、▲兒の峰集、▲元祿拾遺(轍士)、▲桃ねぶり(路通)
- ▲翁草(里國)、▲韻 寒(許六)、▲留守見舞(其角)、▲浮世の北(可吟)
- ▲芭蕉庵小文庫(史那)

○淺田八百彦生。

○鈴江知木生。

○雲裡房生。

●湖春歿、正月十五日、享年五十三、下谷池の端七軒町正慶寺に葬る、北村氏、名は季重、花泉院と號す、季吟長子、父と共に幕府に參仕し、法橋に叙せらる。

◎立羽不角、法橋に叙せらる。

◎各務支考、北國へ行脚す。

- ▲陸奥衛(桃隣)、▲草 枕(支考)、▲眞木柱(舉堂)、▲みとせ草(助叟)
- ▲夕 紅(調和)、▲錦繡綴(其角)、▲續猿蓑(芭蕉)、▲梅さくら(朱拙)
- ▲末若葉(其角)、▲光月集(東湖)、▲菊の香(風國)、▲鳥の道(立梅)
- ▲橋守集(荷兮)、▲雨夜記(宗長)、▲柱 曆(霍聲)、▲江戸土産
- ▲古今俳諧歌解(支考) ▲俳諧良材集(鷺水)

○前田青峨(二世)生。

105 一一 戊寅

○暮柳舍希因生。

○上田素鏡生。

○水原貞佐生。

●捨女歿。八月十日、享年六十五、田氏、剃髮して妙融と號す、季吟又松堅門、丹波氷上郡の人、晩年播州網干村に不徹庵を結ぶ。

●信徳歿、十月十三日(或云十一月十一日)、享年六十六、伊藤氏、通稱助左衛門、梨柿園、竹杖子、初め宗肖と號す、初貞徳、又西武、後梅盛門、京都の人。

◎六月二十日、其角、芝神明前に居を移す、此年師走類焼す。

◎十二月二日、英一蝶、三宅島に謫せられ、阿古邑に住す。

◎守田百五十回忌。

- ▲續五論(支考)、▲泊船集(風國)、▲洗 朱(調和)、▲俳諧問答(許六)
- ▲猿舞師(種文)、▲淡路島(諷竹)、▲記念題(露月)、▲續有磯海(浪化)
- ▲面々視(調和)、▲新百員(支考)、▲懷舊千句集、▲水比目魚(艶士)
- ▲産 衣、▲六部集(蝶々子)、▲篇突(許六等)、▲おくれ馳(諷竹)
- ▲千句のあと(一牛、東颯) ▲俳諧新式大成(鷺水)

○山口羅人生。

○芥川貞佐生。

106 一二 己卯



- 森川鶴人生。
- 横山几山生。
- 三谷因石生。
- 二世活涼生。
- 梅盛歿、四月八日、享年八十九、高瀬氏、通稱太郎兵衛、宗入居士、佗心子と號す、貞徳門、京都の人。
- 可全歿、享年五十七、大村氏、通稱彦太郎、季吟門、京都の人。
- ◎十二月十八日、北村季吟、法印に叙せられ、再昌院と號す。
- ◎二月、大淀三千風、相州鴨立澤に碑を建つ。
- ▲伊達衣(等躬)、▲梟日記(支考)、▲曉山集(方山)、▲曾我物語(白雪)
- ▲波籠摺(涼菟)、▲男風流(天乘)、▲糸瓜集(木節)、▲彼岸の月(路通)
- ▲青葛葉(荷分)、▲東路集(吐竜)、▲砂川集(飄竹)、▲けふを昔(朱拙)
- ▲みの笠(含羅)、▲西葉集(支考)、▲連歌至要抄 ▲鳥おとし(荷分)
- ▲旅 袋(路健)、▲荒小田(含羅)、▲茶双紙(雪丸)、▲梅の嵯峨(三種)
- ▲潮東問答(去來、篇突難陳) ▲餞別五百員(立吟)
- 長村豊秋生。
- 田中五竹生。
- 北川花杖生。

三三 庚辰

- 豆州生。
- 貞因歿、三月二十三日、享年八十、大阪八丁目寺町寶樹寺に葬る、榎並氏、通稱鯛屋善右衛門、長閑堂、白后齋と號す、貞室門、大阪の人、菓子製造を業とす。
- 舊旅歿、四月十二日、享年五十二、東本願寺門跡、大僧正一如上人、忍見院と號す、芭蕉門、後一派を立つ。
- 定之歿、九月六日、享年五十、神戸氏、東林軒と號す、令徳門、京都の人、辭世、朝顔は久しきものよ五十年。
- ◎榎本其角、茅場町薬師堂の側(現今寄席宮松亭)に草庵を結び、善哉庵と號す。
- ◎芭蕉七回忌、粟津義仲寺に法會を行ふ、支考以下俳客二百三十八人満座、蹄花集成る。
- ◎大淀三千風、仙臺に遊ぶ。
- ▲三上吟(其角)、▲一幅半(團友)、▲草庵集(勾空)、▲冬かつら(杉風)
- ▲青 蕙(除風)、▲東華集(支考)、▲櫻山伏(支考)、▲松の榮(如泉)
- ▲曉山集(應々)、▲菊の道(紫晏)、▲草の道(野坡)、▲雪月花(角呂)
- ▲月の跡(鈍子)、▲不猫蛇(越人)、▲一切經 ▲杜撰集(嵐雪)
- ▲和漢田鳥集(三千風) ▲蹄花集

三 一四 辛巳

- 六壁庵康生。
- 古澤蘆中生。
- 守 再賀生。
- 契仲歿、正月二十五日、圓珠庵、空心と號す。
- 風國歿、七月三日、芭蕉門、去來甥、京都の人。
- 貞兼歿、十月二十七日、享年八十七、藤谷氏、名は貞好、通稱甚吉、仰雲軒、桂翁と號す、貞德(或云令德)門、京都の人、辭世、月は彌陀ほさつや二十御來迎。
- ◎各務支考、北越行脚。
- ◎菅公廟八百年忌に相當、龜井戸に於て其祭典を行ふにより、其角連句を催す。
- ▲焦尾琴(其角)、 ▲笈さかし(三千風)、 ▲福神通夜物語(不角)
- ▲射水川(十丈)、 ▲蝶すがた(助然)、 ▲その花(萬子、支考)
- ▲枕かけ(露川)、 ▲續別座敷(杉風)、 ▲きれく(打込(白雪)
- ▲雪の葉(一吟)、 ▲仙つばめ(寸虎)、 ▲笠 の 蠅(不角)
- ▲石見銀(巨海)、 ▲放し鳥(晚柳)、 ▲はだか 麥(曾木)
- ▲追鳥狩(舍羅)
- 横井也有生。

三 一五 壬午

- 加賀千代生。
- 笠家舊室生。
- 馬場存義生。
- 筒井盛住生。
- 福田練石生。
- 山本翠柳生。
- 山本海徳生。
- 遊女玉菊生。
- 竹風歿。正月十七日、越後直江津の人。
- 貞恕歿、三月四日、享年七十、上鳥羽實相寺に葬る、乾氏、名は重次、通稱次郎兵衛、一囊軒と號す、花の本三世たり、貞室門、大津の人、一説寶永二年十月三日歿。
- 越人歿、三月十四日、熊本流長寺に葬る、越智氏(又佐分利氏)、名は氏恒、通稱平次郎(又七兵衛)、蘆友、蘆碩の號あり、芭蕉門、肥後熊本藩士、致仕して尾州名古屋に來り、紺屋を業とす、後復歸郷して舊主に仕ふ。
- 正立歿、八月二十一日、谷中瑞林寺に葬る、北村氏、名は季次、通稱源之丞、幼名權三郎、季吟の次子、初め新玉津島に住し、後東府に移

る。

○其角、嵐雪、東武に行はる。

○森川許六、書合の會を催す。

○浪化、去來亭に入る。

○十二月十四日、兩國土屋都文郎にて忘年の俳蕪を催す、時に隣邸吉良家に赤穂浪士研入の變あり。

○宗祇二百回忌。

○貞徳五十回忌。

- ▲藤花蔓(稻丸)、▲二番鶏(了我)、▲桑梓格(盤谷)、▲幾人水主(素覽)
- ▲替狂言(誓岸)、▲花の雲(千山)、▲花見車(轍士)、▲宇陀法師(許六)
- ▲鏡の間(魯溪)、▲二葉集(惟然)、▲松の波(車庸)、▲五十四郡(沾州)
- ▲柿表紙(吾仲)、▲其木枯(淡齋)、▲柴はし(正興)、▲三河小町(白雪)
- ▲野鴉(荻石)、▲はつ便(米柵)、▲忘 貝(霞夕)、▲しつ屋敷(箕十)
- ▲奥の細道(芭蕉)、▲俳諧書籍目錄(井筒や)、▲魂祭集(吾仲、芭蕉追善)
- ▲若えひす(驚水)、▲こまさら(芙蓉)、▲白馬集(正秀、酒堂)
- ▲二つの竹(子葉)。

一六 癸未

●子葉歿、二月四日、享年三十三、高輪泉岳寺に葬る、大高氏、名は忠雄、通稱源吾、赤穂淺野家の義士、松平家に於て死を賜る、沾徳門、

辭世、梅で飲む茶屋もあるべし死出の旅。

▲春帆歿、二月四日、享年三十四、高輪泉岳寺に葬る、富森氏、名は正因、通稱助右衛門、赤穂淺野家の義士、細川邸に於て死を賜る、沾徳門。

●竹平歿、二月四日、享年三十七、高輪泉岳寺に葬る、神崎氏、名は則休、通稱與五郎、赤穂淺野家の義士、毛利邸に死を賜る。沾徳門。

●丹子歿、六月十八日。

●浪化歿、十日九日、享年三十二、東本願寺門跡一如大僧正の連枝、越中井波瑞泉寺の住職、應々山人、休々山人、自遣堂等の號あり、芭蕉門。

- ◎正月二十九日、北村季吟、八十歳の賀蕪を開く。
- ▲分外集(艶士)、▲夜話狂(支考)、▲染 糸(炭翁)、▲寶の市(樂山)
- ▲日本國(如泉)、▲廣海原(不角)、▲入日記(雲鈴)、▲青すだれ(矩久)
- ▲行脚戻(涼菟)、▲草 枕(支考)、▲四山集(菰洲)、▲わたらね(渭北)
- ▲小柑子(野紅)、▲當座拂(千山)、▲虚空集(波山)、▲伊吹四時(大川)
- ▲より柳(水音)、▲草蒬笛(牧童)、▲前句付寶船(露月)

元 寶永(七年) 甲申

●改元、三月三十日。  
○隠岐米史生。

- 足高五蓮生。
- 北村隆志生。
- 速水花里生。
- 大越露光生。
- 里村昌迪生。
- 才牛歿、二月十九日、享年五十四、芝三線山寺中常照院に葬る、堀越氏、通稱重兵衛、才磨門、元組市川團十郎、俳優なり。
- 丈草歿、二月二十四日、享年四十五、近江國粟津龍ヶ岡東林の中に葬る、内藤氏、幼名林之助、後林右衛門、弘句庵、懶窩と號す、初め尾張犬山侯の重臣、自ら指を切つて仕を辭し、芭蕉の門に遊び、粟津龍ヶ岡に草庵を結んで、佛幻庵と號す。
- 知足歿、四月十三日、享年六十五、千代倉氏、通稱勘左衛門、照軒と號す、其居を稱して寂照庵、蝸廬亭と云ふ、芭蕉門、尾州鳴海の人、其一家悉く俳諧に遊べり。
- 立志(二世)歿、八月十日、享年四十八、淺草常福寺に葬る、高井氏、幼名犬松、松雨軒、和階堂、始め立詠と號す、一世立志二男、江戸の人。
- 去來歿、九月十日、享年五十四(或云五十三、六十二)、洛東鈴聲山真

- 如堂に葬る、向井氏、名は兼時、又義焉、通稱平次郎、又治郎太夫と稱す、千載亭、落柿舎と號す、芭蕉門、京都の人。
- 猿離歿、十一月十日、享年六十五、伊賀正崇寺に葬る、築山氏、通稱内神屋惣七郎、又六太夫、西麓庵、東麓庵、意専と號す、伊賀上野の人。
- 由平歿、前川氏、夕舟子、半幽子と號す、後釋門に入つて自入と號せり、宗因門、大坂の人、小西來山の養父。
- ◎八月、深見自休、御赦に因て江戸に歸る、(居る事貳拾四年)。
- ▲山中集(涼菟)、▲頭陀袋(竹夫)、▲家門集(朝叟)、▲白陀羅尼(支考)
- ▲あさふ(吾仲)、▲栗雀(正秀)、▲渡り鳥(去來)、▲根なし桂(長角)
- ▲薬人形(會木)、▲寺の笛(一通)、▲蛙はし(輕葦)、▲のぼり鶴(沾洲)
- ▲千日塚(除風)、▲さぼん(除風)、▲三疋猿(支考)、▲俳諧勝句(友自)
- ▲露の光(支考、浪化追善)
- 清水超波生。
- 廣瀬了派生。
- 中井仙經生。
- 季吟歿、六月十五日、享年八十二、下谷池の端七軒町正慶寺に葬る、北村氏、通稱久助、拾穂軒、湖月亭、七松子、蘆庵の號あり、松永貞

徳門、始め京都新玉津島の祠官、後幕府に参仕し五百石を賜ひ、御番醫師に準せられ、後國學博士、法印に叙せられ、再昌院と號す、辭世、花もみつほとぎすをもち出つこの世後の世もふ事なき。

●李由致、六月二十二日(或云二十日)、享年四十五、釋氏、本姓河野氏、名は亮隅、字は買年、四梅庵と號す、江州平田村光明遍照寺十四世の住職、律師に任ず。

●似船致、七月十六日、享年七十七(或云六月致、享年七十六)、富尾氏、名は重隆、通稱彌一郎、蘆月庵、柳葉軒、似空軒二世と號す、安靜門、京都の人。

●喜雲致、十月三日、享年七十、中川氏、山櫻子と號す、季吟門、京都の人。

●等躬致、十一月四日、享年七十八、岩城長松院に葬る、相良氏、通稱伊左衛門、乍單齋、巽庵と號す、初未得、後芭蕉門、奥州須賀川の人。

◎三月、北村季吟、別莊を小石川關口に設け、名付て疏儀莊と云ふ。

◎伊丹社中、杜宇の卷興行す。

▲土大根(李水)、▲夕暮集(箕十)、▲冬の花(除風)、▲夢の名殘(海菜)  
▲夏の月(一定)、▲杉丸太(野坡)、▲寸濃字(支考)、▲はたか鳥(涼菟)  
▲萬人講(來山)、▲縮(柳朝叟)、▲曾谷集(岱木)、▲其濱木綿(風雪)

○高橋都牛生。

●茂睡致、四月十四日、戸田氏、名は恭光、梨子の本、寒露軒と號す。

●成丸致、七月三十日、石田氏。

●さち女致、十一月二十二日、其角の女、妙身童女と號す。

●能順致、十一月二十八日、享年七十九、京師北野社司、加藤侯の招に應じて、小松梅林院に住す。

●智月尼致、享年七十四、芭蕉門、乙州の母、大津の人。

◎芭蕉十三回忌、洛東双林寺に萬句興行。

◎惟然坊、風羅念佛を唱ふ。

▲夜櫻(轍士)、▲家見舞(支考)、▲折目高(輕葦)、▲波計都以天(巴靜)  
▲并松(竹宇)、▲七異跡(珠來)、▲松の花(國壽)、▲風俗文選(許六)  
▲袋角(嘯風)、▲蟻の宿(台新)、▲春の鹿(魯丸)、▲潮とろみ(涼菟)

一五

四

丁亥

- ▲百鴉(宇中)、▲心一ツ(貞義)、▲東山萬句(支考、蕉翁十三回忌追善)
- ▲十三歌仙(許六、前同斷追善)、▲燈籠卷(祖月、前同斷追善)
- ▲一巡百韻(除風、前同斷追善)、▲糊飯籠(不角)

- 玉皎洞心祇生。
- 溝口素丸生。
- 河畑慶山生。

●其角歿、二月三十日、享年四十七、白銀二本榎上行寺に葬る、本姓寶井氏、榎本氏は母方の姓なり、竹下東順の男、幼名源藏又源助、寶晉齋、晋子、狂雷堂、狂而堂、六病庵、善哉庵、雷柱子、螺舍、螺子、涉川等の數號あり、芭蕉門、江戸の人、書を佐々木玄龍、書を英一蝶、儒を服部寛齋、醫を草苅三越、禪を太嶺和尚に學び、皆其道を得たり、又晋其角と稱せしは、晋の卦の象辭に、晋其角とあるに基けり。

●一品歿、四月朔日、享年六十餘(或云六十三、六十七)、芳賀氏、名は治貞、通稱順益、冥靈堂、崑山翁と號す、信徳又令徳門、書を能くす。

●好春歿、八月十一日、享年五十九、坂上氏、本姓中尾氏、後兒玉氏、字は宗悅、向陽堂と號す、元隣門、伏見の人。

●嵐雪歿、十月十三日、享年五十四、駒込竹町常驗寺に葬る、服部氏、初井上氏、幼名久米の助、雪中庵、嵐亭、石中堂、玄峯堂、寒夢堂、

一五

五

戊子

不白軒等の諸號あり、芭蕉門、江戸の人、辭世、一葉ちる咄一葉ちる風の上。

- 昌陸歿、十一月十六日、享年六十九、里村氏。
- ▲類柑子(其角)、▲青蜜柑(未雷)、▲原俳論(浮生)、▲南無俳諧(支考)
- ▲又深川(出紫)、▲我身皴(言水)、▲風の上(嵐雪追善集)
- ▲田舎わたらひ(風雲) ▲手つゝみ(白羊)

- 朧月平砂生。
- 炭 太祇生。

●隨流歿、二月十一日、享年八十、中島氏、名は勝直、通稱源左衛門、松月庵と號す、晩年薙髮す、西武門、京都の人、即吟に達し、廻文を能くす。

●竹翁歿、三月五日、享年六十二、橋部氏、耕齋と號す、好春門、京都の人。

- 支考、越後に遊ぶ。
- 惟然坊、美濃にて振袖を着る。
- ▲夏衣(支考)、▲寶の市(鬼睡)、▲田植唄(萬季)、▲庭の卷(立詠)
- ▲東六風(吾仲)、▲其角一周忌集(秋色) ▲遠のく(百里)
- 中御門天皇踐祚。

一五

六

己丑

●家宣將軍宣下。  
 ○角田琴雷生。  
 ○西川一四生。  
 ○二世相蓮生。  
 ●苔蘇歿、三月三日、享年八十五、城東妙花禪寺に葬る。岡本氏、名は正次、通稱治左衛門、芭蕉門、伊賀の人。  
 ●三千風、四月四日、大淀氏、寓言堂、無玉庵、紫冥軒、無刀軒、湖山飛山人、大箭數、一念堂、尺鷲堂、椿木庵、無月庵、行脚散人、友翰、無不非軒、呑空法師と號す、此日を以て命期なりと云ひ、自ら碑を立て、東往居士の碑と云ふ、瓢然庵を去りて之く所を知らず、辭世、假に來て眞に歸る心衛門生れぬ前の父なし子也、又曰、けふぞはや見ぬ世の旅へ衣更。  
 ●曾良歿、十月二十二日、河合氏、名は宗悟、通稱惣五郎、芭蕉門、信州の人、豊前松本に於て歿す、一説に寶永七年五月二十二日歿、享年六十二。  
 ●得入歿、十二月二十四日、淺草誓願寺に葬る、小澤氏、通稱太郎兵衛、初め孤吟、後卜尺と號す、初め季吟、後芭蕉門、江戸の人、本舟町に住し坊正たり。

三七 庚寅

●松春歿、坂上氏、又兒玉氏、池流亭と號す、好春男、元隣門、京都の人。  
 ●九月、英一蝶、赦に逢ふて三宅島より江戸歸る(居る事拾貳年)。  
 ○惟然坊、行燈を提げて、くらがり峠を越ゆ。  
 ▲系 屑(淡々)、▲笈小文(乙州)、▲烏筑波(青流)、▲十六夜集(吟墨)  
 ▲星 合(朱拙)、▲寄南篇(仙鶴)、▲新玉櫛笥(鷺水)  
 ▲白扇集(浪化追善集) ▲根なし草(草土)  
 ○神澤杜口生。  
 ○中島五始生。  
 ○堀田六林生。  
 ○僧 霜後生。  
 ●惟然歿、五月二十一日(或云二十七日)、廣瀬氏、風羅堂、辨慶庵、鳥落人、梅花佛、初め素牛と號す、芭蕉門、美濃の人、一説に正徳五年二月九日歿。  
 ●我黒歿、十月六日、享年七十一、中尾氏、李洞軒、青白翁と號す、重頼門、京都の人。  
 ○芭蕉十七回忌。  
 ●三月、京都東山雙林寺に於て、海内の俳人相集り芭蕉の碑を建て、三

正徳(五年)

元 辛卯

晝夜の法樂を行へり、文は俳諧十論衆議に出たり。

- ▲貞享式(支考)、 ▲續誰か家(百里)、 ▲三十六歌仙(李天)
- ▲船庫集(東推)、 ▲粟津の原(桃隣、蕉翁十七回忌追善)

●改元、五月七日。

○戸田文鳴生。

○交買明生。

○壽秀國生。

●園水歿、正月四日、享年四十九、北條氏、平元子、橘堂、白眼居士、西鶴庵等の號あり、初め西鶴、後才麿門、京都の人、常に西鶴の人となりを慕ひ、西鶴歿後七年間留つて彼が廬を守れり、又數種の稗史を著して名あり、辭世、おほろく引へく胸の月清し。

○各務支考、自ら歿すと稱して跡を暗ます、而して阿難話といふ追善集を自刻す、實は越中の地に隠るといふ。

▲枝葉集(沾徳)、 ▲東山墨直(支考)、 ▲とくくくの句合(素堂)

●家繼將軍宣下。

○菅原飛良生。

○大藏千丈生。

二 壬辰

○二日坊生。

○鳳原生。

●風和歿、二月十八日、享年六十一、江原氏、正六位佐渡守、壺竹軒、梅樹軒と號す、調和門、江戸の人、辭世、梅ちらし句のつちを故郷へは。

●貞富歿、五月六日、享年七十二、大坂八丁目寺町寶樹寺に葬る、椋並氏、通稱鯛屋清左衛門、花實庵と號す、貞因の從弟、狂歌を能くす。

●桐葉歿、五月十三日、熱田白鳥山法持寺に葬る、林氏、通稱七左衛門、芭蕉門、尾州熱田の人。

●只丸歿、十一月二日、享年七十餘、法名覺印、弄松閣、樹心房、鴨水子と號す、高田宗の僧、京都本誓寺中福昌院の住職、辭世、陸を思ふ鴨や浪花の水はなれ。

●常信歿、狩野氏。

○立花北枝、舍羅を訪ふ。

▲千鳥掛(蝶羽)、

▲把菅(風和)、

○正木風狀生。

○木村巨石生。

▲温故集(蓮谷)、

▲耕作集(沾石)、

▲新古山川集(龍雀)

▲正風彦根舛(許六)

三 癸巳



- 八木此通生。
- 居初乾峰生。
- 鈴鹿笠石生。
- 一峰歿、五月二日。
- ◎露川、涼菟、北越行脚。
- ◎其角、嵐雪七回忌。
- ▲赤裸(風竹)、▲泉陽俳諧作者部類(芹帆)、▲其角七回忌(序沾徳、跋青流)
- ▲このむれ(湖十、其角追善)、▲源氏繪寶枕
- ▲獨言(鬼貫)
- 笠家左衛生。
- 二世梅住生。
- 二世蘭石生。
- 暫軒歿、三月三十日、谷中威應寺に葬る、根岸氏、名は貞利、通稱長兵衛、江戸の人、幕府の家士。
- 樵花歿、七月十三日、狩野氏。
- 秀和歿、八月、享年六十餘(或云六十四)、大野氏、炭瓢齋、相水翁、又集和とも號す、似春門、江戸の人。
- 篤信歿、八月、二十七日。

二六 四 甲午

二七 五 乙未

- ▲不猫蛇(越人)、▲俳諧十論(支考)、▲幾久いた、き(周竹)
- ▲山琴集(巴分)、▲菊十歌仙(伯菟)、▲みかへり松(祇空)
- ▲あさかり(涼菟)、▲伊丹發句合(才麿)、▲和訓三昧詩(許六)
- 大島夢太生。
- 川上不自生。
- 春澄歿、七月二十日、享年六十三、青木氏、名は貞悟、通稱庄右衛門之平翁、印雪軒、素心子と號す、重頼又貞恕門、京都の人。
- 正業歿、八月十二日、享年六十一、田中氏、淡葉軒と號す、常矩門、京都の人。
- 助叟歿、八月十二日、片山氏、椿木亭と號す、常矩門、京都の人。
- 常春歿、八月十三日、享年七十二、服部氏、眠柳亭と號す、令徳門、京都の人。
- 如泉歿、八月十七日、享年七十餘、齋藤氏、眞珠庵、初め朝三と號す、梅盛門、京都の人。
- 許六歿、八月二十六日、享年六十、森川氏、名は百仲、字は羽官、通稱金平、又五助、五老井、菊阿佛、琢々庵、風狂堂、無々庵、横斜庵等の號あり、芭蕉門、江州彦根井伊侯の家士、癩瘡を病んで歿す。
- 調和(二世)歿、十月十七日、享年七十八、築地本願寺中に葬る、岸本

氏、名は友正、通稱猪右衛門、士齋、壺瓢軒と號す、安靜門、江戸の人、辭世、此一句衆議判もなし用。

◎涼菟、支考、麥林亭に會す。

▲八夕暮(乃露)、

▲發願文(支考)、

▲歴代滑稽傳(許六)

▲土佐士産(博長)、

▲梅のわかれ(支考)

享保(二十年)

元 丙申

●吉宗將軍宣下。

○藍荻庵鞭丸生。

○谷口蕪村生。

○松本百花生。

○宮原雪堂生。

●吹我歿、九月、長田氏。

●來山歿、十月三日、享年六十三、逢坂山一心寺に葬る、小西氏、十萬堂、湛々翁と號す、初め由平、後宗因門、大坂の人、攝南今宮に住せり、攝津守行長の苗裔なりと、辭世、來山は生れた谷で死ぬるなりそれで恨も何もかもなし。

●高尾歿、十一月二十五日、享年七十七、仙臺荒町日蓮宗法龍山佛眼寺に葬る、幼名小よし、新吉原三浦屋の遊女、野州鹽原の産、伊達綱宗

尼袋  
本信風  
破(方十教前後)  
正月十日

候に落藉せられ、お棺の方と稱す、世に仙臺高尾、又二代目高尾と唱ふ。

●菊所歿、十二月二十七日。

▲老の寢覺(鬼貫)、 ▲いなふね(浮菟)、 ▲削かけ(白狂、不猫蛇返答)

▲寝轉草(丈草)、 ▲兩部餅祭(治天)、 ▲江戸いかだ

○小萱若狐生。

○歌川尼生。

●浮生歿、正月二十三日、享年四十八、小日向金剛寺に葬る、北藤氏、

銀塘居、迦樓羅園と號す、季吟門、江戸の人。

●和英歿、二月四日、享年四十餘、築地本願寺中に葬る、岸本氏、名は

元貞、壺枕齋と號す、調和養子、徳元門、江戸の人。

●堤享歿、二月十二日、享年四十餘、深川法禪寺中南龍院に葬る、下村

氏、通稱又右衛門、螺舎と號す、其角門、江戸の人、歿日に就て諸説

あり、三月十一日、全十三日、二月十七日、又享年五十五と云ふ。

●涼菟歿、四月二十二日(或云二十八日)、享年五十九(或云五十七)、岩

田氏、名は正致、通稱權七、神風館、團友齋と號す、芭蕉門、伊勢の

人、山田の洞官たり、辭世、合點ちや其曉のほととぎす。

●素堂歿、八月十五日、享年七十五、谷中感應寺中瑞音院に葬る、又小

丁酉

石川指夕谷町巖淨院に墓あり、甲府尊勝寺にも碑ありと、山口氏、名は信章、字は子達、又公商、通稱勘兵衛、幼名重五郎、又市右衛門、初め來雪と號す、別に今日庵、其日庵、信章齋、素仙堂、蓮池翁、葛飾隠士等の號あり、甲府の人、江戸に出て葛飾郡河武に住す、北村季吟門、世に葛飾風の祖と稱す。

●殘口歿、九月二十一日、享年六十三、増穂氏、名は最中、蟠龍子、似切齋と號す、豊後の人、京に出て近衛公に仕ふ、國學者たり。

▲古今抄(支考)、▲戀獨吟(淡々)、▲初蟬集(野坡)、▲本朝文鑑(支考) ▲百福壽(沾涼)、▲摘草劔(悅水)、▲通天橋(馬山)、▲晝寢隨筆(陶巨) ▲兩國曲(燕説)、▲横平樂(治天)、▲鶴尾冠(越人)、▲船たより(沾徳) ▲通俗志(員九)、▲新雪みどり ▲もと柏(言水句集)

▲俳諧百曲(市山等)

三 戊戌

○大伴大江丸生。

○一世川柳生。

○人見蝶々生。

○谷口鶏口生。

○二世徑童生。

○似鳩生。

●北枝歿、五月十二日、金澤卯辰山心蓮社の境内に葬る、立花氏、通稱次郎右衛門、鳥翠臺、趙子の號あり、芭蕉門、加州金澤の人、加賀藩の研師にして、牧童の弟なり。

●正宣歿、五月十二日、享年五十八、香田氏、衰翁、堪忍軒、松戸、初め朋水と號す、初芭蕉、後松堅門、京都の人。

●風虎歿、五月二十九日(或云九月十九日)、享年六十七、内藤氏、名は義泰、左京亮と稱す、奥州磐城平の城主、風鈴軒、白藤子、紫硯の號あり、宗因門。

●介我歿、六月十八日、享年六十七、淺草門跡添地淨材寺(或云等光寺)に葬る、佐保氏、甘雨亭、初め普仙と號す、芭蕉門、江戸の人。

●白雲歿、十月朔日、

●千代女、加賀にて福岡彌八に嫁す、澁かろかしらねど柿の初ちきり、の詠あり。

◎園女、剃髮して名を智鏡を改む。

◎蓮二、今不動に獅子庵を建つ。

◎立圃五十回忌。

▲九折集(言水)、

▲遠千鳥集(伊丹社中)

▲木の葉駒(來山)、

▲奈滿津波止(里仲)

己亥

- 建部涼袋生。
- 増田眠牛生。
- 野村其梅生。
- 村田車用生。
- 宮本修古生。
- 言水歿、九月二十四日、享年七十三(或云七十二)、京極誠心院中和泉式部が塔の傍に葬る、池西氏、名は則良、通稱八郎兵衛、紫藤軒、風下堂、洛下堂と號す、南部の人、江戸檀林派の俳人、木枯の果は有り海の音、の句に因て世に木枯の言水と稱せらる。
- 宗久歿、十月三日、川勝氏。
- 桃隣(二世)歿、十二月九日、享年七十一(或云八十一)、淺草新寺町新光明寺に葬る、天野氏、通稱藤太夫、太白堂、桃池堂、吳竹軒、五無庵、桃翁の號あり、芭蕉門、江戸の人、始め藤堂侯に仕ふ。
- 故考歿、岸氏、通稱庄右衛門、岷考門、紀州の人。
- 其角、嵐雪十三回忌。
- 各務支考、自ら歿すと稱し跡を暗ませしが、再び現はる。
- ▲類柑子(其角)、 ▲露川責(支考)、 ▲十論爲辨抄(渡部狂)
- ▲六百韻(淡々)、 ▲野馬盛(知名)、 ▲花の首尾(木又)

庚子

- ▲岩 蕪(正興)、 ▲繪大名(格枝)、 ▲花月六百貝(白鷗等序)
- ▲其蓮集(紫紅)、 ▲庵の記(露川)、 ▲三 千 折(惟然)
- 茨木素因生。
- 堀田麥水生。
- 湯淺隨古生。
- 其重歿、二月廿五日、梅津氏、名は忠昭、通稱半右衛門、其角門。(案ずるに其年、文麟、親水は全一人か半右衛門の名は代々の通稱なるべし)
- 曲翠歿、七月二十日、菅沼氏、通稱外記、馬指堂、初め曲水と號す、芭蕉門、膳所の藩士、主君の爲めに故ありて自殺す、一説に享保八年歿。
- 寶翁歿、七月二十三日、中野氏。
- 道山歿、八月十五日、享年六十四、井上氏、櫻戸と號す、晚山門、京都の人。
- 無卜歿、十月二十日、享年六十二、平田氏、幽翁と號す、越後の人、江戸に住す、辭世、其心其期になりて其覺悟先それまではそれよ世の中。
- 各務支考、東國に遊ぶ。
- ▲雪の光(百花)、 ▲都曲集(言水)、 ▲三十六番句合(沾涼)

六 辛丑

▲筑波紀行櫻の實 ▲綾錦(沾涼、三十六番句合も入る)  
○石田賦泉生。  
○牧 冬映生。

●宗知歿、六月十二日、縣氏、名は俊正。

▲身延 詣(貞佐)、 ▲夢中間答(何狂)、 ▲五十人一首(珍茶)

▲東 海 道(何狂)、 ▲庵の節句(三選)、 ▲續余花千句(沾徳)

▲齋 俵(虚白、竹司)

七 壬寅

○左橋燈雨生。

○寶田普成生、

○池部霞樵生。

○僧 化來生。

●尙白歿、七月十九日、享年七十三、江左氏、初鹽川氏、名は三益、木

翁、芳齋、老贅子と號す、初不卜、後芭蕉門、大津の人。

●清佐歿、九月十八日、享年四十七、北田氏、松貞門、京都の人、辭世、

木まもりとなりて益なき此身かな。

●氷固歿、十二月一日、松木氏、通稱長左衛門、後に非群と號す、伊賀

上野の人。

●同水歿、享年八十、西洞院、權大納言、時成卿。

八 癸卯

●早野巴人、上京す。

▲後の月日(譚北)、 ▲俳諧繪文匣(立詠)、 ▲俳諧いまみや草(來山)

▲俳 度 曲(沾徳)、 ▲俳諧淫書讚(緘月)、 ▲四 幅 對(東恕等)

○好文軒青牛生。

○青木十口生。

○八木五株生。

○小林文母生。

○牛吞生。

●池庵歿、二月五日、佐々木氏。

●無倫歿、二月二十九日、享年六十三、芝愛宕下青松寺中に葬る、志村

氏、拾柴軒、雪堂翁と號す、季吟門、越後の人、江戸に住す。

●千那歿、四月十七日、享年七十三、法名明式上人、葡萄坊と號す、江

州堅田本福寺十二世の住職、退院して芭蕉に學ぶ。

●正秀歿、八月三日、粟津龍々岡東林寺中丈草が墓の隣に葬る、水田氏、

通稱利右衛門、竹青堂、竹節堂と號す、江州の人、睡所藩の物頭を勤

む、菅沼曲翠の伯父。

●朱拙歿、八月三日、四野人、四方郎と號す、豊後日田の人。

○二月、生玉琴風、奥州に遊ぶ。

◎智鏡尼、安藤冠里公の母に仕ふ、耳順の賀あり。  
◎未適、仙臺躑躅ヶ岡に、三千風の碑を建つ。  
○人九千年忌。

▲淡雪(七里)、

▲難陳二百韻(支考)、

▲ひろ葉(沾徳追善集)

▲百華實(沾涼)、

▲淡々雜談集(淡々)、

▲晋子十七回(淡々)

▲俳諧煤口

▲俳諧其桂(貞佐)、

▲六十賀集(園女)

▲海音集(方設、言水追善)

▲卯のこよみ(舊徳)

天 九 甲辰

○居初乾峰(二世)生。

○堀内吟露生。

○田中李琳生。

○小澤鐵舟生。

●一蝶歿、正月十三日、享年七十三、二本榎水教寺中顯乘院に葬る、英氏、本姓多賀氏、名は安雄、字は君愛、通稱次右衛門、又助之進、幼名を猪三郎と云ふ、俳名を曉雲と號す、簗翠翁、牛丸、舊斗堂、一峰閑人、一閑山人、隣樵庵、鄰濤庵、六巢、洞雪、寶蕉、和央、雲堂、湖湖齋、北窓翁等數號あり、江戸有名の畫家、芭蕉に就て俳を學ぶ、又隆達節の曲を好み新譜を作るもの多し、辭世、まきらかす浮世のわざの色とりもありとや月のうす墨の空。

一七 一〇 乙巳

●仙家歿、五月十五日、享年八十三、谷中常在寺に葬る、江戸の俳優、山平九郎と稱す。

●立志(三世)歿、十一月二十一日(或云八月)、享年四十二、淺草常福寺に葬る、高井氏、和散齋、和敬才、初め春水、又立詠と號す、二世立志門、江戸の人。

◎蓮二、諸國へ三千化の回文を出す。

◎不角、法眼に昇進す。

▲甫鶴集(也白)、▲水の友(正秀)、▲古紙衣(虎角)、▲蓮の葉風(支考)

▲ふもとの花(緋月)

○蘆田鈍永生。

○小栗百萬生。

●秋色女歿、四月十九日、享年未詳(或云五十七)、大川瑞東江寺に葬る、大目氏、名はあき、菊后亭と號す、照降町菓子屋某の女、其角門、寒玉の妻、辭世、見し夢のさめても色の牡若。

●文山歿、五月七日、享年七十七、佐々木氏。

●桐陰歿、五月十九日、享年六十九、淺草本願寺中に葬る、新井氏、名は君美、字は在中、白石と號す、江戸時代有名の碩學。

●河東歿、七月二十日(或云二十二日)、享年四十四(或云四十二)、伊藤氏、

通稱阿部屋藤左衛門、又藤十郎、十寸見堂と號す、河東節の元祖。  
●一峰歿、九月十五日、享年八十五、河曲氏、田泉居、萬仙翁と號す、  
玄札門、江戸の人。

▲部 鶴(露月)、▲葉の甲(倫里)、▲三千化(支考)、▲ちか玉の木(露月)  
▲上京染(露月)、▲百千萬(沾州)、▲四時觀(石想)、▲江戸歌仙合(貞佐)  
▲十論爲辨抄(蓮二房)

一六 一 丙午

○松露庵(三世)鳥明生。

○細井之水(二世)生。

○村田巴江生。

○貫名髮々生。

○僧 未角生。

●琴風(一世)歿、二月七日、享年八十八、本所押上春慶寺に葬る、生玉  
氏、絮蘿架、白鶴堂と號す、芭蕉又其角門、大坂の人、江戸に住す、  
辭世、一いきに其味ひぞ春の水。

●松堅歿、二月二十三日、享年九十六、宮川氏、名は正行、松亭軒、松  
亭子、道阿居士、柿園、初め正由と號す、令徳門、京都の人、和歌を  
能くす、辭世、かり置し地水火風はかへすなり何も持たねば殘念もな  
し。

●玉菊歿、三月二十九日、享年二十五、淺草新堀永見寺に葬る、新吉原  
中萬字屋の遊女、諸藝に通す。

●園女歿、四月二十日、享年七十四(或云六十三)、深川靈巖寺中雄松院  
(念佛堂)に葬る、渡會氏、岡西惟中の妻、初美津女、後芭蕉門、伊勢  
の人、夫歿後江戸に來り深川に住し、醫を業とし禪に參し、薙髮して  
智鏡と號す、辭世、秋の月春の曙見し空は夢か現か南無阿彌陀佛、又  
發句、曉の空にうつしか阿彌陀佛。

●半殘歿、六月十二日、享年七十三、寺町佛惟山大善寺に葬る、山岸氏、  
名は棟重、通稱重左衛門、芭蕉門、伊勢の人、藤堂侯の家臣、芭蕉の  
姉姪、

●沾徳歿、六月三十日、享年六十二、本所柳島法恩寺中陽運院に葬る、  
水間氏、名は友兼、通稱次郎左衛門、合歡堂、初め友齋、後露葉、又  
沾葉と號す、初露言、後露沾門、江戸の人、書を能くし、點印に代る  
に書と以てす、朱墨兩點を加ふる茲に始る。

●晋風歿、十一月七日、柳川氏、初不卜、後其角門、攝津の人。

●昌億歿、享年六十七、里村氏。

●加賀千代、夫に挾る。

●椎本才磨、江戸に下る。

一五

一二 丁未

- ◎芭蕉卅三回忌、洛東双林寺にて萬句興行、支考之を管す。
- ▲八 鳥(野坡)、 ▲花拾遺(信安)、 ▲おくの近道(一鼠)
- ▲六の花(以人)、 ▲春の水(千鳥)、 ▲本朝八偃集
- ▲鳥山彦(沾涼)、 ▲文月往來(百花)、
- 小菅寶馬生。
- 高桑關更生。
- 河合來々生。
- 飯島吐月生。
- 辻 鼠公生。
- 野菊女生。
- 百里歿、五月十二日、享年六十二、大川端東江寺に葬る、高野氏、名は勝春、字は文館、俳諧舍堂、雷堂、初茅風と號す、初芭蕉、後嵐雪門、江戸の人、小田原町の魚商なり、辭世、死んでおいて涼しき月を見るぞかし。
- 佳風歿、十二月十四日、享年四十九(或云八十三、五十一)、谷中大雄寺に葬る、豊島氏、又志村氏、通稱平次右衛門、有紀堂、初才尾と號す、初才磨、後嵐雪門、江戸の人、儒を以て業とす。
- 魯町歿、享年七十五、芭蕉門、長崎の人。

一三

一三 戊申

- ◎春、黃鸝園里紅、加賀能登越中を行脚す。
- ◎菊岡沾涼、萬句を湯島社に興行す。
- ▲種瓢集(來川)、 ▲初茄子(吾仲)、 ▲宮遷集(露月)、 ▲和漢文藻(支考)
- ▲志か聞(雲鼓)、 ▲芋 頭(一字)、 ▲閨の梅(露月)、 ▲桃の首途(支考)
- 新井風馬生。
- 加藤野逸生。
- 織雨生。
- 鞭石歿、二月十五日、享年八十、福田氏、井龜軒、而笑堂と號す、似船門、京都の人、辭世、終にゆく岸の柳や法の兒。
- 柳雪歿、二月十九日、各務氏、通稱吉左衛門、野航亭と號す、美濃の人。
- 雲鼓歿、五月二日、享年六十四、堀内氏、千百翁、迎光庵と號す、方山門、京都の人。
- 仍民歿、七月三日、享年五十九、里村氏。
- 貞爲歿、七月十四日、享年六十、梅原氏、和海軒、柿園三世と號す、松堅門、京都の人。
- 儀丸歿、九月三十日、伊藤氏。
- 千山歿、十一月十四日、春曙庵と號す、惟然門、播州姫路の人。



一四 己酉

- 甘谷歿、長島氏、沾州門、江戸の人。
- ◎大場寥和剃髮す、年五十三。
- 露川、支考と筆戦す、事は折楔、露川責等の書にあり。
- ▲萬國燕(淡々)
- 三浦栲良生。
- 金子萬嶽生。
- 二世左藤生。
- 花千歿、七月二十七日、深川本誓寺に葬る(或云山谷宗林寺)、木耆庵と號す、湖十の妻、吏登の姉、江戸の人。
- 杜若歿、八月六日、正崇寺に葬る、土田氏、名は正祇、通稱小左衛門、初め祚良と號す、伊賀上野の人。
- 友我歿、九月二十五日、享年六十七、谷中感應寺に葬る、根岸氏、名は眞英、通稱權兵衛、暫軒の男、江戸の人、幕府の家士。
- 孟遠歿、九月三十日、享年六十一、山本氏、横許庵、夢明房、須彌佛と號す、許六門、江州彦根の人。
- 荻子歿、十月十日、佛性山起誓寺に葬る、辻氏、名は景方、通稱五平次、芭蕉門、伊賀上野の人。
- 杉尋歿、十二月、久米田氏、柳居と號す、其角門、江戸の人、藤堂侯

の侍醫たり。

一五 庚戌

- ▲紙 蠶(貞佐)、 ▲東 花式(支考)、 ▲新撰大和詞(支考)
- ▲雲の 曇(晋雪)、 ▲花 紋日(言石)、 ▲都のつと(魯石)
- ▲象 濁(蓬萊軒)、 ▲十論拾遺(支考)、 ▲花おふこ(常陽)
- ▲俳諧九つか弓(布門、來山追善)
- 松岡青蘿生。
- 山村月巢生。
- 高 嵩谷生。
- 白居生。
- 杜芳歿、正月十八日、享年七十四、長田西蓮寺に葬る、服部氏、名は保英、通稱半左衛門、此中庵、篋虫庵、初め蘆馬と號す、芭蕉門、伊賀の人、内海流の鎗術に達す。
- 自休歿、三月十八日、享年九十一(或云九十、九十五)、本郷片町龍光寺に葬る、深見氏、名は貞國、通稱重左衛門、江戸の人、任侠を以て其名高し、晩年剃髮して龍光寺に庵を結ぶ。
- 松貞歿、四月七日、加藤氏、柿園四世と號す、貞爲門、京都の人。
- 雲堂歿、五月七日、享年七十、川勝氏、畔甘舎、吹松庵と號す、雲鼓門、京都の人。

- 方山歿、五月二十二日、瀧氏、通稱主水、招鳩軒、應々翁、初め峰山、又芳山と號す、初重頼、後似船門、京都の人、東六條御門主の家士を勤む。
- 良品歿、六月、伊賀上野萬福寺に葬る、友田氏、通稱覺左衛門、梢風尼の夫なり。
- 愚堂歿、七月十七日、享年四十八、人見氏、芥耳軒と號す、暢好門、京都の人。
- 西角歿、八月八日、享年七十(或云七十一)、寺井氏、輪花堂、村雲翁、要心居士と號す、貞兼門、京都の人、辭世、月影を借つて今行く十萬里。
- 晚山歿、八月十五日、享年六十九、瓜木氏、陰花堂、初二童齋、永可と號す、松堅門、京都の人、辭世、まめて居よ身はならはしの草の露。
- 友扇歿、十一月三日、享年七十、佐藤氏、杏花亭、桂花翁と號す、似船門、京都の人。
- 青蛾(一世)歿、十一月十三日、深川心行寺に葬る、鶯田氏、六盃仙、春來軒、百花窓、牡丹堂と號す、沾徳門、江戸の人。
- 攀高歿、十二月二十七日、享年六十四、山縣氏、杏花亭、桂花庵と號す。

三 一六 辛亥

- す、友扇門、京都の人。
- 中川乙由、加賀千代を訪ふ。
- ▲水 鏡(紹蓮)、 ▲古今抄(支考)、 ▲三日月日記(支考)
- ▲父の恩(三升)、 ▲杖の名残(金毛)、 ▲木曾の麻衣(千英)
- ▲獨吟百韻(鬼貫)、 ▲續江戸笈(青蛾)、 ▲續まさご(白應)
- ▲俳諧太郎川 ▲藤の首途(里紅)、 ▲俳諧無想集(淡々)
- 吉川五明生。
- 松本應隨生。
- 村松團雪生。
- 三浦一徳生。
- 渡邊奎綱生。
- 島 津富生。
- 歌鳥歿、正月十六日(或云十四日)、享年四十六、釋氏、春扑と號す、延清門、京都の僧。
- 支考歿、二月七日、享年六十七、各務氏、初僧にして鎮藏主と稱す、獅子庵、瑟々庵、野盤子、東花坊、西花坊、蓮二坊、見龍、華表人、桃花仙、白狂、渡邊狂、佐渡入道、十一庵等の諸號あり、初め涼菟の門に入り、後芭蕉に従ふ、美濃芝原北方村の人、世に美濃派、又は獅

- 子門統の祖と稱す、初伊勢山田に住し、後故郷に歸る。
- 何處歿、二月十一日、光明山念佛寺に葬る。
- 槐市歿、六月十一日、伊賀上野念佛寺に葬る、中尾氏、名は家重、通稱源左衛門、伊賀上野の人。
- 醉翁歿、七月十二日、野山氏、名は久忠。
- 文雅歿、七月二十日、享年五十一、宇野氏、群雀寮と號す、酉生門、京都の人。
- 祖順歿、九月十一日、洛南鳥羽實相等に葬る、青木氏、貞恕門、京都の人。
- 暢好歿、十月二日、享年四十、平岡氏、通稱與左衛門、文蛤子と號す、延清門、京都の人。
- 丈竹歿、十月二十七日、享年六十七、田中氏、露月堂と號す、團水門、京都の人。
- 風梧歿、享年百十六。
- 貞佐、舊室に野分の句を示し其意を問ふ。
- 盧元坊、九州を行脚す。
- ▲ 梨園(貞佐)、 ▲ 青海波(梧山)、 ● 江戸五色墨(宗瑞等)
- 落葉合(超波)、 ▲ 正風集(不角)、 ▲ 雅蕊醉狂集(一止)

一七 壬子

- ▲ 犬新山家(湖十)、 ▲ 長ふくべ(不及)、 ▲ 桐の一葉(一之)
- 五升菴蝶夢生。
- 加藤曉臺生。
- 梅若寸來生、
- 又甫生、
- 杉風歿、六月十三日、享年八十六、築地西本願寺中淨勝寺に葬る、杉山氏、名は元雅、通稱市兵衛、探茶庵、茶舎、五雲亭、裝翁、一元、鶴歩等の號あり、芭蕉門、江戸の人、深川に住す、御用御納屋たり、辭世、瘦顔に團扇をかさし絶る息。
- 吟竹歿、六月二十六日、淺井氏、沾蔬軒と號す、露沾門。
- 冠里歿、七月二十五日、享年六十二、麴町栖岸院に葬る、安藤氏、名は信友、對馬守、從四位侍從、奥州盤城平の藩主、信博の男。
- 貞佐歿、九月十二日(或云十月)、享年六十三(或云六十五)、本所法恩寺中圓理院(今陽運院)に葬る、桑岡氏、幼名平三郎、字は永房、桑々畔、鹽車、丁我、後平砂と號す、江戸の人、辭世、中枕の白粥盈てり十三夜、一説に享保十九年歿。
- ▲ 江戸紫(蝶々子)、 ▲ 柎のかつら(千翁)、 ▲ 百番句合(祇空)
- ▲ 或問珍(吏登)、 ▲ 文星觀(盧元坊)、 ▲ 古琴俳諧集(諾自)

元 一八 癸丑

▲倉の衆  
○太田九井生。

●梧山歿、三月二日、享年三十八、重田氏、奇石店と號す、初め淡々、後白鷗門、京都の人、廻文即吟を能くす、辭世、香やひらき法とく鳥のきらひやか。

●鷺水歿、三月二十六日、享年七十六、青木氏、名は五省、白梅園、三省軒、歌仙堂と號す、京都の人、又詞才に富み西鶴の流を樹んで、多くの草紙類を著す。

●百合歿、四月二十日、享年六十八、淺田氏、團扇堂と號す、團水門、京都の人。

●一止歿、七月十二日、享年八十一、正親町權大納言、從一位公通卿、白玉翁、風水軒と號す。

●朱人歿、七月十五日、鴨立澤に墓あり、虛無僧たり。

●祇空歿、四月二十三日、享年七十一、湯本早雲寺宗祇法師の墓側に葬る、稻津氏、石霜庵、竹尊者、阿桑門、空閑人、玉筍山人、初青流と號す、又京都に在る時は紫野の散雨、又敬雨と云ふ、浪花の人、宗祇法師の風流を慕ひ、芭蕉の門に入り諸國を遊歴し、晩年箱根湯本早雲精舎の傍石霜庵に歿す、辭世、此世をばぬらりと死ぬるなり地

獄つぶしの極樂の助。

●晩年歿、八月八日、享年五十八、野々山氏、桃隱居、招花堂と號す、晚山門、京都の人。

●露沾歿、九月十四日、享年七十九、鎌倉光明寺に葬る、内藤氏、諱は義英、下野守、義泰公(風虎)の嫡、遊園堂、傍池亭と號す、宗因門。

◎一世湖十、淺草寺竹の門に住し、老鼠と改名す、男永機二世湖十となる。

▲一夜松(巴人)、 ▲雨の落葉(山之)、

▲江戸名物鹿子(露月)

▲節文集(童平)、 ▲青流洞追悼

▲片歌二夜問答(涼袋)

▲其日歌仙(慮元坊)、

○三世桃隣生。

○大綱白其生。

○關 雪萬生。

○谷 素外生。

○釋 孤桐生。

○金映生。

○貞右生。

○雪才生。

元 一九 甲寅

- 暮四歿、二月二十五日、享年六十九、石井氏、石壽庵、五橋翁、初龜林と號す、初和及、後竹亭門、京都の人。
- 經定歿、二月二十六日(或云七日)、享年四十八、山本氏、規矩妙子と號す、延清門、京都の人。
- 千山歿、四月二十四日、享年六十六、深川靈岸町中淨等院に葬る、五十嵐氏、通稱紀伊國屋文左衛門、紀文大盡と稱す、又敬雨の號あり、其角門、晩年落魄して深川に住し、剃髮して茲に歿す。
- 厚佐歿、四月二十四日、小山氏。
- 延清歿、五月十六日(或云六日)、享年六十九、志水氏、恕匠子、出家して日柳と號す、常春門、京都の人、辭世、いつととも息引とるが身の歳暮。
- 大圭歿、六月三日、享年四十四、見島氏、錦綾室と號す、初正宜、後淡々門、京都の人。
- 松木淡々、京より下坂す。
- 大坂遊行寺に翁塚を建つ。
- ▲ 金藻錄(來川)、 ▲ 諸公畫譜(米仲)、 ▲ 伊丹發句合(才磨)
- ▲ 高 野(麥阿)、 ▲ 吾妻揭(巴靜)、 ▲ たつのうら(青墟)
- ▲ 櫻 鏡 ▲ 江戸今八百韻 ▲ 西山三縮集(昌迪)

二〇 乙卯

- ▲ 今宮草(來山遺稿)
- 角田智輪生。
- 里村玄川生。
- 大佐歿、三月十九日、山田氏。
- 春雅歿、六月二日、五味氏。
- 白雪歿、六月七日、享年七十五、三河國設樂郡永住寺に葬る、太田氏、名は長孝、通稱金左衛門、密雲峰、有髮散人と號す、芭蕉門。
- 貞柳歿、八月十五日、享年八十一、大坂下寺町光傳寺に葬る、板並氏、通稱喜八、又忠兵衛、油烟齋、鳩杖子、助榮亭、長生亭、珍菓亭、清雲洞、初め良因と號す、貞因男、貞峨の兄、大坂の人、又狂歌を能くし、二世豊藏坊信海と號す、狂歌中興の祖と稱す、辭世、百居ても同じ浮世に同じ花月はまん丸雪は白妙。
- 二川歿、十月九日、池田氏、樗奴齋と號す、越中富山の藩士。
- 道溪歿、十月二十三日、林氏。
- 廣澤歿、十二月二十三日、細井氏、名は知愼。
- 宜阿歿、香川氏、名は堯真、梅月堂と號す。
- 春、富岡露圓、有佐と改む。
- 松木淡々、此頃奢移を爲す。

元文(五年)

一 癸 元 丙辰

- ▲親 鸞(沾州)、▲袖土産(蘆元)、▲筑紫野(吾鼠)、▲續花摘(湖十)
- ▲鶴の歩(鶴歩)、▲夏の日
- 改元、五月七日。
- 山内花縣生。
- 笠間巨山生。
- 瀬部普成生。
- 來川歿、二月十五日、深川淨心寺に葬る、足立氏、古鈴、水軒、万界夫と號す、倫里の男、江戸の人。
- 袋河歿、五月十七日、享年四十一、三宅氏、蝶々舎と號す、其諺門、京都の人、書畫を能くす。
- 竹平歿、六月二十四日、岡林氏。
- 東涯歿、七月十七日、享年六十七、伊藤氏、名は長胤。
- 其諺歿、八月二十二日、享年七十一、四時堂、宵菊翁と號す、松塹門、京都の人、圓山正阿彌の住職、辭世、七十一年ようはもつたるつゆのたま。
- 了仲歿、八月三十日、享年八十一、古筆氏。
- 松泉歿、九月三日、享年五十三、兒玉氏、又坂上氏、池流亭、松洗、

一 丑 二 丁巳

- 小僧と號す、淡々門、松春の從弟、京都の人。
- ◎夏、榎並貞職、法橋に叙せらる。
- ▲雪月花(見龍)、▲新句兄弟(魚貫)、▲正風江戸菅笠(不角)
- ▲聲引出集(沙白非吹)
- 井上士朗生、三月十日。
- 二世梅應生。
- 才磨歿、正月二日、享年八十二、大坂西寺町萬福寺に葬る、椎本氏、本姓谷氏、名は則武、字は少文、松笠庵、甘泉庵、舊徳翁、狂六堂、春理齋、樂特小僧等の號あり、初め西丸、又八千丸と號す、西武、宗因、西鶴に隨從す、初め江戸石町に住し、後大坂天満に移住す。
- 其若歿、六月十六日、箕輪氏、東舎と號す、貞佐門、蓮谷弟。
- 榮春歿、七月十九日。
- 信安歿、八月十七日(或云十八日)、享年六十八、植村氏、棹歌齋、芥舟と號す、信徳門、京都の人。
- ◎早野巴人、四月十九日京都を發し、三十日江戸に入る。
- ▲捲簾(弄花)、▲六浦笠(團齋)、▲雪丸け、▲世の中百韻(松籟)
- ▲野遊(吏登)
- 鬼貫歿、八月二日、享年七十八、伊丹墨染寺に葬る、上島氏、又平泉

一 酉 三 戊午

氏、名は治房、通稱惣兵衛、又與惣右衛門、三郎兵衛、槿花翁、囉々里居士、即翁、佛兄、自休庵、馬樂堂の號あり、重頼又宗因門、攝州伊舟の人、歿後名大に著はる、辭世、笠とりて跡力なや春の雨。

●蘭石(一世)歿、七月二日、享年五十五、中村氏、雪竹齋と號す、知石門、京都の人、辭世、萩の聲彌陀と聞く夜を限りかな。

●安山歿、七月三日、享年六十五、阿野氏、鶴毛翁と號す、常春門、京都の人。

●湖十(一世)歿、七月二十七日(或云二月卅日)、享年六十三(或云六十二)、今戸宗林寺に葬る、深川氏、初め曾氏、木者庵、謙堂、老鼠、鼠肝、露入道、永機等の號あり、其角門、江戸の人、師歿後晋子點式を秋色より附屬せらる。

●秀竹歿、七月二十七日、關氏。

●鶴歩歿、八月二十三日、享年五十三、平野氏、通稱甚四郎、五雲亭と號す、其角門。

●宰陀歿、九月七日、享年六十四、小宮山氏、百老齋、十二庵と號す、尙白門。

▲抱籠(園二)、▲竹馬集(祇徳)、▲俳諧其傘(貞山)

○春秋庵白雄生。

一

四

己未

○神谷玄武坊生。

○常生木丹生。

○鹽田冥々生。

○市塲通笑生。

●琴所歿、正月九日。

●乙由歿、八月八日(或云十八日)、中川氏、通稱利右衛門、麥林舎、初梅我と號す、芭蕉末弟、伊勢の人、山田の祠官、慶徳圖書と稱す、一説に元文三年歿。

●沽州歿、十二月十七日、享年七十(或云八十)、深川正源寺に葬る、貴志氏、行轉軒、五千叟、橋南居、篁影堂、初め民丁と號す、沾徳門、江戸の人。

○活井舊室、劔家に立合す。

○其角、嵐雪三十三回忌。

○元隣の著、寶藏を幸藏と改題す。

▲星月夜(原松)、▲天の逆鋒(不及)、

▲友音鶴(不角)、▲卅三回(淡々)、

▲芭蕉句選(華雀)

○永井嘉栗生。

三

五

庚申

○上田澄里生。

●野坡歿、正月三日・享年七十八、小橋寺町寶國寺に葬る、又天王寺西門内に碑あり・志田氏、本姓武田氏、通稱半次郎、又彌助、字は彌亮、淺生庵、櫛子と號す、芭蕉門、越前福井の人、江戸に出て三井兩替店に勤む、中頃西海に遊び、居所を定めざる事久しく、後大坂に住し、榑木社と號す、又近江の無名庵を高津野へ移し、自ら高津翁と稱す。  
●知木歿、五月二十八日、享年四十四、鈴江氏、寄松堂と號す、知石門、京都の人。

●超波歿、七月十二日(或云二十二日)、享年三十六、淺草阿部川町稱念寺に葬る、清水氏、通稱長兵衛、獨歩庵、初め長巴と號す、貞佐門、江戸の人。

●知石歿、十二月十三日、享年六十、鈴鹿氏、寸松堂、蘆花翁と號す、鞭石門、京都の人。

◎大島蓼太、吏登の門に入る、三月五日、

◎大島蓼太、剃髮す、五月。

▲かいつの海(淡々)

寛保(三年)

二

元

辛酉

●改元、三月三日。

○大須賀鬼卵生、

●政辰歿、正月二十四日、寺澤氏。

●宣卿歿、七月二十四日。

●蝶羽歿、十一月十三日、享年六十五、千代倉氏、又下郷氏、通稱勘左衛門、寂照軒と號す、知足の男、芭蕉門、尾州鳴海の人。

●午寂歿、十二月 人見氏、一鳩林と號す、又香山野水、竹居萬仙の號あり、其角門、江戸の人。

●貞山歿、享年七十餘、桐淵氏、蘆丸舎、湖月亭と號す、尺山門、又貞室門、京都の人、後江戸に移住して、京橋桶町に居る。

◎樊川一日三千句を吐く。

▲其砧(有佐)、▲四鉢辻(貞佐)、▲寛保百韻(自主)、▲獨相撲(祇丞)

▲鳥なし三吟(祇徳)

三

二

壬戌

○竹内玄々一。

●原松歿、正月五日、享年五十八、加藤氏、猩々庵、剃髮の後虎居士と號す、其角門、常陸笠間の人、後京都に移住す。

●酉生歿、正月十五日、享年七十五(或云七十)、山口氏、喜鶴堂、露吹庵(二世)、初め優生と號す、初鞭石、後和及門、京都の人。

●巴人歿、六月六日、享年六十六、早野氏、夜半亭(一世)、鄧泉居、宋



阿、初竹雨と號す、其角門、江戸の人、辭世、こしらへて有とも知ら  
し西の奥。

●逆之歿、六月二十八日、享年六十三、松木氏、通稱次郎右衛門、卯時  
庵、青雲子、後珪林と號す、杉風門、江戸の人。

●筌石歿、六月二十七日、享年三十、鈴鹿氏、寸松堂、初知丸と號す、  
知石の男。京都の人、辭世、終に行く水無月涼し胸清し。

●貞峨歿、十月四日、享年八十、大坂八丁目寺町寶樹寺に葬る、榎並氏  
通稱喜右衛門、又善八、貞峨庵と號す、別に鳥觀齋契周の號あり、貞  
因の三男、貞柳の弟、大坂の人、醫を業とす、又淨瑠璃本の著作に従  
ひ、紀海音と號し名尤も著はる。

●鈴山歿、十一月十一日、享年三十四、人見氏、榮泉堂と號す、宋屋門、  
京都の人、一説に寛保三年歿。

◎祇徳、押上大雲寺に夢塚を建つ。

▲雪の旅(龜世)、 ▲淡々文集(淡々)、 ▲佐夜の中山(遊五)

▲龜慶追善

○大津九老生

●市貢歿、正月四日、享年五十三、吹山氏、巨璞堂、石壽庵(二世)と號  
す、初鞭石、後暮四門、京都の人。

●羽紅歿、四月三日、享年五十七、竹田氏、玄々堂と號す、鞭石門、京  
都の人、辭世、行雲にまで連た、ん時鳥。

●白峰歿、四月十八日、三田氏、風琴子と號す、初露言、後嵐雪門、江  
戸の人。

●文輪歿、七月五日、石川氏。

●無外坊歿、九月十九日、露川門、美濃大垣の僧。

●露川歿、十月三日(或云十日)、享年八十二(或云八十)、澤氏、通稱藤  
屋市郎右衛門、月空庵、月空居士と號す、芭蕉門、尾州名古屋の人。

●調和(二世)歿、堀尾氏、敲柳堂、初め和推と號す、初世調和門、江戸  
の人。

◎芭蕉五十回忌、京都に芭蕉堂建つ。

◎浦川富天、西國を行脚す。

◎芳室、甘泉庵に八十の賀筵を開く。

◎此頃俳諧宗匠江戸に卅餘人あり、夥き事にて珍らしと云へり。

▲西の奥(菊鈴)、 ▲同光忌(柳居)、 ▲藻汐袋(沾涼)、 ▲熱田日記(雪川)

▲秋の月(柳酷)、 ▲置宮筥(訥子)、 ▲著の花(祇空)、 ▲屋土里塚(無名)

▲花笠 ▲櫻狩(李坡、一草)

延享(四年)

元 甲子 改元、二月十八日。

○四睡庵素練生。

○四方庵澧水生。

○中井羅院生。

○森川亥丁生。

○扇屋墨河生。

●常仙歿、二月、志村氏、孤鶴軒、孤鶴汀、二橋庵、青麥堂、長鶴子と號す、沾州門、江戸の人。

●三升歿、二月二十七日、享年二十一、徳辨と號す、三代目市川團十郎と稱す。

●黄山歿、四月十八日、關口氏。

●大立歿、四月二十六日、享年六十九、龍田氏、水足軒と號す、才磨門、大坂の人、辭世、花は二十日我は六十九夜の明。

●潭北歿、七月三日、常盤氏、百花莊と號す、其角門、下毛那須の人。

●宗瑞(一世)歿、七月三十日、享年六十(或云六十六)、下谷幡隨院に葬る、中川氏、通稱三郎兵衛、白兔園、初風葉と號す、松風の甥、其角又杉風門、江戸の人、爲替御用を勤む。

●蘆中歿、十月六日、享年四十四、古澤氏、芸暉堂、初め牛磨と號す、

知石門、京都の人。

●流石歿、三輪氏、兎角堂と號す、初不角、後其諺門、京都の人

○田鶴樹、四國を行脚す。

▲芋 環(湖十)、▲華尋集(一九)、▲春の言(不角)、▲雪の尾花(遊五) ●家重將軍宣下。

●海徳歿、三月十三日、享年四十四、山本氏、萬龜堂と號す、雲鈴門、京都の人。

●立圃(三世)歿、十月十二日、寶生氏、通稱定太夫、萬菊翁と號す。

●信序歿、十月、二世湖十門、江戸の人。

●吟松歿、中村氏、後奥田氏、花月庵と號す、淡々門、京都の人、一説に歿年不詳なりと。

○横井也有、卯月六日江戸を發して、尾陽に歸る。

○加賀の俳士兩派に別る。

○守武二百回忌。

▲時 津風(果然)、 ▲續清鐘(不角)、

▲本たわら(一水)、 ▲米壽集(我笑)、

▲杖のつき(都因)、 ▲俳諧右紫(白羽)、

○須田一之生、 ▲俳諧識人盡(寥和) ▲浦やとり(祇中) ▲延享二十歌仙(巽室)

○鷲白生。

●湖十(二世)歿、正月二十四日、深川森下長慶寺に葬る、山谷宗林寺に碑あり、深川氏、初曾氏、巽齋、一點香、初永機と號す、初世湖十男、江戸の人。

●青峨(二世)歿、二月十五日、享年四十九、深川法禪寺(或云心行寺)に葬る、前田氏、二柳庵、紫子庵、點々齋、春來窓と號す、初世門、江戸の人。

●邦良歿、六月十四日、藤江氏。

●三惟歿、六月二十八日、菊谷氏、菊叟と號す、才磨門、大阪の人。

●南翁歿、八月二十三日、衣笠氏。

●一四歿、九月十四日、享年三十八、西川氏、明月庵、蚊齋と號す、鞭石門、京都の人、辭世、何悟る喝と一聲秋の蟬。

●白鶴歿、九月二十七日、享年七十九、大矢氏、清香庵、蘆隱軒、茅齋、初虎竹と號す、初我黒、後晚山門、京都の人。

●乾峰(一世)歿、十月四日、享年三十四、居初氏、貞五堂、初松皴と號す、雲峰の男、京都の人。

●金毛歿、十一月二十六日、享年八十、芳澤氏、蘆充翁、芳充齋、初方設と號す、言水又方山門、京都の人。

一五 四 丁卯

○加賀千代、子に離る。

▲手漉紙(蘆角)、

▲淡々發句集(分外)

▲薙髮集(何誰)、

▲乞食袋(素丸)、

▲嵐雪句集(百萬)

▲談笑隨筆(輕子)

○山路蓮之生。

●芳室歿、三月四日、享年八十四、椎本氏、甘泉庵と號す、才磨門、大阪の人。

●廬元坊歿、五月四日(或云十日)、享年五十六、仙石氏、茶話仙、獅子庵(二世)、黃鸝園、里紅の號あり、支考門、美濃の人。

●角上歿、五月八日、享年八十四(或云七十三)、釋氏、名は明因、瞬じ亭と號す、千那の養子、江州堅田本福寺十三世の住職、後三井寺の傍に住す、蕉門の人。

●逸志歿、五月二十七日、享年五十八(或云七十三)、淺草田原町報恩寺中高徳寺(或云下谷報總寺)に葬る、笠家氏、曲庵、半曲庵、致曲庵、素竹軒、玄哲、初一志と號す、才磨門、江戸の人。

●破笠歿、六月三日、享年八十五(或云八十四)、芝西久保天徳寺に葬る、小川氏、名は宗宇、通稱平助、夢中庵、笠翁、卯觀子と號す、初露言、後芭蕉門、江戸の人、又書を一蝶に學び、一蟬と號す。

寛延(三年)

- 白翁歿、八月七日、浦上氏。
- 鼓山歿、九月二十六日(或云二十三日)、享年四十六、中村氏、琴松堂と號す、雲鈴門、京都の人、廻文を能くす、辭世、有かたや月の舟うた南無阿彌陀。
- 沾涼(二世)歿、十月二十四日、享年六十二(或云六十四)、淺草誓願寺に葬る、菊岡氏、名は房行、通稱藤兵衛、又藤右衛門、崔下庵、南仙齋、米山の號あり、初一品、後露沾門、江戸の人、學和漢に通し著書頗る多し。
- 貞佐歿、十二月六日、享年六十八、河東法林寺に葬る、中川氏、後水原氏、一十軒、短頭翁と號す、初幸佐、後貞恕門、京都の人、辭世、跡はみずとしの瀬を行く千鳥哉。
- 米史歿、十二月二十七日、享年四十四、隱岐氏、四時堂(二世)、初如牛、阜澄と號す、其諺門、京都の人、辭世、心から地獄は敷居高かりき生れて行かん銀持の家。
- ▲ 五元集(旨原編)、 ▲ 鳥の都(秋瓜)、 ▲ 俳諧答問抄(羊素)
- ▲ 秋の夜(不玉)、 ▲ 鴉の昔(青夏坊)、 ▲ 五元集拾遺(旨原編)
- ▲ 合せ鏡(隆志)、 ▲ 梅の牛(一浮齋)、 ▲ 續新百韻(乙由等)

三

元

戊辰

改元、七月十八日。

○大島完來生。

- 柳居歿、五月三十日、享年六十三、淺草菊屋橋東國寺に葬る、佐久間氏、名は長利、通稱三郎左衛門、守墨庵、二斛庵、鷗心亭、眠柳、松籟庵、初麥阿、又長水と號す、沾州又乙由門、江戸の人、幕府旗下の士なり。
- 希因歿、七月十一日、享年五十一、通稱綿屋彦右衛門、暮柳舎、百鶴園と號す、北枝門、加州金澤の人。
- 春水歿、八月十四日、馬場氏。
- 萬年歿、九月一日、柳原氏。
- 仙鶴歿、十月二十一日、享年七十四、堀内氏、化笛齋、長生庵、白鶴翁と號す、沾徳門、江戸の人、嘗て京都に住し羅人等と名を齋ふす。
- 嬰利歿、十月二十二日、享年六十八、長島氏、松下庵と號す、巴人門、京都の人。
- 盤谷(二世)歿、十一月六日、千足氏、梅堂、雪香齋、比蓮塘、雙蓮、初尾谷と號す、一世盤谷門、江戸の人。
- 芳全歿、十二月二日、享年七十四、赤井氏、清水軒、初可令と號す、鞭石門、京都の人、執筆に達す。

一五二 己巳

- 雲峰歿、十二月十八日、享年七十一、居初氏、都塵舎、年々翁と號す、雲鼓門、京都の人。
- 藤角歿、木澤氏、文子舎と號す、紹廉門、大阪の人。
- ◎立羽不角、下總に遊ぶ。
- ▲其 燈(舎梁)、 ▲温故集(蓮谷)、 ▲南北新話(涼袋)
- ▲一句立(桐原)、 ▲諸歌集(瓢水)、 ▲五節句集(順也)
- ▲桑々畔句集(有砂、平砂)。
- 夏目成美生、正月十日。
- 仁井田確嶺生。
- 小野素卿生。
- 二橋花城生。
- 石井雨考生。
- 湖元歿、五月四日、享年七十四、四谷日宗寺に葬る、北村氏、始め湖原と號す、湖春の男、祖父の業を嗣て和歌所に補し、遂に法印に叙せらる。
- 鯛名歿、五月、西氏、又野村氏、狹雲坊と號す、超波門。
- 都牛歿、八月十五日、享年四十四、高橋氏、蘇々齋、千蝶子と號す、貞佐又丈石門、京都の人。

一五三 庚午

- 古道歿、十月四日、享年六十九、村井氏、無名園と號す、來山門、南都の人。
- 去音歿、十一月十日、享年六十三、高屋氏、好々舎、瑞雲弗と號す、孟遠門、京都の人。
- ◎吏登、深川に卜居す。
- ◎露川七回忌 ▲道つれ草(乍遊)、 ▲六々庵發句集(理然)
- ▲雨の惠(千鹿)、 ▲盤谷四季發句(栖鶴)
- 古賀精里生。
- 山岸秋良生。
- 桑島靜管生。
- 六花歿、正月七日、享年七十九、梅富軒と號す。
- 鶴人歿、三月朔日、享年五十二、森川氏、並苗齋と號す、仙鶴門、京都の人。
- 元昌歿、三月五日、鞍岡氏。
- 貞扇歿、五月十六日、享年六十四、北川氏、東園舎と號す、才磨又雲扇門、京都の人、後大坂に卜居す。
- 松毳歿、八月十五日、享年七十六、窪田氏、四正堂、負月翁、宗心の

號あり、正秀又芭蕉門、江州の人、後大坂に移住す。

●慶山歿、八月二十四日、享年四十四、河畑氏、三射園、遜香庵、初櫟山、又大牙と號す、羅人門、京都の人。

●馬貞歿、九月十九日、享年八十七、長野氏、名は統勝、通稱與一郎、茂林堂、甲子庵、柴石堂、瓢々坊、遠山翁と號す、芭蕉の風を慕ひ、一種の口調を詠す、豊後の人。

○松木淡々、浪花へ下向す。

▲村 雀(不角)、

▲六玉川初編(紀逸)

▲淺 綠(風律)

▲聞 蓋(風狀)、

▲玄峰集(旨原校)、

▲俳諧雀の森(和及)

▲民歌行(富天)、

▲頭陀行(江西房)、

寶曆(十三年)

元 辛未 改元、十一月三日。

○川路宜麥生。

○村上草石生。

○乾 壺外生。

○笠 萬成生。

●雲鈴歿、二月五日、享年七十八、吉井氏、吹簫軒と號す、雲鼓門、京都の人。

●石鴈子歿、三月十日、深川六間堀長慶寺に葬る、深川氏、舶窗と號す、其角門、江戸の人。

●馬光歿、五月朔日、本所桃青寺に葬る、長谷川氏、其日庵(二世)、夕可庵、絢堂、一練窓、曇花齋、如是庵、初素丸、後泥山と號す、素堂門、江戸の人。

●卜尺歿、九月三十日、淺草誓願寺に葬る、小澤氏、通稱太郎兵衛、踞齋、初孤吟と號す、得入の男、江戸の人。

●露月歿、享年八十五、豊島氏、名は貞和、通稱治左衛門、五重軒、初織月と號す、露沾門、江戸の人。

○蕪村、數年所々に遊歴して、此頃西に歸る。

○貞徳遠忌取越、實相寺に於て興行す。

○宗祇二百五十回忌、

▲俳諧家譜(丈石)、

▲古今短冊集(毛越)、

▲雪ふるし(蓼太)、

▲芭蕉翁行狀記(路通)

○龜田颯齋生、十月四日。

○島 器觀生。

○加茂季應生。

○野遊亭一巢生。

一五〇

二 壬申

- 右範歿、正月二十日、渡邊氏、又山縣氏、雲工園と號す、支考門、美濃の人。
- 林石歿、四月二十六日、享年六十三、田々良氏、伏龜堂、寸松堂、郁齋、初愚侯と號す、知石門、京都の人。
- 倭文子歿、七月十八日。
- 羅人歿、七月二十九日、享年五十四、山口氏、通稱柘屋甚四郎、蛭牙齋、御射山、老桂窩と號す、淡々門、京都の人、書肆を業とす、後年大に貞徳風を唱ふ。
- 梅應(一世)歿、十二月、山中氏、西翁堂と號す、攀高門、京都の人。
- ◎貞徳百回忌。
- ▲一丁墨(寥和)、 ▲奉納歌仙(北梅)、 ▲新石なとり(湖十)
- ▲風狂文章(支水)、 ▲續五元集(旨原)、 ▲後紅梅千句(貞屋等)
- ▲明心集
- 石川六樹園生。
- 川村碩布生。
- 六芝歿、三月二十五日、富田氏、又各務氏、通稱孫左衛門、高臥郎、星翁と稱す、支考門、美濃の人。
- 不角歿、六月二十一日、享年九十二、築地西本願寺中淨勝院に葬る、

三 癸酉

- 立羽氏、松月堂、虛雲齋、虛々齋、南々舎、千翁の號あり、不卜門、江戸の人、法眼に叙せらる、辭世、空蟬はもとのはたかに戻りけり。
- 淳信歿、八月二十一日、平林氏。
- ◎深川六間塙要津寺に傍塚建つ。
- ◎牛島長命寺に雪見塚建つ。
- ◎宗鑑二百回忌。
- ▲獲繼輪(千梅)、 ▲十論代斷志(仙鼠)、 ▲家の杖
- 去來庵普門生。
- 五世宗瑞生。
- 野村了輔生。
- 僧 千羅生。
- 吏登歿、六月二十五日、享年九十三、本所法恩寺、又深川要津寺にも墓あり、櫻井氏、雪中庵二世、嵐雪齋、初李洞、又人佐、班象と號す、嵐雪門、江戸の人。
- 祇徳(二世)歿、十一月二十六日(或云二十四日)、本所押上大雲寺に葬る、法名來藏、自在庵、遲日園、水光洞、竹陰子、實健齋と號す、祇空門、江戸の人、辭世、空さへてもと來し道をかへるなり。
- ▲雜話抄(紀逸)、 ▲俳諧十二題(北溪)、 ▲百三十番句合(淡々)

四 甲戌

四 五 乙亥

- ▲うつ蟬(柳軒)、 ▲俳諧二人笠(八菊)、 ▲涼袋獨吟集(涼袋)
- ▲紅葉合(李井)、
- 渡邊歩牛生。
- 松窓乙二生。
- 栗儿歿、正月六日、各務氏、通稱吉左衛門、支考門、柳雷の男、美濃の人。
- 冬嶺歿、五月二十六日、佐藤氏。
- 玄無歿、十一月二十一日、享年七十一、法印に叙せらる。
- 渭北歿、右江氏、牝冲巢、時々庵、葵天、初因角と號す、二世青峨門、江戸の人。
- 千代尼、素園と改む、葵水に會す。
- 祇空二十三回忌。
- ▲俳諧百太郎(牧童)、 ▲うた、ね(紹廉)、 ▲夜半亭發句帖(雁宕)
- ▲蓮二吟集 ▲教訓百首(素丸)、 ▲芭蕉句撰拾遺(寛治)
- 野士雄生。
- 不覺歿、四月十七日、名は敬じ、佛行坊、僧都に叙せらる。
- 義質歿、五月五日、三浦氏。
- 龜成歿、六月二十五日、牛島弘福寺に葬る、山本氏、雨夜庵、青特と號す、存義門、江戸の人。

三 六 丙子

一五 七 丁丑

- 豊秋歿、十一月二十九日、享年五十七、長村氏、泉鶴齋と號す、隆志門、京都の人。
- 和三歿、秋、藤田氏、二世調和門、江戸の人、土屋侯の侍醫たり。
- 其角、嵐雪五十回忌。
- 淡々、初て也有に會す。
- 烏醉、上方に行脚す。
- ▲東風流(春來)、 ▲道の雪(如鉄)、 ▲續其袋(蓼太)、 ▲花鳥の卷(寒瓜)
- ▲六家仙 ▲多すつくし(如鏡)
- 鈴木道彦生。
- 東羽歿、九月十八日、各務氏、通稱彌三次、白馬亭と號す、支考煙、美濃の人。
- 桑楊歿、十二月十八日、松葉軒と號す、桑岡貞佐門、書肆を業とす、桑楊一に桑陽に作る。
- 宗久歿、享年八十二、長島氏、甘谷の子。
- 大伴大江丸、五升庵蝶夢相會す。
- 守武の靈を五十鈴川岩井田山に祭る。
- ▲俳仙窟(涼袋)、 ▲二歌仙(松吾)、 ▲俳諧歳花集(紀逸)
- ▲咄相人(凡圭)、 ▲閑古鳥(三居庵)、 ▲俳諧衆議(信杖坊)



酉 八 戊寅

- ▲芭蕉句解(蓼太)、 ▲蜂蝶集(平時庵)、 ▲正風竹林集
- 小河原雨塘生。
- 藤森素業生。
- 内田沾山生。
- 太田萬里生。
- 中井小笠生。
- 和吟歿、正月三日、享年七十三、別所氏、常春門、京都の人。
- 寥和(一世)歿、正月二十五日、享年八十三、淺草誓願寺中林宗寺に葬る、大場氏、咫尺齋、萬里亭、茶酒隣、規矩庵、初青夢と號す、其角又嵐雪門、江戸の人、一説に全九年歿。
- 有佐歿、四月二十七日、皐月氏、露庵と號す、江戸の人。
- 柳水歿、五月十五日、享年六十七、中路氏、初桃隣、後丈石門、京都の人。
- 昌建歿、五月二十六日、享年五十五、里村氏。
- 才牛歿、九月二十四日、享年七十一、芝常照院に葬る、才牛齋、初三升、又柏庭と號す、江戸の俳優、二代目市川團十郎と稱す。
- 沾山(一世)歿、内田氏、玉桂坊、行轉軒、桂二房、初民丁と號す、沾徳門、江戸の人。

酉 九 己卯

- ▲俳諧三部書 ▲連歌安心集(重清)、 ▲夜の花(瓢水、蘭州)
- ▲涼袋獨吟集四季の卷
- 大黒庵奇淵生。
- 瀧澤羅文生。
- 鱸船歿、二月十三日、享年五十一、橋本氏、松江堂と號す、丈石門、京都の人。
- 乾十歿、二月十七日(或云十二月)、享年八十(或云八十餘)、淺草誓願寺(或云淺草寺内人丸社前)に葬る、岩木氏、通稱仁左衛門、満足軒、千歳兒、初吳丈と號す、沾州門、江戸の人、又河東節の曲を作り、竹婦人と號す、新吉原妓樓天満屋の主人たり、辭世、雪解けや八十年のつくりもの。
- 南郭歿、六月二十一日、享年七十六、服部氏、名は元高。
- 拾翠歿、秋、不自軒、樂山觀と號す、吏登門、江戸の人。
- 太魚歿、享年九十、松岡氏、伽香子と號す、芭蕉門、因州の人。
- ▲桑岡集(平砂)、 ▲近道集(古音)、 ▲鞠隨年(米仲)、 ▲壬生山家(雨林)
- ▲雪丸け(周徳)、 ▲櫻勸進(班象)、 ▲名目抄(宗順)、 ▲野坡吟草(文下)
- ▲紙 俗(底虚)、 ▲本式及古式 ▲麥林集後編 ▲自娛文章(千梅)
- 家治將軍宣下。

酉 一〇 庚辰

- 八采園寥松生。
- 遠藤曰人生。
- 保吉生。
- 千谷歿、八月二日、溝口氏。
- 移竹歿、九月十三日、享年五十一、田川氏、烟舟亭、初來川と號す、竿秋門、京都の人、辭世、たんだんの色も待るぞ種ふくべ。
- 錦江歿、九月十九日、成島氏。
- 柳真、近江に遊ぶ。
- ▲七時雨(梅丸)、 ▲黄昏日記(紀逸)、 ▲風俗陀羅尼(尺龍)
- ▲花供養(伯葉)、 ▲僧都問答(風齋)、 ▲吾かほとけ(八能)
- 成田若虬生。
- 酒井抱一生。
- 毛呂何丸生。
- 淺井參和(三世)生。
- 紀逸歿、五月八日、享年六十八、谷中龍泉寺に葬る、慶氏、自在庵、倚柱子、四時庵、竹尊者、番流の號あり、祇空門、江戸の人、辭世、此として始めて御目にかゝるとは彌陀に向て中譯なし、一説に寶曆二年歿。

四二 一 辛巳

一三〇 一一一 壬午

- 寸長歿、六月二十七日、享年四十九、丸山木妙寺に葬る、片山氏、名は邦教、百草園、種杏庵と號す、江戸の人、松平丹州の家臣。
- 之水(二世)歿、六月朔日(或云二日)、享年七十三、細井氏、通稱忠右衛門、成江堂と號す、延清門、京都の人、辭世、隨縁の浪たちや見ぬ夏の霜。
- 晋流歿、十一月二十五日、享年八十二、多田薬師堂脇に葬る、藤井氏、名は左膳、策月洞、箭青堂と號す、其角門、上野の人、奥州須賀川に住し、後江戸に隠居す。
- 淡々歿、十二月二日、享年八十八、大坂難波端龍寺(俗云鐵眼寺)に葬る、松木氏、幼名熊之助、又傳七、半時庵、勃宰翁、呂園、曲淵、渭北、三楊、百川等の號あり、其角門、大坂の人、點印に青肉を用ふるは此翁の權輿たり、辭世、朝霜や杖で書きし富士の山。
- 正月、大坂天王寺に、芭蕉の碑を建つ。
- ▲夏引集(桃鏡)、 ▲七部搜(蓼木)、 ▲三部集(牧十)、 ▲御傘難問(壽來)
- ▲初日の出(涓角)
- 櫻町天皇踐祚。
- 田川鳳朗生。
- 倉田葛三生。

- 北野鞠塙生。
- 島 欄舟生。
- 飛良歿、三月四日、享年五十一、菅原氏、三居庵と號す、乙由門、美濃大垣の人。
- 雲裡房歿、四月二十七日、享年六十六、江州粟津義仲寺に葬る、有雅翁、杉夫と號す、支考門、勢州桑名の人。
- 星飯歿、四月、種豆庵と號す、初柳居、後鳥醉門、臥雲禪師の法弟となる。
- 無陽歿、五月十七日。
- 涉風歿、五月十七日。
- 耕山歿、十月三日、船田氏。
- 几圭歿、十二月二十三日、享年七十四、高井氏、几圭庵、宗是と號す、巴人門、几董の父、京都の人。
- ▲糸切齒(春耕)、 ▲花たんす(白牛)、 ▲俳諧無門關(蓼太)
- ▲野鶴頌 ▲わがいそ(柳良)、 ▲李選文選(桃溪)
- 小林一茶生。
- 梨風歿、十月六日、享年五十餘、奥村氏、芸暉堂と號す、丈石門、京都の人、一説に寶曆十二年歿。

三三 癸未

- 心祇歿、十月二十三日、享年五十七、玉皎洞、蕉六庵、靈白、初魚貫と號す、祇空門、江戸の人。
- 鞭丸歿、十一月二十四日、享年五十五、蘆荻庵と號す、鞭石門、京都の人。
- 祇丞歿、兩國回向院に葬る、三上氏、浮山外、菜舎と號す、超波門、江戸の人。
- ◎芭蕉七十回忌。
- ▲文塚集(毎日庵)、 ▲花故事(關更)、 ▲俳諧棚さかし(蓼太)
- ▲俳諧古選(嘯山)、 ▲愚痴問答(素風)、 ▲類題明題集(涼袋)
- ▲芙蓉文集(耳得)、 ▲蛙口亭集(曉臺)、 ▲千代尼句集(阮白)
- ▲かけつ袋(文鳴)、 ▲俳諧非十論(文泰、寫本)

三二 明和(八年) 元 甲申

- 改元、六月十三日
- 再賀歿、七月十七日、享年七十三、深川靈岸寺中長專院に葬る、守氏、一口仙、春來軒、元山の號あり、二世青峨門、江戸の人。
- 風狀歿、八月二十七日、享年五十二、正木氏、風雲齋、新綾軒、初長牙と號す、羅人門、京都の人。
- 隆志歿、九月六日、享年七十、北村氏、錦花堂、信安齋と號す、信徳

門、狂歌狂句を能くす、辭世、身はほどけわれといふ日に暮にけり。  
●翠柳歿、十月十二日、享年七十二、山中氏、花木亭と號す、知木門、京都の人。

●臣石歿、十月十三日、享年五十二、木村氏、桂花亭と號す、練石門、京都の人。

●舊室歿、十一月二十八日、享年七十二、築地西本願寺中覺證寺に葬る、笠家氏、後活井氏、活々坊、聒々坊、活々井、初鰥養、岳雨と號す、曲庵門、江戸の人。

◎堀田麥水、諸子と盟會して大に正風を談す。

◎大中、龜戸聖廟の傍に連歌舎を建る。

▲猿談義(文鳴)、

▲師走獲(正月堂)、

▲紙魚日記(風律)

▲俳諧有也無也の關(千那)。

▲夜半帖(蕪村)

●因石歿、三月二十八日、享年六十七、三谷氏、松養軒、初君季と號す、丈石又林石門、京都の人、辭世、名もかへず花の浄土へ宿ばいり。

●此通歿、三月二十八日、享年五十八、八木氏、丈石門、京都の人。

●鎌州歿、九月十七日、岡井氏。

●思恭歿、十二月二十九日、享年六十九、關氏。

●信夫歿、冬、待必庵と號す、蓼太門。

二 乙酉

◎建部涼袋、淺草に移居す。

◎加舎白雄、松露庵を退く。

▲山 幸(龍水)、

▲小革籠(也有)、

▲芭蕉翁真蹟集(蓼太)

▲歳旦帳(祇徳)、

▲うもれ木(既白)、

▲乙酉墨直し(蝶夢)

▲百一集(康工)、

▲未來記(蓼太)、

▲正門昔語集(既白)

▲花月一夜論(見風)

●宋屋歿、三月十一日、享年七十九、望月氏、百葉泉、富鈴房、机墨庵と號す、巴人門、或云原松門、京都の人、宋屋一に宗屋に作る。

●米仲歿、六月十五日、深川惠然寺に葬る、岡田氏、八樂庵、權道、初

冲巢、又青墟と號す、二世青峨門、江戸の人。

●文鳴歿、九月七日、享年六十一、戸田氏、好々舎、九泉子と號す、去

音門、京都の人。

●董水歿、九月十七日、馬場氏。

●蒼狐歿、十一月六日、享年五十五、駒込徳性寺に葬る、小菅氏、名は

觀丈、通稱喜平次、柳前齋、笠庵と號す、嘗て菅神の奉納に一日五千

句を吟ず、是より五千堂の名あり、舊室門、江戸の人。

●葛才歿、秋、風一窓と號す、吏登門、駿河の人。

●白露歿、十二月十九日、大坂の人、初代八文字屋自笑の孫、八文字屋

三 丙戌

三 四 丁亥

瑞笑と稱す、辭世、病む雁の夜寒に下りておぼつかな。

▲六 指(柏舟)、 ▲いさ白山(文島)、 ▲歳旦萬寶古狀揃(祇徳)

▲蘿葉集(也有)、 ▲藤の元(五桃庵)、 ▲俳諧和の錠(由和)

○山亭馬琴生。

●太康歿、四月十二日、赤松氏。

●山林歿、九月十五日、山田氏、一抔庵と號す、米仲門、江戸の人。

●吳井歿、九月十七日、荒木氏。

●紙隔歿、九月二十三日、享年五十一(或云五十三)、風狀門、板羽氏、京都の人。

○吏登十三回忌。

○玄々一、勾當に進む。

○建部涼袋、大阪に上る。

○五升庵蝶夢、歸白院を退き、洛東岡崎村に住す。

○初良、伊勢に無爲庵を結び、新風と稱ふ。

▲瓜 之 蔓(珪山)、 ▲反古文庫(左舟)、 ▲馬光發句集(素丸)

▲俳諧袖の浦(淇水)、 ▲俳諧十三條(夢太、吏登十三回忌追善)

▲夢ひらき(百萬)

○鶴田草池生。

一 五 戊子

○草川宇橋生。

●鳥醉歿、四月四日、白井氏、名は信興、通稱喜右衛門、松原庵、松露庵、初牧羊と號す、柳居門、江戸の人、晩年大磯鴨立庵に住す、一説に明和六年歿。

●春水歿、五月十八日、北村氏。

●鈍永歿、八月九日、享年四十五、蘆田氏、九如館と號す、貞佐門、後狂歌師となる、一説に明和四年歿。

●蝶之歿、八月二十五日、享年五十一、人見氏、芳草亭と號す、市貢門、京都の人、辭世、極樂の道を西へと渡り鳥。

●春卿歿、九月十八日、村田氏。

○小林一茶、六才にして、我と來て遊べや親のない雀、の吟あり。

○玄々一、京橋に卜居す。

▲古 硯(巴龍)、 ▲鬼貫句選(太祇)、 ▲雪み漬後篇(桃鏡)

▲二夜歌仙(鳥鼠)、 ▲俳諧鱧(雪成)、 ▲俳諧近道(飛良)

▲姑射文庫(暮雨庵社中)

○櫻井梅室生。

○飯田無物生。

●壽角歿、二月十五日、築地西本願寺中淨勝院に葬る、立羽氏、千松堂

二 六 己丑

と號す、不角二男、江戸の人。

●嘉貞歿、二月、享年八十餘、本所多田藥師地中に碑あり、蹴鞠を以て稱せらる。

●盧舟歿、六月十六日、享年八十、黒瀬氏、不謙亭と號す、盧の字尊貴の謚號に類す、故に後去舟に改む。暢好門、京都の人、辭世、底ぬけや歸らぬ旅の頭陀ぶくろ。

●吾桂歿、八月二十七日、享年五十二(或云五十三)、富竹房、千浦と號す、宋屋門、京都の人。

●之水(二世)歿、九月九日、享年四十四、細井氏、一世之水の男、京都の人。

●花杖歿、十一月十七日、享年七十、北川氏、風狀門、京都の人、花杖一に荷杖に作る。

●千梅歿、方竟、又白翁と號す、千那門、江州の人、江戸に住す。

●栖鶴歿、巢居と號す、二世盤谷門、江戸の人。

◎存義、樓川、買明盟會す。

▲豎並集(都貢)、

▲十二歌仙(蓼太)、

▲松島紀行(泉明)、

▲未來記(周竹)、

▲諧俳蒙求(逸人寫本)

▲俳諧傳授天地人(鶴江) ▲ひょうたん集(嘯山、宋屋句集)

三七 庚寅

○長谷川義翁生。

○神取素健生。

●花里歿、三月十二日、享年六十七、速水氏、交錦翁と號す、隆志門、京都の人。

●乾峯(二世)歿、四月二十七日、享年四十七、居初氏、貞六堂、初扇峯と號す、雲峯の外孫、一世乾峯の甥、一世乾峯門、京都の人。

●鼠公歿、八月二十五日、享年四十四、辻氏、大黒庵と號す、春雄門、京都の人、辭世、梨の身の丸くとして果にけり。

●一甫歿、十一月十六日、小笠原氏。

○小林一茶、八才にして中村利爲の門に入り學を修め、専ら俳諧の研究に従ふ。

○蕪村、皆川淇園と書畫會す。

◎曉臺、湖南に遊ぶ。

▲連歌辨義(昌周)、

▲俳諧家譜拾遺(十口)

▲蟻塚(也有)、

▲小槌大成(豊浦)、

▲俳諧古辭談(珪山)

▲志をり萩(曉臺)、

▲草の古根(豹林)、

▲俳諧早月雨(彫波)

▲太夫新話(素丸)、

▲後の文塚

三八 辛卯

○田島寥和(四世)生。

- 辻 嵐外生。
- 釋 一瓢生。
- 龍門歿、正月四日、宮城氏。
- 素鏡歿、正月二十八日、享年七十四、新堀永見寺に葬る、上田氏、通稱與五郎、字は愚父、隨古堂と號す、素水門、信州の人。
- 眠牛歿、三月六日、享年五十三、武州糟壁驛成就院に葬る、増田氏、備前庵と號す、初齋室、後蒼狐門、江戸の人。
- 梨春歿、四月八日、後藤氏。
- 普求歿、七月二十一日、享年七十九、山本氏、松門亭、雪莎翁、初不求と號す、知木門、京都の人、辭世、心地よしあきの日和を死出の旅
- 太滙歿、八月九日、享年六十三、京都下寺町光林院に葬る、不夜庵、徳語、初水語と號す、紀逸門、京都の人。
- 波光歿、十一月九日。
- 初良、北國行脚。
- 曉臺、東國行脚。
- 蓼太、芭蕉庵を再興す。
- ▲蓼摺古義(沖翼)、 ▲俳諧三十捧(源内)、 ▲去來文章發句集(蝶夢)
- ▲雪おろし(蓼太)、 ▲俳諧名物鑑(果然)、 ▲芭蕉庵再興集(蓼太)

安永 (九年)

- 改元、十一月廿五日。
- 田喜庵護物生。
- 小島大梅生。
- 高石羅江生。
- 嵩之歿、七月三日、佐脇氏。
- 草古歿、七月二十三日、京都の人、行脚に出て越後國邑松城下に歿。
- 宗瑞(二世)歿、八月九日、享年五十二、音羽町本淨寺に葬る、廣岡氏、通稱戸太夫、二世白兎園、以龍庵、白銀臺、一叟、柳門、竹堂、片枯先生、梅人等の諸號あり、初世宗瑞門、江戸の人、水戸の藩士。
- 鶴秀歿、八月二十四日、京都の人、伏見に歿す。
- 竿秋歿、九月十一日、享年七十八、松木氏、初橋本氏、香稻庵と號す、淡々門、京都の人、辭世、名月のあとにも胸の光り哉。
- 可焉歿、九月十三日、享年七十五(或云七十九)、上阪氏、巴人門、京都の人。
- 鈴賀歿、十月九日、池田氏、九河翁と號す、宋屋門、京都の人。

▲遅八刻

▲笑ひ續け(素丸)、 ▲梅の草紙

▲落葉考、附初懷紙評(蘭更)

三二 癸巳

- 六窓歿、十一月十六日、橋庵と號す、蓼太門、江戸の人。
- 織雨歿、十一月二十一日、享年四十五、京都の人。
- ◎大島蓼太、出火に際し六間堀要津寺に立退く、其夜百韻の會をなす、緋櫻を忘れて青き柳かな、の吟あり。
- ▲類玄翁(有儘)、 ▲秋の月(曉台)、 ▲一字槃若(柏舟)
- ▲其雪影(几董、几圭の追善集)
- 角田利榮生。
- 蓮元生。
- 節士歿、四月二日、本所押上眞盛寺に葬る、市野氏、望雲齋と號す、江戸の人。
- 隨古歿、四月二十一日、享年五十四、湯淺氏、長松庵と號す、巴人門、京都の人。
- 青城歿、五月十九日、坪井氏。
- 几山歿、六月九日、享年七十五、横田氏、竿秋門、京都の人。
- ◎秋、蕪村、楞良、几董と共に油小路なる嵐山が病を訪ひ、一夜四歌仙をつくれり。
- ▲明 烏(几董)、 ▲天狗問答(風足)、 ▲十論衆議拾遺(些分)
- ▲金花傳(康工)、 ▲芭蕉文集(風徳)、 ▲あきひより(賦泉)

歴は

三三 甲午

- ▲併表紙(其明)、 ▲説叢大全(素丸)、 ▲俳諧新選(嘯山)
- ▲玉藻集(蕪村)、 ▲俳諧世説(蘭更)、 ▲二弟準繩
- 涼袋歿、三月十八日、享年五十六、(五十三、五十八、六十七の諸説あり)、牛島弘福寺に葬る、建部氏、字は孟喬、寒葉齋、吸露庵、都因、葛鼠、綾足と號す、南都の人、京師に出て僧となり諸國に遊び、野坡、希因、梅盛等に從て俳道を學び、終に還俗して江戸淺草雷神門前に住し、風神の背に袋を負へる状を見てをかしとして涼袋と號す、後京都に移り、繪事を業とし小説を綴り、専ら片歌を唱ふ、晩年東國に遊び熊谷驛に至り病を得て門人の宅に歿す、一説に安永二年歿と。
- 見風歿、四月、河合氏、白達磨と號す、加州津畑村の人。
- 李琳歿、九月七日、享年五十一、田中氏、固有庵と號す、宋專門、京都の人。
- 太蕪歿、十月二十二日、深川森下町長慶寺に葬る、松籟庵、義齋、秋瓜、初吐花と號す、柳居門、水戸の人。
- ◎士朗都貢、尾張より京都大坂に遊ぶ、弊ふくろ、にあり。
- ▲去 來 抄(曉臺)、 ▲俳諧古學要談(徳雨)、 ▲雪中庵風雪文集(蓼太)
- ▲瓜 の 實(一音)、 ▲類題發句集(蝶夢)、 ▲弊ふくろ(士朗、都貢)
- ▲澗和燈吟(素兆)、 ▲俳諧新々式(蘭更)、 ▲蕉門俳諧語録(蝶夢)



三 四 乙未

- ▲風巾の晴(以哉坊)、▲其角直指傳(三四坊)、▲芭蕉翁消息集(關更)
- ▲秋香亭句集(傘露)、▲芭蕉發句集(蝶夢)、▲常のまこと(竹阿園)
- ▲家雅見草 ▲俳諧七部集小本(序保己一、跋蜀山人)
- 三井鐵齋生。
- 霞樵歿、四月十三日、享年五十四、池野氏、名は無名、字は貸成、通稱秋平、大雅堂と號す。
- 二日坊歿、五月二十三日、享年六十四。
- 鐵舟歿、六月六日、享年五十二、小澤氏、浮月房と號す、二世徑重門、京都の人、辭世、肉眼を離れて見たし蓮の花。
- 翠扇女歿、七月四日、柏庭の妻、江戸の人。
- 仙徑歿、七月二十九日、享年七十一、中井氏、春里庵、千徑と號す、竿秋門、京都の人、辭世、嗣王樹の何共なしに秋暮ぬ。
- 修古歿、八月四日、享年五十七、宮本氏、文肯舎と號す、竿秋門、京都の人。
- 千代尼歿、九月八日、享年七十四(或云七十五)、加賀松任聖興寺(或云專光寺)に葬る、加賀國松任驛表具師福増屋六兵衛の女、夫を彌八と云ふ、幼名はつ剃髮して素園、妙林と云ふ、虛元坊行脚して松任に來りし時、其旅舎を訪ふて師弟の約を結ぶ、後支考、又乙由に従ふ、

辭世、月も見てわれも此世をかしく哉。

- 五始歿、九月十三日、享年六十六、中島氏、鳥車園、春要齋と號す、羅人門、京都の人。
- 又甫歿、十一月十五日、享年四十四、京都の人。
- 了派歿、十二月二十八日、享年七十一、廣瀬氏、宮川庵、初鐵鐸と號す、宋屋門、京都の人。
- 曉臺、佐渡に遊ぶ。
- 住吉千句興行。
- 露川三十三回忌
- ▲ノ、集(父翁)、 ▲七部搜(再版蓼太)、 ▲此あかつき(涼菟追善集)
- ▲真砂歌(蓼太)、 ▲熱田三歌仙(曉臺)、 ▲かたみ富士(白梵庵句集)
- ▲蓬萊島(去來)、 ▲雪まろけ(關更)、 ▲蕉門附句注解抄(麥水)
- ▲名所方角集(素外)、 ▲月影集 ▲佐渡日記(曉臺)
- ▲俳諧五子稿(大魯)、 ▲桃の實 ▲三春日記(蓼太)
- ▲附合小鏡(蓼太)、
- 南架歿、三月二十二日、本郷丸山本妙寺中に葬る、松角氏、通稱周藏、納涼庵、初鶴見と號す、寸長門、江戸の人、幕府の家士。
- 元雄歿、三月二十三日、田村氏。

三 五 丙申

- 雪堂歿、三月二十八日、享年六十一、宮原氏、貞松軒と號す、普求門、京都の人、辭世、今ぞ着る法の旅路の花ころも。
- 宋專歿、六月二十八日、享年八十二、山本氏、願泉舎、梅几庵、初松江と號す、宋屋門、京都の人。
- 車用歿、六月二十八日、享年五十八、村田氏、輻湊亭と號す、丈石門、京都の人。
- 山幸歿、六月、雪穿舎と號す、蓼太門。
- 步十歿、七月十七日、山谷宗林寺に葬る、風窓湖十の妻、江戸の人。
- 盛住歿、八月二十五日(或云十五日)、享年七十五、筒井氏、巴人門、京都の人。
- 子行歿、十一月二十七日、伊藤氏。
- 桃隣(二世)歿、十二月十五日、享年八十一、大久保專福寺に葬る、切部氏、通稱作左衛門、太白堂二世、桃翁、吳竹軒、五無庵と號す、初世桃隣門、江戸の人、幕府の家士。
- 五月十三日、芭蕉堂の再興落成す。
- 一茶、家を逐はれ、後江戸に出つ。
- 楞良、京に登る。
- ▲時雨笛(楞良)、 ▲三冊子(關更)、 ▲芭蕉翁付合集(蕪村)

三 六 丁酉

- ▲新虛栗(麥水)、 ▲續明烏(几董)、 ▲さひしをり(一音)
- ▲月の夜(楞良)、 ▲住吉千句(蓼太)、 ▲芭蕉翁文集(蝶夢)
- ▲菊の香(楞良)、 ▲俳諧其蓬(團齋)、 ▲芭蕉翁俳諧集(蝶夢)
- ▲三歸戒(友元)、 ▲鷹の白尾(青天)、 ▲吐屑庵句集
- 光格天皇踐祚。
- 馬場素々生。
- 曙庵秋學生。
- 賦雪歿、三月七日。
- 八百彦歿、三月二十日、享年八十一、淺田氏、十合齋、扇翁と號す、百合の男、中川貞佐門、京都の人、辭世、東へも西へも行かしたのはの雲。
- 南溪歿、五月十六日、名越氏。
- 歌川女歿、七月十七日、享年六十一、越前三國某樓の遊女、名は泊瀬川、實名ぎん、晩年江戸に出で、剃髮して瀧谷と號し、東國を行脚せり、辭世、奥底の知れぬ寒さや海の音。
- 嵐山歿、十一月二十六日、雅因と號す。
- 賦泉歿、十一月二十九日、享年五十七、石田氏、普求門、京都の人、辭世、けふといふ今日そまことの雪佛。

三七 戊戌

- 八月、本所回向院に於て、粟津義仲寺芭蕉翁像を開扉す。
- ▲風月集(留倫)、 ▲むかし口(無名)、 ▲聖廟法樂日發句(頼阿)
- ▲花七日(柳良)、 ▲春泥句集(召波)、 ▲俳諧古今句鑑(素外)
- ▲蕭條篇(徐英)、 ▲奥の近道(一鼠)、 ▲奈爾登野羅(春雄)
- ▲雲の薄(眼郎)、 ▲古來庵句集(存義)、 ▲富士筑波集(祇徳)
- ▲蓼太句集
- 飯田篤老生。
- 金澤風谷生。
- 蓬窓風外生。
- 四世川柳生。
- 竹立庵旦水生。
- 柏庭歿、二月二十五日、享年七十、芝常照院に葬る、夜雨庵、又三升と號す、江戸の俳優、四代目市川團十郎と稱す。
- 大湫歿、三月三日、南宮氏。
- 百萬歿、六月十六日、享年五十四、築地本願寺中覺證寺に葬る、小栗氏、伽羅庵、初其川、又旨原と號す、超澤門、江戸の人。
- 金映歿、八月十六日、享年四十五、京都の人、辭世、極樂のたねぞ草花南無阿彌陀。

三八 己亥

- 化來歿、九月二十八日(或云八月)、享年五十七、京都の人。
- 澄里歿、十月十九日、享年三十九、上田氏、花里門、京都の人、辭世、嘘に散る葉もなし四方の鐘の聲。
- 大魯歿、十一月十三日、釋氏、本姓吉分氏、蘆陰舎と號す、蕪村門、阿波の人、大坂に住す。
- 素堂(三世)歿、十二月二十四日、佐々木氏、名は一徳、來雪庵と號す。
- ▲旅寢論(湖桂)、 ▲釋教百韻(鴨之)、 ▲新撰猿筑波集(素外)
- ▲道の露(昌周)、 ▲俳諧鏡の花(蓼太)、 ▲奥細道管孤抄(梨一)
- ▲十分一(方圓室)、 ▲蕉門花傳授(故貝)、 ▲三篇五色墨(楚石)
- ▲もゝの親(吏登)、 ▲發聲夜話(珪山)、 ▲石をあるじ(柳良)
- ▲淺草千句集。
- 五世桃隣生。
- 團雪歿、正月四日、享年四十九、村松氏、初山曉と號す、二世紫鳳門、江戸の人。
- 貞柳(三世)歿、正月二十一日、享年八十一、廣島西寺町佛護寺に葬る、丸山氏、後芥川氏、通稱久右衛門、幼名河吉、風肝坊、艾人軒、一十軒、桃綠齋、初貞佐と號す、二世貞柳門、越州廣島の人。
- 百花歿、二月二十日、享年六十四、松本氏、荃葉堂と號す、初荃石、

- 後米史門、京都の人。
- 康工歿、三月、享年七十九、通稱澤屋伊兵衛、六壁庵、初八椿と號す、越中戸出町の人、俳諧を能くす。
- 杜川歿、四月二十一日、須藤氏、越名村の人、松村一齋の男。
- 田女歿、七月二十日、淺草本願寺中善照寺に葬る、谷口氏、名は山、眉齋と號す、櫻川の妻。
- 丈石歿、七月二十一日、享年八十五、早川氏、千載堂、初知雄、剃髮して宗順と號す、知石門、京都の人、辭世、極樂に誕生日は今日なれや。
- 文也歿、七月二十九日、享年七十五(或云八十五)、山本氏、梅園と號す、隆志門、京都の人。
- 祇徳(三世)歿、九月朔日、享年五十二、仲氏、自在庵、初祇貞と號す、初世祇徳門、江戸の人。
- 五璉歿、九月二日、享年七十六、小石川一音寺に葬る、足高氏、梅隣庵と號す、若狐門、江戸の人。
- 盛住(二世)歿、八月二十八日、享年六十六、京都の人。
- 羅院歿、十月十三日(或云二日)、享年三十六(或云五十六)、中井氏、又中村氏、蟻牙齋と號す、羅人門、京都の人、故ありて壹岐島に流さ

れて後許さる、辭世、身の秋ぞ絲瓜の皮のどんふくろ。

- 漣丈歿、十一月十八日、墨水西、錦退屈と號す、蓼太門、江戸の人。
- 左籬歿、十一月二十三日、享年六十六、下谷山下啓運寺(今日暮里に移る)に葬る、笠家氏、名は古道、素湯庵、初鴨之と號す、逸志門、江戸の人。
- 斑象歿、十一月二十五日、石中庵、初平舎と號す、吏登門、江戸の人。
- 住夕歿、森川氏、通稱五郎左衛門。
- ◎ 楞良、更科に遊ぶ。
- ◎ 存義、茅場町に住し困窮す。
- ▲ 翠 繪(吾山) ▲ 俳林不改集(調和) ▲ 三五野虫句合(氣整)
- ▲ 白翁 文章(千梅) ▲ ふたりつれ(杜口) ▲ 俳諧聯句百韻(鬼貫)
- ▲ 名所小鏡(蝶夢) ▲ 水かけ草(宜苗) ▲ 雨のやどり(閑鷗)
- ▲ 前句付自在齋 ▲ 蓼太吐月高點集(三駱) ▲ うつら衣(六林編)
- 季明歿、正月八日。
- 湖中歿、二月七日、深川淨心寺に葬る、九窓、鏡地庵と號す、江戸の人。
- 湖十(三世)歿、七月十五日、山谷宗林寺に葬る、深川氏、雷吼坊、戀橋庵、風窓と號す、江戸の人。

三九 庚子

- 萬英歿、七月二日、二松庵と號す。
- 五竹坊歿、七月二十六日、享年八十一、美濃北方西運寺に葬る、分骨は早稻田芳心院に埋む、田中氏、名は東伯、五竹庵、五筑坊、琴左、歸童仙と號す、盧元坊門、美濃の人、醫を業とす。
- 以哉坊歿、七月二十六日、安田氏、雪炊庵、無事窟、二狂と號す、五竹坊門、美濃の人。
- 吐月歿、九月四日、享年五十四、淺草田甫慶雲寺(或慶印寺)に葬る、飯島氏、通稱四郎左衛門、子規亭、不自軒、松下山人、初吏中と號す、蓼太門、駿州島田の人、後江戸に移住す。
- 來々歿、九月十七日、享年五十四、河合氏、五湖庵、初湖貫と號す、牛湖又普求門、京都の人、辭世、惟子は我が秋去る衣かな。
- 峰房歿、九月二十二日、坂上氏、竹瓦樓と號す、伊丹の人。
- 柳良歿、十一月十六日、享年五十二、三浦氏、諱は冬卿、通稱勘兵衛、無爲庵、玄仲と號す、芭蕉門、伊勢の人、京都に住す。
- ▲ 梅柳(易難)、▲ 續寒菊(杏廬)、▲ なにとを(吟江)、▲ 二きの春(秋瓜)
- ▲ 花筐(柳絮)、▲ 春秋稿(白雄)、▲ 甲子吟行(素堂)、▲ 桃李集(蕪村等)
- ▲ 佳夕追福集(寬美等)

天明(八年)

三元 辛丑

● 改元、四月十三日。  
○ 高梨一具生。

- 逆宿歿、二月六日、山谷宗林寺に葬る、風窓湖十の妻、木幽子と號す、貫考門、江戸の人。
- 風律歿、四月二十九日、享年六十一(或云六十五)、野坡門、越州の人。
- 休夫歿、六月十四日。
- 諸九尼歿、九月十日、享年六十八、湖白庵と號す、浮風の妻、夫歿して後諸國を行脚し、晩年故郷に歸住す、筑前の人。
- 九月、洛東一條寺村金福寺に芭蕉庵及碑を建つ、蕪村會頭なり。
- 大島蓼太、魚文を連れ、筑波紀行あり、
- ▲ 七柏葉(蓼太)、 ▲ 俳諧名知折(素外)、 ▲ 梅翁宗因發句集(素外)
- ▲ 種ちろし(堤亭)、 ▲ 俳諧類句辨(素外)、 ▲ 口合秘事手引草(梅亭)
- ▲ 筑波紀行(蓼太)、 ▲ 探荷集初編(宇平)、 ▲ 十番左右句合(蕪村)
- 田中毛孔生。
- 蘭石(二世)歿、正月十二日、享年六十九、中村氏、初如蘭と號す、一世蘭石の男、京都の人。
- 文麗歿、三月五日、加藤氏。
- 親和歿、三月七日、三井氏。

二 壬寅

- 隆志(二世)歿、四月二十四日、北村氏、初錦志、又隆雅と號す、一世隆志の男、京都の人。
- 浮流歿、五月二十八日、青山氏、蝶夢門、三河の人。
- 麥水歿、十月十三日、享年六十三、堀田氏、通稱池田屋長左衛門、枹庵、暮柳舎と號す、希因、支考、又乙由門、加州金澤の人。
- 存義(二世)歿、十月三十日、享年八十一、淺草誓願寺に葬る、馬場氏、有無庵、李井庵、古來庵、初泰里と號す、春來又泰室門、後二世青峨門、江戸の人。
- 樓川歿、十一月二十九日、淺草本願寺中善照寺に葬る、谷口氏、無事庵、木握庵と號す、白峰又祇空門、江戸の人。
- ◎大伴大江丸、此頃東武に在り。
- ▲花櫻帖(蕪村)、 ▲續今宮草(來山)、 ▲蕉門一夜口授(麥水)
- ▲茜 堀(梅丸)、 ▲柏掌千句(蒼狐)、 ▲西岸行(乾坤袋裡)
- ▲翁文集(蝶夢)、 ▲花百句(素外)、 ▲櫻のゆるし(辯古)
- ▲あみた笠(何來)、 ▲米恩集 ▲鶉衣後編(六林編)
- 石井了珪生。
- 沾涼(二世)歿、二月二日、享年八十五、増上寺中昌泉院に葬る、北氏、初北村氏、東芭庵と號す、舊室門、江戸の人、所縁ありて沾涼の名を

二

三

癸卯

繼ぐ。

- 平砂(二世)歿、二月二十八日、享年七十六、三田常林寺に葬る、平月氏、木姓石川氏、名は良珍、字は美叔、解庵、閑花林、新花林、分洲、初其樹、又律佐と號す、桑岡貞佐(平砂)門、江戸の人。
- 應隨歿、三月十日(或云正月)、享年五十三(或云五十二)、松本氏、窓月庵と號す、普求門、京都の人。
- 梨一歿、四月十七日、越前丸岡臺雲寺に葬る、名は高啓、字は子明、麓笠庵と號す、希因門、江戸の人。
- 也有歿、六月十六日、享年八十二、尾州海西郡藤瀬村西音寺に葬る、横井氏、名は順寧、通稱孫左衛門、半掃庵、暮水翁、初野有と號す、名古屋の人、尾州侯の重臣、千三百石を食む、俳文を能くす。
- 芑月歿、六月二十三日、享年七十四、小日向傳明院(或云谷中總泉寺)に葬る、樋口氏、名は忠鄰、通稱清右衛門、初名半七、積素と號す、江戸の人、安藤對州侯の藩士、一説に天明七年歿と。
- 冬映歿、八月二十四日、享年六十三、品川海晏寺(或云本光寺)に葬る、牧氏、桂窓、紫陽館、老蠶、一如鷺亭、白花庵、初瑞興、冬涉、又冬英と號す、初世宗瑞、柳居、三世湖十に歴從す。
- 蕪村歿、十二月二十五日、享年六十八、山城一乘寺村金福寺に葬る、

谷口氏、名は寅、字は春星、夜半亭二世、浮風庵、長庚、三果、四明、東成等の諸號あり、巴人門、攝津の人、嘗て天王寺に住せしを以て、蕪村の號あり又丹波與謝郡に往して與謝蕪村と稱す、辭世、白梅の明る夜斗と成にけり。歿日に就て、二十四日、二十九日、十一月十日、享年六十七、七十等の諸説われ共皆誤なるべし。

●貞右歿、享年五十、通稱貞右衛門、混沌軒、初國丸と號す、又烏九家より玉雲齋の號を賜ふ、丸山貞佐門、大阪の人。

◎蕉翁九十回忌、粟津、東山、一條寺村三ヶ所にて七日間の法筵を設けて、曉臺會頭となる。

▲雨の月(陵花)、 ▲風羅念佛(曉臺)、 ▲武藏野三歌仙(蓼太)

▲百羽搔(蓼太)、 ▲齒かため(素外)、 ▲古今俳諧歌解(支考)

▲年浪草(鹿文)、 ▲俳諧七車(鬼貫)、 ▲芭蕉翁文反古(大峨)

▲稗圃子(西坡)、 ▲雪の翁(半化坊)、 ▲切良七部集

▲花の翁(半化房)、 ▲俳諧狂菊抄(寫本)、 ▲翁反故塚碑記

▲五車反故(蕪村、召波追善)、 ▲七名八昧村合要録(梅人)

●保吉歿、三月、享年二十五(或云三十五)、淺草諏訪町榎寺に葬る、白

雄門、江戸の人。

●丈可歿、三月十五日、京都の人。

三 四 甲辰

●玄昌歿、四月十六日、清水氏。

●野菊女歿、五月二十日、享年五十八、深川雲光院寺中植光院に葬る、深川氏の女、本姓田本氏、名は央、又清、圓窓、初野菊庵秋色と號す、三世湖十門、江戸の人、菜種屋清兵衛の妻となる。

●周東歿、六月二十四日、本郷丸山本妙寺に葬る、片山氏、名は伊織、文月庵、初彫棠と號す、廬元坊門、寸長弟、江戸の人、松平丹州侯の家士。

●露光歿、七月九日、享年八十一、大越氏、名は祐泰、橘井軒、靈嶽と號す、露沾門、江戸の人、醫を業とす。

●吟霞歿、八月一日、享年六十一、堀内氏、松風亭と號す、仙徑門、京都の人。

●子玄歿、八月十六日、蚊田氏。

●風原歿、十月二十一日、享年七十三、京都の人。

●買明歿、十二月九日、享年七十四、東海寺中善學寺に葬る、交氏、初高橋氏、獨歩庵二世、木原居、初筆端と號す、超波門、江戸の人。

◎八千坊、筑紫に行脚す。

▲朱 紫(吾山)、 ▲江戸河(素外)、 ▲曆の裏(素因)、 ▲柳良句集(玄化)

▲俳 則(宗瑞)、 ▲新花摘(蕪村)、 ▲獨 言(鬼貫)、 ▲蕪村句集(几童)

三五 乙巳

- ▲から檜葉(几董編、蕪村終焉之記)
- 五世川柳生、正月。
- 松本樺河生。
- 月巢歿、正月五日、享年五十六、音羽山清水寺に葬る、山村氏、名は春安、時雨窓(一世)、初盤古と號す、蓼太門、駿州の人。
- 綾吳歿、五月十二日、本郷丸山本妙寺中に葬る、三宅氏、通稱勇二郎、楊柳園、柳架坊と號す、南架門、江戸の人、幕府の家士。
- 松圃歿、六月六日、山本氏。
- 枝直歿、八月十日、加藤氏。
- 素因歿、十月三日、享年六十六、茨木氏、紫庵、長松下、維山の號あり。
- 可静歿、十一月六日、享年五十八、戸田氏、瑞雲園、松亭と號す、普求門、京都の人、一説に十一月五日歿、享年五十五と。
- 橙雨歿、十一月二十八日、享年六十四(或云六十一)、左橋氏、吟松門、京都の人。
- 關更、東國を行脚す。
- 白雉、甘谷に名を與ふ。
- ▲冬 牡 丹(雪選)、 ▲青根が峰(芳廬)、 ▲續一夜四歌仙(几董)

三六 丙午

- ▲無名集(玄化)、 ▲杉風句集(梅人)、 ▲蓼太句集二編(三鶴)
- ▲夢の跡(也有)、 ▲梅の絢(素丸)、 ▲俳諧尙齒會(秀國)
- 菅長成生。
- 葵山歿、八月十五日、涌江舎と號す、蓼太門、蓼阿の兄、上總の人、辭世、浮雲の晴て浄土の花見哉。
- 米路歿、九月十日、京都の人。
- 玄々一、吾山と會す。
- ▲魁 春 帖(成美)、 ▲蕉翁消息集(關更)、 ▲芭蕉杉風兩吟百韻(寛美)
- ▲俳名即鑑(几董)、 ▲續水の面集(蓼太)、 ▲俳諧句鑑拾遺(津富)
- ▲俳諧句双紙(重厚)、 ▲附合手引蔓(几董)、 ▲旅のひとつ(徳布)
- ▲芭のかみみ(木然)、 ▲探荷集二篇(白麻)、 ▲探荷集三編(白麻)
- ▲芭蕉其角嵐雪點印論(几董)
- 大鳥對山生。
- 鹿窪南臺生。
- 五世川柳生。
- 卷阿歿、正月十三日、市ヶ谷上寺町宗泰寺に葬る、加藤氏、名は既明、字は士文、方圓居、又貫阿と號す、江戸の人。

三七 丁未



- 木丹歿、正月十六日、享年四十九、下谷廣徳寺中圓照院に葬る、常生氏、生白庵と號す、素外門、江戸の人。
- 珠來歿、二月二十九日、芝愛宕下青松寺に葬る、洪氏、名は師光、字は公實、桂花園、一石房、百花主人、初角浪と號す、二世湖十門、江戸の人。
- 徑童(二世)歿、四月七日、享年七十、佐々木氏、一翠庵、初湊竹と號す、初世經童門、京都の人、辭世、故郷への晴れや卯月の花鳥も。
- 琴雷歿、八月十六日、享年七十九、角田氏、通稱庄兵衛、五渡亭と號す、江戸の人。
- 蓼太歿、九月七日、享年八十、深川六間堀要津寺に葬る、大島氏、又櫻井氏、本姓吉川氏、名は陽喬、通稱平八、雪中庵三世、空塵居士、初里席、宜來、豐來、老鳥と號す、吏登門、江戸の人、白隠禪師に參す。
- 梅應(二世)歿、五月四日、享年五十一、山中氏、一世梅應の男、京都の人。
- 吾山歿、十二月十七日、享年七十餘、武州越谷天嶽寺に葬る、越谷氏、名は秀真、師竹庵、初古庵庵と號す、柳居又二世沾山門、江戸の人、法橋に叙せらる、辭世、花と見し雪はきのふぞ木の氷。

◎二疊庵蘭芝、畿内を行脚す。

- ▲閑更句集(曝水)、 ▲もとの水(重厚)、 ▲續一夜松前集(几董)
- ▲竹の友(瑞石)、 ▲七部拾遺(車蓋)、 ▲俳諧一茶百話(其水)
- ▲乞食袋(重厚)、 ▲一夏百歩(蓼阿)、 ▲猿蓑瓜しるし(蘭芝)
- ▲也哉抄(無腸)、 ▲吏登句集(三路)、 ▲芭蕉翁歌僊(曉臺)
- ▲俳諧骨書(李雨)、 ▲發句小鑑(蓼太)、 ▲古人五百題(龜足)
- ▲探荷集四編(星衣)、 ▲椿花文集、 ▲其角七部集(西村店)
- ▲繪本ことしの花(露月)、

二八 戊申

○足了庵承月生。

- 野士雄歿、正月十二日、享年三十三、京都の人。
- 其梅歿、二月十二日、享年七十、野村氏、通稱文右衛門、伴松庵と號す、初荃石、後丈石門、京都の人、辭世、願はくは無爲の都を住とこる。
- 花街歿、四月七日、京都の人、辭世、枯枝やはかなく残る蟬の聲。
- 青溪歿、四月二十四日、角田氏。
- 柳儿歿、春、横田氏、布袋庵と號す、柳居門、武州鴻巣の人。
- 五株歿、六月二十八日、享年六十六、八木氏、化龍館と號す、丈石門、京都の人、辭世、いとふ世をのいた心ぞ蚊帳の中。

- 然々歿、七月十六日。
  - 敲石歿、七月、中村氏、匍匐庵と號す、辭世、契りちく松や幾とせ若みどり。
  - 佳山歿、九月二十一日、中村氏、央更舎、蘭石齋と號す、初鞭石門、後二世蘭石の點業を繼ぐ。
  - 遅月、奥州に行脚す。
  - 曉臺、都を出づ。
  - 董初懐紙興行。
  - 鬼貫五十回忌。
  - ▲ 夜の柱集(曉臺)、 ▲ 一夜流行(成美)、 ▲ 俳諧一物連歌(素外)
  - ▲ 探荷集五編(午心)、 ▲ 櫻良發句集(甫尺)、 ▲ 桃の白實(車蓋)
- 寛政(十二年)
- 元 己酉
- 改元、正月二十五日。
  - 有田五双生。
  - 江口孤月生。
  - 孤桐歿、二月三日、享年五十六、釋氏、綠綺堂と號す、宋屋門。
  - 五流齋(三世)歿、二月二十二日、井上氏、小西來山の支流。
  - 湖十(四世)歿、五月二十七日、山谷宗林寺に葬る、深川氏、晋窓、黄

- 花庵、風窓、歡雷、初完車と號す、晋吟孫、初蓼木、後三世湖十門、江戸の人。
- 雨柳歿、六月十日、長谷川氏、冠木亭、初有柳と號す、江戸の人。
  - 練石歿、七月五日(或云六日)、享年八十八、福田氏、而笑堂、玄兒、石々翁と號す、鞭石孫、京都の人。
  - 蘆仲歿、九月九日、四谷内藤宿淨覺寺に葬る、倉橋氏、名は勝正、通稱忠藏、西湖堂と號す、寸長門、江戸の人。
  - 几董歿、十月二十三日、享年四十餘、高井氏、幼名小八郎、夜半亭三世、春夜樓、晋明、剃髮して詐善居士と號す、几圭の男、蕪村門、浪花の人、攝津伊丹に遊吟して俄に客死す。
  - 子鳳歿、十一月十六日(或云十月)、澤井氏、視魚堂と號す、麥里門、京都の人。
- 定家卿五百五十回忌に相當するを以て、全國詩歌連俳等に遊ぶ輩は手向の吟を奉るべき旨、堂上より各諸侯へ照會す。
- ▲ 淺草(成美)、 ▲ 探花集六編(午心)、 ▲ 芭蕉門古人真蹟(依兮)
  - ▲ 芝集 ▲ 井華集(几董)
- 兒玉逸淵生。
- 三浦有一生。
- 三二 庚戌

- 秋瓜歿、二月十一日、淺草東國寺に葬る、多少庵、初止弦と號す、柳居又大榊門、江戸の人。
- 竹阿歿、三月十三日、北窓庵、二六庵と號す、馬光門。
- 佛仙歿、六月十一日、子日庵、北海坊と號す、希因門、加賀の人、一説に天明二年歿と。
- 天水歿、九月六日、山中氏。
- 川柳(一世)歿、九月二十三日、享年七十三、淺草新堀龍寶寺に葬る、柄井氏、名は正通、通稱八右衛門、綠亭、無名庵と號す、淺草阿部川町の坊正、前句附の判者として其名高し、辭世、風やあとで芽をふけ川柳。
- 曉臺、二條殿より花の本宗匠の免許を受く。
- 青羅、曉臺、關更銅陀御殿に候す。
- 小林一茶、其日庵素丸の門に入り、初名菊明と改めて、二六庵竹阿を繼ぐ。
- 蒼虬、初て關更の門に入る、時に三十才。
- 曉臺、吉野行脚。
- ▲ 鐘筑波(紫曉)、 ▲ 夏孟子論(素丸)、 ▲ 蕉門格外辨(車蓋)
- ▲ 俳懺悔(舊國)、 ▲ 冬かつら(梅人)、 ▲ 大榊發句集(霜後)

三三 辛亥

- ▲ 夏の月(雨イ)、 ▲ 俳諧第一義(三力)、 ▲ 秋錦現世集(動水)
- 不言歿、二月二日。
- 青羅歿、六月十七日(或云十八日)、享年六十二(或云五十二)、松岡氏、幽松庵、三里房と號す、玄武門、尾州(或云播州)の人、一説に寛政二年歿と。
- 十口歿、七月二十一日(或云五日)、享年六十九、青木氏、初廣瀬氏、意心齋、初貞徳、又佐徳、晩年清古閑人と號す、中川貞佐門、京都の人、辭世、親類が醫者にさやく袖時雨。
- 六林歿、七月二十日、享年八十二、名古屋城南總見寺に葬る、堀田氏、名は六舊、字は維新、通稱紀六、恒山と號す、也有門。
- 白雄歿、九月十三日、享年五十三、品川海晏寺に葬る、加舎氏、通稱五郎、春秋庵、初昨烏と號す、烏醉門、信州の人、江戸に住す。
- 風馬歿、九月十九日、享年六十四、新井氏、名は春東、字は子珪、不及庵と號す、初世白其門、五世寥和の父、江戸の人、醫を業とす。
- 霜後歿、十二月二十九日、享年八十三、淺草道性寺中道古庵に葬る、増氏、松籟庵二世、仙堂、初自然庵、又左右六と號す、大榊門、江戸の人。
- 美九歿、享年二十八、伊豆にて水死す。

二四 壬子

- 長翠、春秋庵を繼ぐ。
- 曉臺、北國へ行脚す。
- 馬光の門人等相謀り關口に芭蕉庵を建て、芭蕉自筆の短冊、五月雨に隠れぬものや瀬田の橋、を埋めて塚を築く、之を五月雨塚と云ふ。
- 義仲寺に粟津文庫建つ。
- ▲續深川集(梅人)、 ▲水の月(青羅退善)、 ▲暮雨句集(日人、寫本)
- ▲鶺鴒の音(馬來)、 ▲七百五十韻(知足)、 ▲簀のたけ(桃溪句集)
- ▲雪月花
- 入江樵風生。
- 曉臺歿、正月二十日、享年六十一、京都寺町大雲院に葬る、加藤氏、又草村氏、通稱平兵衛、暮雨庵、白一居、龍門、買夜子、周舉の號あり、白尼門、尾州名古屋の人。
- 牛吞歿、三月五日、享年七十、徳山齋、米庵、初貞風、又徳山と號す、初貞山、後米仲門、江戸の人。
- 嘉栗歿、四月二十四日、享年五十三、永井氏。
- 晚得歿、秋、牛島庵、哲得庵、木雁、哲阿彌、初堪露、北齋、朝四の號あり、初世存義門、江戸の人。
- ▲ゆりの集(幾曉)、 ▲新類題集(蝶夢)、 ▲もゝとせの冬(古聲)

一〇五 癸丑

- ▲繼ばし(梅人)、 ▲品えらび(定雅)、 ▲俳諧古集之辨(遲日)
- ▲新花摘(騏道)、
- 山邊清民生。
- 都雀歿、三月十二日、高城氏、菊溪庵と號す、文誰門、京都の人、門跡の家士、一説に此日歿するに非ず、芭蕉翁百回忌に當るを以て報恩の爲め自ら薙髮して宗賀坊と號す、句あり、染墨の袖にも吹くぞ春の風。
- 末角歿、三月二十九日、享年六十八、釋氏、名は明隨、葡萄坊と號す、江州堅田本福寺十五世の住職、千那の曾孫。
- 東水歿、五月二十日、荒木氏。
- 左籬(二世)歿、五月二十一日(或云三月)、淺草權寺に葬る、笠家氏、初垣氏、幽雲齋、楠歳庵、弄花坊、初桃義、又貫羅と號す、初世左籬門、江戸の人。
- 士明歿、七月七日、土屋氏。
- 蕭翠歿、十月三日。
- 闌更、花の本宗匠となる。
- 大島完來、京に登る。
- 芭蕉翁百回忌。